様式1

大学等名	筑紫女学園大学
プログラム名	データサイエンス教育プログラム

リテラシーレベルのプログラムを構成する授業科目について

① 教育プログラムの修了要件					学部・学科によって、修了要件は相	違しな	い	
② 対象となる学部・学科名称								
③ 修了要件	エト.フ 甘	体油	E 1000	€ 1 □ (三つ出げた かんしょう			
② 第2 となる学部・学科名称 ② 修了要件 「情報処理基礎漢晉」および「データサイエンス基礎漢晉」の2科目(計2単位)を取得すること。 必要最低科目数・単位数 2 科目 2 単位 魔蝽必須の有無 **和66年度以明より、度移することが必然の720プラムとして3 ④ 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密に統むついている」の内容を含む投業科目 単位数 必須 1-1 1・6 授業科目 単位数 必須 1-1 1・7 「一クサイエンス基礎漢書 1 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○								
必要最低科目数·単位数 2 科目	1	2	単位		履修必須の有無 令和6年度以前より、履修することが必	須のプロ?	グラムとし	ンて実施
	π̀. Socie	etv 5.0	- . デー·	タ駆動	型社会等)に深く寄与しているものであり、それが	自らの	生活と	密接
に結びついている」の内容を含む授業科目	. ,	,	•	33				
	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目 単位数	2 必須	1-1	1-6
データサイエンス基礎演習	1	0	0	0		—		
						\vdash		
						1		
						<u> </u>		
						<u> </u>	<u> </u>	
	タの活用	領域」	は非常	常に広	範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する	有用な	ドツーノ	レにな
授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目 単位数	7 必須	1-2	1-3
データサイエンス基礎演習	1	0	0	0				
						—	<u> </u>	
						\vdash		
						+		
⑥ 「様々なデータ利活用の現場におけるデ	一タ利流	f用事 [,]	例が示	され、	様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、イ	ンフラ	、公共	、ヘル
スケア等)の知見と組み合わせることで価値	を創出	するも	ທົ່ງທ _ີ	内容を	含む授業科目			
	単位数	1			授業科目 単位数	. 必須	1-4	1-5
データサイエンス基礎演習	1	0	0	0		₩		
						\vdash		
						<u> </u>	<u> </u>	
⑦「活用に当たっての様々な留意事項(EL 守る上での留意事項への理解をする」の内	SI、個人 容を含む	情報、	データ 科目	倫理、	AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報	及漏洩	等、デ-	ータを
授業科目	_		1	3-2	授業科目 単位数	2 必須	3-1	3-2
情報処理基礎演習	1	0	0	0				
						\perp	<u> </u>	
						₩		
						+-	-	
						†	1	

⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
データサイエンス基礎演習	1	0	0	0	0						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

CIN I I I I I I I I I I I I I I I I I I			
授業科目	選択項目	授業科目	選択項目
データサイエンス基礎演習	4-1統計および数理基礎		
·			

⑪ プログラムを構成する授業の内容

プログラムを構成	. 9 6 ts	
授業に含まれている内容	容・要素	講義内容
(1)現在進行中の社会 変化(第4次産業革 命、Society 5.0、データ 駆動型社会等)に深く		・ビッグデータ、IoT、AI、ロボット(データサイエンス基礎演習 第2回) ・データ量の増加、計算機の処理性能の向上、AIの非連続的進化(データサイエンス基礎演習 第2回) ・第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会(データサイエンス基礎演習 第2回) ・複数技術を組み合わせたAIサービス(データサイエンス基礎演習 第2回) ・人間の知的活動とAIの関係性(データサイエンス基礎演習 第2回) ・データを起点としたものの見方、人間の知的活動を起点としたものの見方(データサイエンス基礎演習 第2回)
寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-6	・AI等を活用した新しいビジネスモデル(シェアリングエコノミー、商品のレコメンデーションなど)(データサイエンス基礎演習 第4回)・AI最新技術の活用例(深層生成モデル、敵対的生成ネットワーク、強化学習、転移学習など)(データサイエンス基礎演習 第4回)
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広節囲であって、日	1-2	・調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータなど(データサイエンス基礎演習 第2回) ・1次データ、2次データ、データのメタ化(データサイエンス基礎演習 第2回) ・構造化データ、非構造化データ(文章、画像/動画、音声/音楽など)(データサイエンス基礎演習 第2回) ・データ作成(ビッグデータとアノテーション)(データサイエンス基礎演習 第2回) ・データのオープン化(オープンデータ)(データサイエンス基礎演習 第2回)
に仏和田とのフには 常生活や社会の課題 を解決する有用なツー ルになり得るもの	1-3	・データ・AI活用領域の広がり(生産、消費、文化活動など)(データサイエンス基礎演習 第3回) ・研究開発、調達、製造、物流、販売、マーケティング、サービスなど(データサイエンス基礎演習 第3回) ・仮説検証、知識発見、原因究明、計画策定、判断支援、活動代替、新規生成など(データサイエンス基礎演習 第3回)
(3)様々なデータ利活 用の現場におけるデー タ利活用事例が示さ れ、様々な適用領域 (流通、製造、金融、	1-4	・データ解析: 予測、グルーピング、パターン発見、最適化、シミュレーション・データ同化など(データサイエンス基礎演習 第3回) ・データ可視化: 複合グラフ、2軸グラフ、多次元の可視化、関係性の可視化、地図上の可視化、挙動・軌跡の可視化、リアルタイム可視化など (データサイエンス基礎演習 第3回) ・非構造化データ処理: 言語処理、画像/動画処理、音声/音楽処理など(データサイエンス基礎演習 第3回) ・特化型ALと汎用AI、今のAIで出来ることと出来ないこと、AIとビッグデータ(データサイエンス基礎演習 第3回) ・認識技術、ルールベース、自動化技術(データサイエンス基礎演習 第3回)
サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-5	・データサイエンスのサイクル(課題抽出と定式化、データの取得・管理・加工、探索的データ解析、データ解析と推論、結果の共有・伝達、課題解決に向けた提案)(データサイエンス基礎演習 第4回)・流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI利活用事例紹介(データサイエンス基礎演習 第4回)

(4)活用に当たっての 様々な留意事項 (ELSI、個人情報、 データ倫理、AI社会原 則等)を考慮し、情報	3-1	*ELSI(Ethical, Legal and Social Issues)(情報処理基礎演習 第12、13回) *個人情報保護、EU一般データ保護規則(GDPR)、忘れられる権利、オプトアウト(情報処理基礎演習 第12、13回) *データ倫理・データのねつ造、改ざん、盗用、プライパシー保護(情報処理基礎演習 第12、13回) *AI社会原則(公平性、説明責任、透明性、人間中心の判断)(情報処理基礎演習 第12、13回) *データバイアス、アルゴリズムバイアス(情報処理基礎演習 第12、13回) *AIサービスの責任論(情報処理基礎演習 第12、13回) *データ・AI活用における負の事例紹介(情報処理基礎演習 第12、13回)
セキュリティや情報漏 洩等、データを守る上 での留意事項への理 解をする	3-2	・情報セキュリティ:機密性、完全性、可用性(情報処理基礎演習 第14回) ・匿名加工情報、暗号化、パスワード、悪意ある情報搾取(情報処理基礎演習 第14回) ・情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介(情報処理基礎演習 第14回)
	2-1	・データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)(データサイエンス基礎演習 第6、9、10回)・代表値の性質の違い(実社会では平均値=最頻値でないことが多い)(データサイエンス基礎演習 第6回)・データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値)(データサイエンス基礎演習 第7回)・クロス集計表、分割表、相関係数行列、散布図行列(データサイエンス基礎演習 第12回)
(5)実データ・実課題 (学術データ等を含む) を用いた演習など、社 会での実例を題材とし で、「データを読むと説 明する、扱う」といった 数理・データサイエン ス・AIの基本的な活用 法に関するもの	2-2	・データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップ)(データサイエンス基礎演習 第11回) ・優れた可視化事例の紹介(可視化することによって新たな気づきがあった事例など)(データサイエンス基礎演習 第5、6、7、9、10回)
	2-3	・データの集計(和、平均)(データサイエンス基礎演習 第6回) ・データの並び替え、ランキング(データサイエンス基礎演習 8回) ・データ解析ツール(スプレッドシート)(データサイエンス基礎演習 8回) ・表形式のデータ(csv)(データサイエンス基礎演習 8回)

① プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

- ・今後のデジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常の生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的な知識・能力を
- ・う後のデンタル社会において、数年・アー・ファイエンス ARE LITEが上記、正子 3 シング こん・ ロップログラング 身に付けること。 身に付けること。 ・学修した数理・データサイエンス・AIに関する知識・技能 をベースに、これらを扱う際には、人間中心の適切な判断ができ、不安なく自ら の意志でAI等の恩恵を享受し、これらを説明・活用できる能力を身に付けること。

様式2

筑紫女学園大学

リテラシーレベルのプログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度	令和6	年度(和暦)		
②大学等全体の男女別学生数		男性 0人	女性 2081 人	(合計 2081 人)
(会和6年5月1日時占)				<u></u>

③履修者・修了者の実績

学部•学科名称	学生数	入学 定員	収容	令和(6年度	令和:	5年度	令和4	4年度	令和:	3年度	令和:	2年度	令和范	元年度	履修者数	履修率
于即于打石物	于工奴	定員	定員	履修者数	修了者数	合計	ルタルター										
文学部	776	270	1,096	148	122											148	14%
人間科学部	1,013	280	1,120	205	192											205	18%
現代社会学部	292	120	480	53	49											53	11%
																0	0%
																0	0%
																0	0%
																0	0%
																0	0%
																0	0%
																0	0%
																0	0%
																0	0%
																0	0%
																0	0%
																0	0%
																0	0%
																0	0%
																0	0%
																0	0%
																0	0%
合 計	2,081	670	2,696	406	363	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	406	15%

		様式3
大学等名	筑紫女学園大学	
•		
めの体制	計画について	

教育の質・履修者数を向上させるた

1	全学の教員数	(常勤)	85	人	(非常勤)	182]人
2	プログラムの授業	を教えている	教員数			5]人
3	プログラムの運営	責任者					
	(責任者名)	石原 努			(役職名)	教学部長	
4	プログラムを改善	・進化させるが	ための体制(委員会	会∙쇪	且織等)		
	教学推進会議						
	(責任者名)	石原 努			(役職名)	教学部長	
(5)	プログラムを改善	・進化させるが	ための体制を定め	る規	則名称		
	筑紫女学園大学		内規				
6	体制の目的						
	統合教育センター	及び情報化・	・ICT活用推進セン	ター	-の任務及	び業務について審	議し、統合教

育センター及び情報化・ICT活用推進センターの円滑な執行を図ることを目的とする。

⑦ 具体的な構成員

本会議は、次に掲げる委員をもって構成する。

- (1) 教学部長:人間科学部 人間科学科 初等教育·幼児保育専攻 教授 石原 努
- (2) 統合教育センター長: 人間科学部 人間科学科 初等教育・幼児保育専攻 教授 石原 努 情報化・ICT活用推進センター長: 人間科学部人間科学科 心理・社会福祉専攻 准教授 持尾 弘司
- (3) 各学科・専攻の教育職員:
- 文学部 日本語・日本文学科 教授 森田 真也
- 文学部 英語学科 教授 荒巻 龍也
- 文学部 アジア文化学科 准教授 横山 豪志
- 人間科学部人間科学科 心理・社会福祉専攻 准教授 持尾 弘司
- 人間科学部 人間科学科 初等教育・保育専攻 准教授 今里 順一
- 現代社会学部 現代社会学科 教授 佐々木 浩
- (4) 教学支援部長: 教学支援部 田中 正人

(8)履修者数・履修率の向	1上に向けた計画	※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載するこ
(ク //女 ・夕 ロ タメタ //女 ・夕 一 Vノ ゚		- 冷休式 い 復修必須の有無」 (・ 計画かめる) こしている場合は計画について記載する

令和6年度実績	15%	令和7年度予定	45%	令和8年度予定	70%
令和9年度予定	100%	令和10年度予定	100%	収容定員(名)	2,696

具体的な計画

「データサイエンス教育プログラム」は、令和6年度より開始した取り組みであり、同年度の入学生からを対象に実施している。本プログラムを構成する科目は、全て1年次に開講される全学部共通科目かつ卒業要件必修科目である。全学生が必ず、本プログラムを履修する仕組みとしており、令和9年度以降にはプログラム履修率を100%とする。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

本プログラムを構成する「情報処理基礎演習」および「データサイエンス基礎演習」は、全学共通科目かつ1年次科目として開講しているため、令和6年度以降の入学者は、学部・学科を問わず、全員が受講可能としている。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

本プログラムを構成する「情報処理基礎演習」および「データサイエンス基礎演習」は、いずれも1年次から開講される卒業要件必修科目である。1年次の履修登録時には各学科・専攻のガイダンスにおいて履修指導を実施する。

11)	できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制 「情報処理基礎演習」および「データサイエンス基礎演習」は、全学共通科目かつ1年次開講称目として位置づけられており、学部・学科を問わず履修可能である。各学科・コースのカリキュムに柔軟に対応するため、複数の曜日・時限にわたり、学科・コースごとにクラスを設置し、履修しやすい体制を整えている。
12)	授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み 授業シラバスにはオフィスアワーの時間帯を明記し、授業外における学生からの質問に対応する体制を整備している。加えて、Microsoft 365の環境を活用し、Microsoft Teamsを通じてオンラインでの対応も実施しており、オフィスアワー以外の時間帯においても質問の受付が可能な体制としている。 また、授業の中間期および期末には、アンケートを通じて学生からの意見や改善要望をもとに授業内容や運営方法の改善を図っている。

様式4

大学等名 筑紫女学園大学

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

統合教育センター/情報化・ICT活用推進センター

(責任者名) 石原 努/持尾 弘司

(役職名) 統合教育センター長/情報化・ICT活用推進センター長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	令和6年度より、本プログラムを開始し、同年度以降の入学者から適用している。プログラムを構成する「情報処理基礎演習」および「データサイエンス基礎演習」は、全学共通の卒業要件必修科目として1年次に開講しており、入学者には卒業要件必修科目でもある当該プログラムを履修するよう指導している。令和6年度入学者全体のプログラム履修率は96.0%。内プログラム修得率は、89.4%となった。
	教育プログラムの各科目で実施する「授業アンケート」の中で、受講した学生が感じている「学修成果(知識やスキルがの程度身に付いたか)」を聞き取り、学生が苦手意識を持っている学修項目を明らかにした。これらの項目の学修成果が高まるように、来年度に向けて授業内容の改善を図っている。
学修成果	
学生アンケート等を通じた 学生の内容の理解度	本学では、全ての授業科目を対象に「授業に関するアンケート」を年間4回(前期中間・前期期末・後期中間・後期期末)実施している。アンケートには自由記述欄を設けており、学生からの率直な意見を収集できるようにしている。結果は、担当教員が確認した後、フィードバックとして履修者に対しコメントを記述し、共有する仕組みとしている。これのアンケートは、自己点検・評価活動とあわせて、本プログラムに関する検証および分析における基礎データとして活りしている。あわせて、授業内では小テストや課題を通じて学生の理解度を把握している。本プログラム構成科目の理解度(5点満点中)は以下の通り。・「情報処理基礎演習」:平均3,94pt・「データサイエンス基礎演習」:平均4.15pt
学生アンケート等を通じた 後輩等他の学生への推奨 度	本学では、すべての授業科目を対象に「授業に関するアンケート」を年間4回(前期中間と期末、後期中間と期末)実施ている。期末アンケートには、「この授業を後輩にも勧めたいか」という設問を含んでおり、「大いにそう思う」から「全くそう思うない」までの5段階で評価を得ることで、授業の推奨度を把握できるようにしている。本プログラム構成科目の評価(5点満点中)は以下の通り。 ・「情報処理基礎演習」:平均3.89pt ・「データサイエンス基礎演習」:平均3.98pt

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
全学的な履修者数、履修 率向上に向けた計画の達成・進捗状況	本プログラムを構成する科目は、1年次開講の全学共通科目であり、卒業要件を満たす必修科目として位置付けている。このため、入学時の履修登録に際しては、オリエンテーションの場で履修指導を実施している。令和6年度においては、1年生全体の96.0%が当該プログラムを履修した。履修登録漏れを防ぐため、各学科・コースにおいて履修指導を徹底している。
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	本プログラムは令和6年度に開始され、現時点では修了者がまだ在学中であり、進路状況については確定していない。 今後、修了者の進路について調査を実施予定であり、特に情報関連分野への就職を希望する学生も増えることが予想 される。
産業界からの視点を含め た教育プログラム内容・手 法等への意見	本プログラムについては、現時点で産業界からの直接的な意見は得ていないものの、教育課程および学修成果の点検・評価を依頼している企業に対して、本プログラムに関する意見を求める機会を設けることを検討している。
	社会で求められるインターネットを活用した情報探索・発信、ワードプロセッサ、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトを使用し、各回でテーマに沿った具体的な課題に取り組ませている。また、AIおよびデータサイエンスの最新の動向を踏まえ、社会の変化やデータ分析について演習を通じて学ばせることにより、段階的に学びを深めている。これにより、文系学生の苦手意識を軽減し、達成感を得ることで、学ぶ楽しさや意義を実感できるような授業を提供している。
内容・水準を維持・向上しつ	授業アンケートには、「授業の内容について十分に理解できた」「授業の難易度は適切であった」などの項目があり、それぞれを5段階(大いにそう思う、そう思う、どちらともいえない、そう思わない、全くそう思わない)で評価できる形式となっている。これらのアンケート結果は、担当教員が把握し、授業内容の改善に活用している。また、アンケート結果は全教職員にも開示されるため、担当教員だけでなく、統合教育センターにおいても授業内容および水準の維持・向上を図ることができる。

授業科目名	情報処理基礎演習 (日文Aクラス)	授業コード	10119001	科目ナンバリング (1、2 年次科目のみ)	cs1200201m
担当教員	持尾 弘司				
開講年度学期	2024年度前期	曜日時限	月曜1限	開講学科コース	日本語・日本文学科
配当学年	1年	授業形態	演習	単位数	1単位
科目の目的と概要	毎回、テーマに沿って具体的な課題に	社会生活で必須とされるインターネット(情報探索・発信)、ワードプロセッサ、表計算ソフトやプレゼンテーションソフト等の使い方を身に付ける。 毎回、テーマに沿って具体的な課題に取り組む。教科書には詳細な手順が記載されているので、参照しながら作業する。 また、情報技術、特にインターネット、またAIおよびビッグデータの活用についての基礎知識について学習する。			
到達目標【DPキーワード】	1. Wordを用いて、文字だけでなくオブジェクトを取り入れた多彩なレイアウトの文書を作成できる。「情報リテラシー」「論理的思考力」「チームワーク力」 2. PowerPointを用いて、プレゼンテーションデータを作成し実行することができる。「情報リテラシー」「論理的思考力」「コミュニケーション・スキル」 3. Excelを使って、表形式データの集計・分析・抽出をすることができる。「情報リテラシー」「論理的思考力」 4. インターネット、情報セキュリティ、AIおよびデータサイエンスの社会の中での位置づけとそこで求められる基礎的な態度、社会制度等について概要を説明することができる。「情報リテラシー」「論理的思考力」				
DP達成に向けて行う活動 【DPキーワード】	, , <u>E</u>				
関連する科目 「情報科学概論」「データサイエンス基礎演習」「データサイエンス応用演習A」「データサイエンス応用演習B」					
授業に関する情報(使用 するツール・課題の設定 場所など含)	演習素材の提供や課題の提出にはLMS(筑女ネット)を用いる。				

	授業回 授業テーマと内容	授業外学修 (予習復習含む) 【想定時間 (分)】	
第1回 (Word)基本的な文 落書式	書の作成:文字入力とかな漢字変換、ページ設定、文字書式、段	予習:教科書 p.5~p.12、p.64~p.78	
第2回 (Word)オブジェク	トの取り扱い:表、図形、画像(図・写真)	予習:教科書 p.79~p.92	
第3回(Word) 書式の応用 注、図表番号、スタイルの記	と発展: 箇条書き、編集記号、ヘッダーとフッター、段組み、脚 役定	予習:教科書 p.93~p.105	
第4回(Excel) Excelの基本 照、基本的な関数	sと関数の利用: データ入力、計算式と関数、相対参照と絶対参	予習:教科書 p.110~p.136	
第5回(Excel) 書式の設定 作成、グラフの貼り付け	、グラフ: 行・列・セルの書式、グラフの種類と構成、グラフの	予習: 教科書 p.140~p.162	
第6回(Excel)高度な関数: RANK、COUNTIF、SUMIF、ROUND、INT、IF、AND、OR、LOOKUP、INDEX、MATCH、TODAY、NOW、DATE 予習:教科書 p.136~p.139、p.163~p.174、p.188~p.190		予習:教科書 p.196~p.210	
第7回(Excel) データベートテーブル	ス・ビボットテーブル: リストデータ、並べ替え、抽出、ビボッ	予習:教科書 p.175~p.185	
第8回 (Powerpoint)プレゼン 理、文字入力、レイアウト、	マテーションの作成: プレゼンテーションの基礎、スライド管 図	予習:教科書 p.196~p.210	
第9回(Powerpoint)プレゼンテーションの構成、書式: 発表の組み立て、書式、画面切替効果、アニメーション、スライドショー、印刷		予習:教科書 p.211~p.232	
第10回 Word, Excel, Power	Point演習	復習: 教科書: p5~232	
第11回 (AI・データサイエ	ンスの心得)Alおよびビッグデータについての解説	復習:授業資料	
第12回 (AI・データサイエ	ンスの心得)データ・Alを扱う上での留意事項1	復習:授業資料	
第13回 (AI・データサイエ	ンスの心得)データ・Alを扱う上での留意事項2	復習:授業資料	
第14回 (AI・データサイエ	ンスの心得)データを守る上での留意事項	復習:授業資料	
アクティブ・ラーニング			
I C T活用 UNIPA等LMSによる、学習課題や学習教材の提示・配信、学習課題		題の提出等	
授業外学修時間 合計625分(約45分/週)が目安です。詳しくは各授業回の授業外		学修時間欄を参照してください。	

成績評価について (定期 試験など)	平素の成績によって評価する	3 (B~Eに記載)
成績評価 種別 成績評価 %割合		成績評価基準の詳細等
A.定期試験(筆記/レポート 試験/実技/口述)		
B.レポート(定期試験以外)	65	(Word, Excel, Powerpointについて)演習課題の完成と提出によって評価する。
C.小テスト等	25	(AI・データサイエンスの心得について)理解状況をを確認する小テストによって評価を行う。

D.成果発表		
E.受講態度	10	受講態度、出席状況、課題提出状況・小テスト受講状況による評価を行う。
- レボート筆)に対するフィー	Word課題、PowerPoint課題、Excel課題については採点結果(評価点)をLMS(筑女ネット)に表示する。 小テストについては筑女ネット上で実施し、結果は実施直後に画面上に表示される。	
成績評価に関する留意点		

教科書購入	必要あり(下記教科書を購入してください)			
教科書	書名	著者名	発行所	ISBN
教科書1	情報リテラシー教科書 ―Windows 11/Office 2022 版	1対応 矢野文彦	オーム社	
教科書2				
教科書3				
教科書4				
教科書に関するお知らせ				
指定図書				
参考図書				
授業に参考となるURL				
オフィスアワー	授業実施日の昼休みの時間帯をオフィスアワーとでた、メールでの問い合わせも受け付ける。	する。また、Teamsを利用したオンラインの	相談も受け付ける。事前にメールその作	也で連絡を行うこと。ま
授業に関する実務経験	なし			

	(1) 筑女DP(卒業までに身につく力)の積み上げ【日本語・日本文学科】:科目の修得に応じて	学修率
(1)-①	「倫理観・人間観」自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。	-
(1)-②	「自己管理能力」自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。	-
(1)-③	「チームワーク力」他者と協働して課題に取り組むことができる。	50%
(1)-④	「市民としての社会的責任・勤労観」社会の一員としての意識をもってその発展に関わることができる。	-
(2)-①	「コミュニケーション・スキル」多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができ る。	50%
(2)-②	「情報リテラシー」多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。	100%
(2)-③	「論理的思考力」獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。	50%
(2)-④	「問題解決力」社会の多様な問題を発見し、解決することができる。	-
(2)-⑤	「幅広い視野」人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。	-
(3)-①	「キャリアを構想する力」自己にふさわしいキャリアを構想できる。	-
(3)-②-1	「基礎的な専門性」日本の言語・文学・文化の学びに基づいて、適切なコミュニケーションを図る ことができる。	-
(3)-②-2	「基礎的な専門性」日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、的確な言語表現を行うことがで きる。	-
(3)-②-3	「基礎的な専門性」日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づき、多様な他者との関わりを通 して見いだした自己の考えを示すことができる。	-
(4)-①	「課題探究力」これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。	-

授業科目名	情報処理基礎演習 (日文Bクラス)	授業コード	10119002	科目ナンバリング (1、2 年次科目のみ)	cs1200201m
担当教員 富永 信一					
開講年度学期	2024年度前期	曜日時限	月曜1限	開講学科コース	日本語・日本文学科
配当学年	1年	授業形態	演習	単位数	1単位
科目の目的と概要	社会生活で必須とされるインターネット(情報探索・発信)、ワードプロセッサ、表計算ソフトやプレゼンテーションソフト等の使い方を身に付ける。 毎回、テーマに沿って具体的な課題に取り組む。教科書には詳細な手順が記載されているので、参照しながら作業する。 また、情報技術、特にインターネット、またAlおよびビックデータの活用についての基礎知識について学習する。				
到達目標【DPキーワード】	1. Wordを用いて、文字だけでなくオブジェクトを取り入れた多彩なレイアウトの文書を作成できる。「情報リテラシー」「論理的思考力」「チームワーク力」 2. PowerPointを用いて、プレゼンテーションデータを作成し実行することができる。「情報リテラシー」「論理的思考力」「コミュニケーション・スキル」 3. Excelを使って、表形式データの集計・分析・抽出をすることができる。「情報リテラシー」「論理的思考力」 4. インターネット、情報セキュリティ、AIおよびデータサイエンスの社会の中での位置づけとそこで求められる基礎的な態度、社会制度等について概要を説明することができる。「情報リテラシー」「論理的思考力」				コミュニケーション・スキル」
DP達成に向けて行う活動 【DPキーワード】	, , <u>E</u>				
関連する科目 「情報科学概論」「データサイエンス基礎演習」「データサイエンス応用演習A」「データサイエンス応用演習B」					
授業に関する情報(使用 するツール・課題の設定 場所など含)	ール・課題の設定 演習素材の提供や課題の提出にはLMS(筑女ネット)を用いる。				

授業回 授業テーマと内容		授業外学修 (予習復習含む) 【想定時間 (分)】	
第1回 (Word)基本的な文 落書式	書の作成:文字入力とかな漢字変換、ページ設定、文字書式、段	予習:教科書 p.5~p.12、p.64~p.78	
第2回 (Word)オブジェク	トの取り扱い:表、図形、画像(図・写真)	予習: 教科書 p.79~p.92	
第3回(Word) 書式の応用 注、図表番号、スタイルの記	と発展: 箇条書き、編集記号、ヘッダーとフッター、段組み、脚 役定	予習:教科書 p.93~p.105	
第4回(Excel) Excelの基本 照、基本的な関数	sと関数の利用: データ入力、計算式と関数、相対参照と絶対参	予習: 教科書 p.110~p.136	
第5回 (Excel) 書式の設定 作成、グラフの貼り付け	、グラフ: 行・列・セルの書式、グラフの種類と構成、グラフの	予習: 教科書 p.140~p.162	
LOOKUP, INDEX, MATCH	: RANK, COUNTIF, SUMIF, ROUND, INT, IF, AND, OR, H, TODAY, NOW, DATE , p.163~p.174, p.188~p.190	予習:教科書 p.196~p.210	
第7回(Excel) データベー. トテーブル	ス・ビボットテーブル: リストデータ、並べ替え、抽出、ビボッ	予習: 教科書 p.175~p.185	
第8回 (Powerpoint)プレゼン 理、文字入力、レイアウト、	マテーションの作成: プレゼンテーションの基礎、スライド管 図	予習:教科書 p.196~p.210	
第9回(Powerpoint)プレゼン 果、アニメーション、スライ	ンテーションの構成、書式: 発表の組み立て、書式、画面切替効 イドショー、印刷	予習:教科書 p.211~p.232	
第10回 Word, Excel, Powerl	Point演習	復習: 教科書: p5~232	
第11回 (AI・データサイエ	ンスの心得)Alおよびビッグデータについての解説	復習:授業資料	
第12回 (AI・データサイエ	ンスの心得)データ・Alを扱う上での留意事項1	復習:授業資料	
第13回 (AI・データサイエ	ンスの心得)データ・Alを扱う上での留意事項2	復習:授業資料	
第14回 (AI・データサイエ	ンスの心得)データを守る上での留意事項	復習:授業資料	
アクティブ・ラーニング			
ICT活用	UNIPA等LMSによる、学習課題や学習教材の提示・配信、学習課	題の提出等	
授業外学修時間	合計625分(約45分/週)が目安です。詳しくは各授業回の授業外	学修時間欄を参照してください。	

成績評価について (定期 試験など)	平素の成績によって評価する(B~Eに記載)		
成績評価 種別	成績評価 %割合	成績評価基準の詳細等	
A.定期試験(筆記/レポート 試験/実技/口述)			
B.レポート(定期試験以外)	65	(Word, Excel, Powerpointについて)演習課題の完成と提出によって評価する。	
C.小テスト等	25	(AI・データサイエンスの心得について)理解状況をを確認する小テストによって評価を行う。	

D.成果発表		
E.受講態度	10	受講態度、出席状況、課題提出状況・小テスト受講状況による評価を行う。
- レボート筆)に対するフィー	Word課題、PowerPoint課題、Excel課題については採点結果(評価点)をLMS(筑女ネット)に表示する。 小テストについては筑女ネット上で実施し、結果は実施直後に画面上に表示される。	
成績評価に関する留意点		

教科書購入	必要あり(下記教科書を購入してください)			
教科書	書名	著者名	発行所	ISBN
教科書1	情報リテラシー教科書 ―Windows 11/Office 2022 版	1対応 矢野文彦	オーム社	
教科書2				
教科書3				
教科書4				
教科書に関するお知らせ				
指定図書				
参考図書				
授業に参考となるURL				
オフィスアワー	授業実施日の昼休みの時間帯をオフィスアワーとする。また、Teamsを利用したオンラインの相談も受け付ける。事前にメールその他で連絡を行うこと。また、メールでの問い合わせも受け付ける。			
授業に関する実務経験	なし			

	(1) 筑女DP(卒業までに身につく力)の積み上げ【日本語・日本文学科】:科目の修得に応じて	学修率
(1)-①	「倫理観・人間観」自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。	-
(1)-②	「自己管理能力」自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。	-
(1)-③	「チームワーク力」他者と協働して課題に取り組むことができる。	50%
(1)-④	「市民としての社会的責任・勤労観」社会の一員としての意識をもってその発展に関わることができる。	-
(2)-①	「コミュニケーション・スキル」多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。	50%
(2)-(2)	「情報リテラシー」多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。	100%
(2)-③	「論理的思考力」獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。	50%
(2)-4	「問題解決力」社会の多様な問題を発見し、解決することができる。	-
(2)-(5)	「幅広い視野」人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。	-
(3)-①	「キャリアを構想する力」自己にふさわしいキャリアを構想できる。	-
(3)-②-1	「基礎的な専門性」日本の言語・文学・文化の学びに基づいて、適切なコミュニケーションを図る ことができる。	-
(3)-②-2	「基礎的な専門性」日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、的確な言語表現を行うことがで きる。	-
(3)-②-3	「基礎的な専門性」日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づき、多様な他者との関わりを通 して見いだした自己の考えを示すことができる。	-
(4)-①	「課題探究力」これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。	-

授業科目名	情報処理基礎演習 (英語)	授業コード	10119004	科目ナンバリング (1、2 年次科目のみ)	cs1200201m
担当教員	冨永 信一				
開講年度学期	2024年度前期	曜日時限	月曜2限	開講学科コース	英語学科
配当学年	1年	授業形態	演習	単位数	1単位
科目の目的と概要	社会生活で必須とされるインターネット(情報探索・発信)、ワードプロセッサ、表計算ソフトやプレゼンテーションソフト等の使い方を身に付ける。 毎回、テーマに沿って具体的な課題に取り組む。教科書には詳細な手順が記載されているので、参照しながら作業する。 また、情報技術、特にインターネット、またAIおよびビッグデータの活用についての基礎知識について学習する。				
到達目標【DPキーワード】	1. Wordを用いて、文字だけでなくオブジェクトを取り入れた多彩なレイアウトの文書を作成できる。「情報リテラシー」「論理的思考力」「チームワーク力」 2. PowerPointを用いて、プレゼンテーションデータを作成し実行することができる。「情報リテラシー」「論理的思考力」「コミュニケーション・スキル」 3. Excelを使って、表形式データの集計・分析・抽出をすることができる。「情報リテラシー」「論理的思考力」 4. インターネット、情報セキュリティ、Alおよびデータサイエンスの社会の中での位置づけとそこで求められる基礎的な態度、社会制度等について概要を説明することができる。「情報リテラシー」「論理的思考力」				
DP達成に向けて行う活動 【DPキーワード】	ネットワーク検索、文書生成、プレゼンテーション生成、情報技術の活用、AI・ビッグデータの理解「情報リテラシー」 データ整理と処理、文書やプレゼンテーションの構造化「論理的思考力」 メール、チャット、ビデオによるコミュニケーション、プレゼンテーション実行「コミュニケーション・スキル」 文書の共同管理、変更履歴の共有「チームワーク力」				
関連する科目	「情報科学概論」「データサイエンス基礎演習」「データサイエンス応用演習A」「データサイエンス応用演習B」				
授業に関する情報(使用 するツール・課題の設定 場所など含)	演習素材の提供や課題の提出にはLMS(筑女ネット)を用いる。				

授業回 授業テーマと内容		授業外学修 (予習復習含む) 【想定時間 (分)】
第1回(Word)基本的な文書の作成:文字入力とかな漢字変換、ページ設定、文字書式、段 落書式		予習:教科書 p.5~p.12、p.64~p.78
第2回 (Word)オブジェクトのI	取り扱い:表、図形、画像(図・写真)	予習: 教科書 p.79~p.92
第3回(Word) 書式の応用と発力 注、図表番号、スタイルの設定	展: 箇条書き、編集記号、ヘッダーとフッター、段組み、脚	予習:教科書 p.93~p.105
第4回(Excel) Excelの基本と関 照、基本的な関数	関数の利用: データ入力、計算式と関数、相対参照と絶対参	予習: 教科書 p.110~p.136
第5回(Excel) 書式の設定、グラ 作成、グラフの貼り付け	ラフ: 行・列・セルの書式、グラフの種類と構成、グラフの	予習: 教科書 p.140~p.162
第6回(Excel)高度な関数: RANK、COUNTIF、SUMIF、ROUND、INT、IF、AND、OR、LOOKUP、INDEX、MATCH、TODAY、NOW、DATE 予習:教科書 p.136~p.139、p.163~p.174、p.188~p.190		予習:教科書 p.196~p.210
第7回(Excel) データベース・ヒトテーブル	ビボットテーブル: リストデータ、並べ替え、抽出、ビボッ	予習:教科書 p.175~p.185
第8回 (Powerpoint)プレゼンテー 理、文字入力、レイアウト、図	- ションの作成: プレゼンテーションの基礎、スライド管	予習:教科書 p.196∼p.210
第9回 (Powerpoint)プレゼンテー 果、アニメーション、スライドシ	ーションの構成、書式: 発表の組み立て、書式、画面切替効 ショー、印刷	予習:教科書 p.211~p.232
第10回 Word, Excel, PowerPoint	t演習	復習:教科書:p5~232
第11回 (AI・データサイエンスの	の心得)Alおよびビッグデータについての解説	復習:授業資料
第12回 (AI・データサイエンスの心得) データ・AIを扱う上での留意事項1		復習:授業資料
第13回 (AI・データサイエンスの心得) データ・AIを扱う上での留意事項2		復習:授業資料
第14回 (AI・データサイエンスの心得) データを守る上での留意事項		復習:授業資料
アクティブ・ラーニング		
I C T活用 UNII	IPA等LMSによる、学習課題や学習教材の提示・配信、学習課題	頭の提出等
授業外学修時間合計	H625分(約45分/週)が目安です。詳しくは各授業回の授業外	学修時間欄を参照してください。

成績評価について (定期 試験など)	平素の成績によって評価する(B~Eに記載)	
成績評価 種別	成績評価 %割合	成績評価基準の詳細等
A.定期試験(筆記/レポート 試験/実技/口述)		
B.レポート (定期試験以外)	65	(Word, Excel, Powerpointについて)演習課題の完成と提出によって評価する。
C.小テスト等	25	(AI・データサイエンスの心得について)理解状況をを確認する小テストによって評価を行う。

D.成果発表		
E.受講態度	10	受講態度、出席状況、課題提出状況・小テスト受講状況による評価を行う。
- レボート筆)に対するフィー	Word課題、PowerPoint課題、Excel課題については採点結果(評価点)をLMS(筑女ネット)に表示する。 小テストについては筑女ネット上で実施し、結果は実施直後に画面上に表示される。	
成績評価に関する留意点		

教科書購入	必要あり(下記教科書を購入してください)			
教科書	書名	著者名	発行所	ISBN
教科書1	情報リテラシー教科書 ―Windows 11/Office 2022 版	1対応 矢野文彦	オーム社	
教科書2				
教科書3				
教科書4				
教科書に関するお知らせ				
指定図書				
参考図書				
授業に参考となるURL				
オフィスアワー	授業実施日の昼休みの時間帯をオフィスアワーとする。また、Teamsを利用したオンラインの相談も受け付ける。事前にメールその他で連絡を行うこと。また、メールでの問い合わせも受け付ける。			
授業に関する実務経験	なし			

	(1) 筑女DP(卒業までに身につく力)の積み上げ【日本語・日本文学科】:科目の修得に応じて	学修率
(1)-①	「倫理観・人間観」自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。	-
(1)-②	「自己管理能力」自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。	-
(1)-③	「チームワーク力」他者と協働して課題に取り組むことができる。	50%
(1)-④	「市民としての社会的責任・勤労観」社会の一員としての意識をもってその発展に関わることができる。	-
(2)-①	「コミュニケーション・スキル」多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができ る。	50%
(2)-②	「情報リテラシー」多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。	100%
(2)-③	「論理的思考力」獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。	50%
(2)-④	「問題解決力」社会の多様な問題を発見し、解決することができる。	-
(2)-⑤	「幅広い視野」人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。	-
(3)-①	「キャリアを構想する力」自己にふさわしいキャリアを構想できる。	-
(3)-②-1	「基礎的な専門性」日本の言語・文学・文化の学びに基づいて、適切なコミュニケーションを図る ことができる。	-
(3)-②-2	「基礎的な専門性」日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、的確な言語表現を行うことがで きる。	-
(3)-②-3	「基礎的な専門性」日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づき、多様な他者との関わりを通 して見いだした自己の考えを示すことができる。	-
(4)-①	「課題探究力」これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。	-

授業科目名	情報処理基礎演習 (アジアAクラス)	授業コード	10119005	科目ナンバリング (1、2 年次科目のみ)	cs1200201m
担当教員	小川 暢祐				
開講年度学期	2024年度前期	曜日時限	月曜1限	開講学科コース	アジア文化学科
配当学年	1年	授業形態	演習	単位数	1単位
科目の目的と概要	毎回、テーマに沿って具体的な課題に	社会生活で必須とされるインターネット(情報探索・発信)、ワードプロセッサ、表計算ソフトやプレゼンテーションソフト等の使い方を身に付ける。 毎回、テーマに沿って具体的な課題に取り組む。教科書には詳細な手順が記載されているので、参照しながら作業する。 また、情報技術、特にインターネット、またAIおよびビッグデータの活用についての基礎知識について学習する。			
到達目標【DPキーワード】	1. Wordを用いて、文字だけでなくオブジェクトを取り入れた多彩なレイアウトの文書を作成できる。「情報リテラシー」「論理的思考力」「チームワーク力」 2. PowerPointを用いて、プレゼンテーションデータを作成し実行することができる。「情報リテラシー」「論理的思考力」「コミュニケーション・スキル」 3. Excelを使って、表形式データの集計・分析・抽出をすることができる。「情報リテラシー」「論理的思考力」 4. インターネット、情報セキュリティ、Alおよびデータサイエンスの社会の中での位置づけとそこで求められる基礎的な態度、社会制度等について概要を説明することができる。「情報リテラシー」「論理的思考力」				
DP達成に向けて行う活動 【DPキーワード】	ネットワーク検索、文書生成、プレゼンテーション生成、情報技術の活用、AI・ビッグデータの理解「情報リテラシー」 データ整理と処理、文書やプレゼンテーションの構造化「論理的思考力」 メール、チャット、ビデオによるコミュニケーション、プレゼンテーション実行「コミュニケーション・スキル」 文書の共同管理、変更履歴の共有「チームワーク力」				
関連する科目	「情報科学概論」「データサイエンス基礎演習」「データサイエンス応用演習A」「データサイエンス応用演習B」				
授業に関する情報(使用 するツール・課題の設定 場所など含)	演習素材の提供や課題の提出にはLMS(筑女ネット)を用いる。				

授業回 授業テーマと内容		授業外学修 (予習復習含む) 【想定時間 (分)】	
第1回(Word)基本的な文書の作成:文字入力とかな漢字変換、ページ設定、文字書式、段 落書式		予習:教科書 p.5~p.12、p.64~p.78	
第2回 (Word)オブジェク	トの取り扱い:表、図形、画像(図・写真)	予習:教科書 p.79~p.92	
第3回(Word) 書式の応用 注、図表番号、スタイルの記	と発展: 箇条書き、編集記号、ヘッダーとフッター、段組み、脚 役定	予習:教科書 p.93~p.105	
第4回(Excel) Excelの基本 照、基本的な関数	sと関数の利用: データ入力、計算式と関数、相対参照と絶対参	予習:教科書 p.110~p.136	
第5回(Excel) 書式の設定 作成、グラフの貼り付け	、グラフ: 行・列・セルの書式、グラフの種類と構成、グラフの	予習: 教科書 p.140~p.162	
第6回(Excel)高度な関数: RANK、COUNTIF、SUMIF、ROUND、INT、IF、AND、OR、LOOKUP、INDEX、MATCH、TODAY、NOW、DATE 予習:教科書 p.136~p.139、p.163~p.174、p.188~p.190		予習:教科書 p.196~p.210	
第7回(Excel) データベートテーブル	ス・ビボットテーブル: リストデータ、並べ替え、抽出、ビボッ	予習:教科書 p.175~p.185	
第8回 (Powerpoint)プレゼン 理、文字入力、レイアウト、	マテーションの作成: プレゼンテーションの基礎、スライド管 図	予習:教科書 p.196~p.210	
第9回(Powerpoint)プレゼン 果、アニメーション、スライ	ンテーションの構成、書式: 発表の組み立て、書式、画面切替効 イドショー、印刷	予習:教科書 p.211~p.232	
第10回 Word, Excel, Power	Point演習	復習: 教科書: p5~232	
第11回 (AI・データサイエ	ンスの心得)Alおよびビッグデータについての解説	復習:授業資料	
第12回 (AI・データサイエ	ンスの心得)データ・Alを扱う上での留意事項1	復習:授業資料	
第13回 (AI・データサイエンスの心得)データ・AIを扱う上での留意事項2		復習:授業資料	
第14回 (AI・データサイエンスの心得) データを守る上での留意事項		復習:授業資料	
アクティブ・ラーニング			
ICT活用	UNIPA等LMSによる、学習課題や学習教材の提示・配信、学習課	題の提出等	
授業外学修時間 合計625分(約45分/週)が目安です。詳しくは各授業回の授業外学修		学修時間欄を参照してください。	

成績評価について (定期 試験など)	平素の成績によって評価する(B~Eに記載)	
成績評価 種別	成績評価 %割合	成績評価基準の詳細等
A.定期試験(筆記/レポート 試験/実技/口述)		
B.レポート(定期試験以外)	65	(Word, Excel, Powerpointについて)演習課題の完成と提出によって評価する。
C.小テスト等	25	(AI・データサイエンスの心得について)理解状況をを確認する小テストによって評価を行う。

D.成果発表		
E.受講態度	10	受講態度、出席状況、課題提出状況・小テスト受講状況による評価を行う。
- レボート筆)に対するフィー	Word課題、PowerPoint課題、Excel課題については採点結果(評価点)をLMS(筑女ネット)に表示する。 小テストについては筑女ネット上で実施し、結果は実施直後に画面上に表示される。	
成績評価に関する留意点		

教科書購入	必要あり(下記教科書を購入してください)			
教科書	書名	著者名	発行所	ISBN
教科書1	情報リテラシー教科書 ―Windows 11/Office 2022 版	1対応 矢野文彦	オーム社	
教科書2				
教科書3				
教科書4				
教科書に関するお知らせ				
指定図書				
参考図書				
授業に参考となるURL				
オフィスアワー	授業実施日の昼休みの時間帯をオフィスアワーとする。また、Teamsを利用したオンラインの相談も受け付ける。事前にメールその他で連絡を行うこと。また、メールでの問い合わせも受け付ける。			
授業に関する実務経験	なし			

	(1) 筑女DP(卒業までに身につく力)の積み上げ【日本語・日本文学科】:科目の修得に応じて	学修率
(1)-①	「倫理観・人間観」自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。	-
(1)-②	「自己管理能力」自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。	-
(1)-③	「チームワーク力」他者と協働して課題に取り組むことができる。	50%
(1)-④	「市民としての社会的責任・勤労観」社会の一員としての意識をもってその発展に関わることができる。	-
(2)-①	「コミュニケーション・スキル」多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができ る。	50%
(2)-②	「情報リテラシー」多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。	100%
(2)-③	「論理的思考力」獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。	50%
(2)-④	「問題解決力」社会の多様な問題を発見し、解決することができる。	-
(2)-⑤	「幅広い視野」人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。	-
(3)-①	「キャリアを構想する力」自己にふさわしいキャリアを構想できる。	-
(3)-②-1	「基礎的な専門性」日本の言語・文学・文化の学びに基づいて、適切なコミュニケーションを図る ことができる。	-
(3)-②-2	「基礎的な専門性」日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、的確な言語表現を行うことがで きる。	-
(3)-②-3	「基礎的な専門性」日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づき、多様な他者との関わりを通 して見いだした自己の考えを示すことができる。	-
(4)-①	「課題探究力」これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。	-

授業科目名	情報処理基礎演習 (アジアBクラス)	授業コード	10119006	科目ナンバリング (1、2 年次科目のみ)	cs1200201m
担当教員	多川 孝央				
開講年度学期	2024年度前期	曜日時限	月曜1限	開講学科コース	アジア文化学科
配当学年	1年	授業形態	演習	単位数	1単位
科目の目的と概要	毎回、テーマに沿って具体的な課題に	社会生活で必須とされるインターネット(情報探索・発信)、ワードプロセッサ、表計算ソフトやプレゼンテーションソフト等の使い方を身に付ける。 毎回、テーマに沿って具体的な課題に取り組む。教科書には詳細な手順が記載されているので、参照しながら作業する。 また、情報技術、特にインターネット、またAIおよびビッグデータの活用についての基礎知識について学習する。			等の使い方を身に付ける。
到達目標【DPキーワード】	1. Wordを用いて、文字だけでなくオブジェクトを取り入れた多彩なレイアウトの文書を作成できる。「情報リテラシー」「論理的思考力」「チームワーク力」 2. PowerPointを用いて、プレゼンテーションデータを作成し実行することができる。「情報リテラシー」「論理的思考力」「コミュニケーション・スキル」 3. Excelを使って、表形式データの集計・分析・抽出をすることができる。「情報リテラシー」「論理的思考力」 4. インターネット、情報セキュリティ、Alおよびデータサイエンスの社会の中での位置づけとそこで求められる基礎的な態度、社会制度等について概要を説明することができる。「情報リテラシー」「論理的思考力」				
DP達成に向けて行う活動 【DPキーワード】	ネットワーク検索、文書生成、プレゼンテーション生成、情報技術の活用、AI・ビッグデータの理解「情報リテラシー」 データ整理と処理、文書やプレゼンテーションの構造化「論理的思考力」 メール、チャット、ビデオによるコミュニケーション、プレゼンテーション実行「コミュニケーション・スキル」 文書の共同管理、変更履歴の共有「チームワーク力」				
関連する科目	「情報科学概論」「データサイエンス基礎演習」「データサイエンス応用演習A」「データサイエンス応用演習B」				
授業に関する情報(使用 するツール・課題の設定 場所など含)	演習素材の提供や課題の提出にはLMS(筑女ネット)を用いる。				

授業回 授業テーマと内容		授業外学修 (予習復習含む) 【想定時間 (分)】
第1回(Word)基本的な文書の作成:文字入力とかな漢字変換、ページ設定、文字書式、段 落書式		予習:教科書 p.5~p.12、p.64~p.78
第2回 (Word)オブジェクトのI	取り扱い:表、図形、画像(図・写真)	予習: 教科書 p.79~p.92
第3回(Word) 書式の応用と発力 注、図表番号、スタイルの設定	展: 箇条書き、編集記号、ヘッダーとフッター、段組み、脚	予習:教科書 p.93~p.105
第4回(Excel) Excelの基本と関 照、基本的な関数	関数の利用: データ入力、計算式と関数、相対参照と絶対参	予習: 教科書 p.110~p.136
第5回(Excel) 書式の設定、グラ 作成、グラフの貼り付け	ラフ: 行・列・セルの書式、グラフの種類と構成、グラフの	予習: 教科書 p.140~p.162
第6回(Excel)高度な関数:RAI LOOKUP、INDEX、MATCH、TC 予習:教科書 p.136~p.139、p.1		予習:教科書 p.196~p.210
第7回(Excel) データベース・ヒトテーブル	ビボットテーブル: リストデータ、並べ替え、抽出、ビボッ	予習:教科書 p.175~p.185
第8回 (Powerpoint)プレゼンテー 理、文字入力、レイアウト、図	- ションの作成: プレゼンテーションの基礎、スライド管	予習:教科書 p.196∼p.210
第9回 (Powerpoint)プレゼンテー 果、アニメーション、スライドシ	ーションの構成、書式: 発表の組み立て、書式、画面切替効 ショー、印刷	予習:教科書 p.211~p.232
第10回 Word, Excel, PowerPoint	t演習	復習:教科書:p5~232
第11回 (AI・データサイエンスの	の心得)Alおよびビッグデータについての解説	復習:授業資料
第12回 (AI・データサイエンスの	の心得)データ・AIを扱う上での留意事項1	復習:授業資料
第13回 (AI・データサイエンスの心得) データ・AIを扱う上での留意事項2		復習:授業資料
第14回 (AI・データサイエンスの心得) データを守る上での留意事項		復習:授業資料
アクティブ・ラーニング		
I C T活用 UNII	IPA等LMSによる、学習課題や学習教材の提示・配信、学習課題	頭の提出等
授業外学修時間 合計625分(約45分/週)が目安です。詳しくは各授業回の授業外学修時間欄を参照してください。		学修時間欄を参照してください。

成績評価について (定期 試験など)	平素の成績によって評価する(B~Eに記載)	
成績評価 種別	成績評価 %割合	成績評価基準の詳細等
A.定期試験(筆記/レポート 試験/実技/口述)		
B.レポート (定期試験以外)	65	(Word, Excel, Powerpointについて)演習課題の完成と提出によって評価する。
C.小テスト等	25	(AI・データサイエンスの心得について) 理解状況をを確認する小テストによって評価を行う。

D.成果発表		
E.受講態度	10	受講態度、出席状況、課題提出状況・小テスト受講状況による評価を行う。
	Word課題、PowerPoint課題、Excel課題については採点結果(評価点)をLMS(筑女ネット)に表示する。 小テストについては筑女ネット上で実施し、結果は実施直後に画面上に表示される。	
成績評価に関する留意点		

教科書購入	必要あり(下記教科書を購入してください)			
教科書	書名	著者名	発行所	ISBN
教科書1	情報リテラシー教科書 ―Windows 11/Office 2022 版	1対応 矢野文彦	オーム社	
教科書2				
教科書3				
教科書4				
教科書に関するお知らせ				
指定図書				
参考図書				
授業に参考となるURL				
オフィスアワー	授業実施日の昼休みの時間帯をオフィスアワーとする。また、Teamsを利用したオンラインの相談も受け付ける。事前にメールその他で連絡を行うこと。また、メールでの問い合わせも受け付ける。			
授業に関する実務経験	なし			

	(1) 筑女DP(卒業までに身につく力)の積み上げ【日本語・日本文学科】:科目の修得に応じて	学修率
(1)-①	「倫理観・人間観」自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。	-
(1)-②	「自己管理能力」自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。	-
(1)-③	「チームワーク力」他者と協働して課題に取り組むことができる。	50%
(1)-④	「市民としての社会的責任・勤労観」社会の一員としての意識をもってその発展に関わることができる。	-
(2)-①	「コミュニケーション・スキル」多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができ る。	50%
(2)-②	「情報リテラシー」多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。	100%
(2)-③	「論理的思考力」獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。	50%
(2)-④	「問題解決力」社会の多様な問題を発見し、解決することができる。	-
(2)-⑤	「幅広い視野」人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。	-
(3)-①	「キャリアを構想する力」自己にふさわしいキャリアを構想できる。	-
(3)-②-1	「基礎的な専門性」日本の言語・文学・文化の学びに基づいて、適切なコミュニケーションを図る ことができる。	-
(3)-②-2	「基礎的な専門性」日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、的確な言語表現を行うことがで きる。	-
(3)-②-3	「基礎的な専門性」日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づき、多様な他者との関わりを通 して見いだした自己の考えを示すことができる。	-
(4)-①	「課題探究力」これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。	-

授業科目名	情報処理基礎演習 (心理Aクラス)	授業コード	10119010	科目ナンバリング (1、2 年次科目のみ)	cs1200201m
担当教員	持尾 弘司				
開講年度学期	2024年度前期	曜日時限	水曜1限	開講学科コース	人間科学科 心理
配当学年	1年	授業形態	演習	単位数	1単位
科目の目的と概要	毎回、テーマに沿って具体的な課題に	社会生活で必須とされるインターネット(情報探索・発信)、ワードプロセッサ、表計算ソフトやプレゼンテーションソフト等の使い方を身に付ける。 毎回、テーマに沿って具体的な課題に取り組む。教科書には詳細な手順が記載されているので、参照しながら作業する。 また、情報技術、特にインターネット、またAIおよびビッグデータの活用についての基礎知識について学習する。			等の使い方を身に付ける。
到達目標【DPキーワード】	1. Wordを用いて、文字だけでなくオブジェクトを取り入れた多彩なレイアウトの文書を作成できる。「情報リテラシー」「論理的思考力」「チームワーク力」 2. PowerPointを用いて、プレゼンテーションデータを作成し実行することができる。「情報リテラシー」「論理的思考力」「コミュニケーション・スキル」 3. Excelを使って、表形式データの集計・分析・抽出をすることができる。「情報リテラシー」「論理的思考力」 4. インターネット、情報セキュリティ、Alおよびデータサイエンスの社会の中での位置づけとそこで求められる基礎的な態度、社会制度等について概要を説明することができる。「情報リテラシー」「論理的思考力」				
DP達成に向けて行う活動 【DPキーワード】	ネットワーク検索、文書生成、プレゼンテーション生成、情報技術の活用、AI・ビッグデータの理解「情報リテラシー」 データ整理と処理、文書やプレゼンテーションの構造化「論理的思考力」 メール、チャット、ビデオによるコミュニケーション、プレゼンテーション実行「コミュニケーション・スキル」 文書の共同管理、変更履歴の共有「チームワークカ」				
関連する科目	「情報科学概論」「データサイエンス基礎演習」「データサイエンス応用演習A」「データサイエンス応用演習B」				
授業に関する情報(使用 するツール・課題の設定 場所など含)	演習素材の提供や課題の提出にはLMS(筑女ネット)を用いる。				

	授業回 授業テーマと内容	授業外学修 (予習復習含む) 【想定時間 (分)】
第1回(Word)基本的な文書の作成:文字入力とかな漢字変換、ページ設定、文字書式、段 落書式		予習:教科書 p.5~p.12、p.64~p.78
第2回 (Word) オブジェクトの取り扱い:表、図形、画像(図・写真)		予習:教科書 p.79~p.92
第3回(Word) 書式の応用 注、図表番号、スタイルの記	と発展: 箇条書き、編集記号、ヘッダーとフッター、段組み、脚 役定	予習:教科書 p.93~p.105
第4回(Excel) Excelの基本 照、基本的な関数	sと関数の利用: データ入力、計算式と関数、相対参照と絶対参	予習:教科書 p.110~p.136
第5回(Excel) 書式の設定 作成、グラフの貼り付け	、グラフ: 行・列・セルの書式、グラフの種類と構成、グラフの	予習: 教科書 p.140~p.162
LOOKUP, INDEX, MATCH	: RANK, COUNTIF, SUMIF, ROUND, INT, IF, AND, OR, H, TODAY, NOW, DATE , p.163~p.174, p.188~p.190	予習:教科書 p.196~p.210
第7回(Excel) データベートテーブル	ス・ビボットテーブル: リストデータ、並べ替え、抽出、ビボッ	予習:教科書 p.175~p.185
第8回 (Powerpoint)プレゼン 理、文字入力、レイアウト、	マテーションの作成: プレゼンテーションの基礎、スライド管 図	予習:教科書 p.196~p.210
第9回(Powerpoint)プレゼン 果、アニメーション、スライ	ンテーションの構成、書式: 発表の組み立て、書式、画面切替効 イドショー、印刷	予習:教科書 p.211~p.232
第10回 Word, Excel, Power	Point演習	復習: 教科書: p5~232
第11回 (AI・データサイエ	ンスの心得)Alおよびビッグデータについての解説	復習:授業資料
第12回 (AI・データサイエ	ンスの心得)データ・Alを扱う上での留意事項1	復習:授業資料
第13回 (AI・データサイエ	ンスの心得)データ・Alを扱う上での留意事項2	復習:授業資料
第14回 (AI・データサイエンスの心得) データを守る上での留意事項		復習:授業資料
アクティブ・ラーニング		
ICT活用	UNIPA等LMSによる、学習課題や学習教材の提示・配信、学習課	題の提出等
授業外学修時間	授業外学修時間 合計625分(約45分/週)が目安です。詳しくは各授業回の授業外学修時間欄を参照してください。	

成績評価について (定期 試験など)	平素の成績によって評価する(B~Eに記載)	
成績評価 種別	成績評価 %割合	成績評価基準の詳細等
A.定期試験(筆記/レポート 試験/実技/口述)		
B.レポート(定期試験以外)	65	(Word, Excel, Powerpointについて)演習課題の完成と提出によって評価する。
C.小テスト等	25	(AI・データサイエンスの心得について)理解状況をを確認する小テストによって評価を行う。

D.成果発表		
E.受講態度	10	受講態度、出席状況、課題提出状況・小テスト受講状況による評価を行う。
- レボート筆)に対するフィー	Word課題、PowerPoint課題、Excel課題については採点結果(評価点)をLMS(筑女ネット)に表示する。 小テストについては筑女ネット上で実施し、結果は実施直後に画面上に表示される。	
成績評価に関する留意点		

教科書購入	必要あり(下記教科書を購入してください)			
教科書	書名	著者名	発行所	ISBN
教科書1	情報リテラシー教科書 ―Windows 11/Office 2022 版	1対応 矢野文彦	オーム社	
教科書2				
教科書3				
教科書4				
教科書に関するお知らせ				
指定図書				
参考図書				
授業に参考となるURL				
オフィスアワー	授業実施日の昼休みの時間帯をオフィスアワーとする。また、Teamsを利用したオンラインの相談も受け付ける。事前にメールその他で連絡を行うこと。また、メールでの問い合わせも受け付ける。			
授業に関する実務経験	なし			

	(1) 筑女DP(卒業までに身につく力)の積み上げ【日本語・日本文学科】:科目の修得に応じて	学修率
(1)-①	「倫理観・人間観」自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。	-
(1)-②	「自己管理能力」自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。	-
(1)-③	「チームワーク力」他者と協働して課題に取り組むことができる。	50%
(1)-④	「市民としての社会的責任・勤労観」社会の一員としての意識をもってその発展に関わることがで きる。	-
(2)-①	「コミュニケーション・スキル」多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができ る。	50%
(2)-②	「情報リテラシー」多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。	100%
(2)-③	「論理的思考力」獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。	50%
(2)-4	「問題解決力」社会の多様な問題を発見し、解決することができる。	-
(2)-⑤	「幅広い視野」人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。	-
(3)-①	「キャリアを構想する力」自己にふさわしいキャリアを構想できる。	
(3)-②-1	「基礎的な専門性」日本の言語・文学・文化の学びに基づいて、適切なコミュニケーションを図る ことができる。	-
(3)-②-2	「基礎的な専門性」日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、的確な言語表現を行うことがで きる。	-
(3)-②-3	「基礎的な専門性」日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づき、多様な他者との関わりを通 して見いだした自己の考えを示すことができる。	-
(4)-①	「課題探究力」これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。	

授業科目名	情報処理基礎演習 (心理Bクラス)	授業コード	10119011	科目ナンバリング (1、2 年次科目のみ)	cs1200201m
担当教員	多川 孝央				
開講年度学期	2024年度前期	曜日時限	水曜1限	開講学科コース	人間科学科 心理
配当学年	1年	授業形態	演習	単位数	1単位
科目の目的と概要	毎回、テーマに沿って具体的な課題に	社会生活で必須とされるインターネット(情報探索・発信)、ワードプロセッサ、表計算ソフトやプレゼンテーションソフト等の使い方を身に付ける。 毎回、テーマに沿って具体的な課題に取り組む。教科書には詳細な手順が記載されているので、参照しながら作業する。 また、情報技術、特にインターネット、またAIおよびビッグデータの活用についての基礎知識について学習する。			等の使い方を身に付ける。
到達目標【DPキーワード】	1. Wordを用いて、文字だけでなくオブジェクトを取り入れた多彩なレイアウトの文書を作成できる。「情報リテラシー」「論理的思考力」「チームワーク力」 2. PowerPointを用いて、プレゼンテーションデータを作成し実行することができる。「情報リテラシー」「論理的思考力」「コミュニケーション・スキル」 3. Excelを使って、表形式データの集計・分析・抽出をすることができる。「情報リテラシー」「論理的思考力」 4. インターネット、情報セキュリティ、Alおよびデータサイエンスの社会の中での位置づけとそこで求められる基礎的な態度、社会制度等について概要を説明することができる。「情報リテラシー」「論理的思考力」				
DP達成に向けて行う活動 【DPキーワード】	ネットワーク検索、文書生成、プレゼンテーション生成、情報技術の活用、AI・ビッグデータの理解「情報リテラシー」 データ整理と処理、文書やプレゼンテーションの構造化「論理的思考力」 メール、チャット、ビデオによるコミュニケーション、プレゼンテーション実行「コミュニケーション・スキル」 文書の共同管理、変更履歴の共有「チームワーク力」				
関連する科目	「情報科学概論」「データサイエンス基礎演習」「データサイエンス応用演習A」「データサイエンス応用演習B」				
授業に関する情報(使用 するツール・課題の設定 場所など含)	演習素材の提供や課題の提出にはLMS(筑女ネット)を用いる。				

授業回 授業テーマと内容		授業外学修 (予習復習含む) 【想定時間 (分)】	
第1回(Word)基本的な文書の作成:文字入力とかな漢字変換、ページ設定、文字書式、段 落書式		予習:教科書 p.5~p.12、p.64~p.78	
第2回 (Word)オブジェク	トの取り扱い:表、図形、画像(図・写真)	予習: 教科書 p.79~p.92	
第3回(Word) 書式の応用 注、図表番号、スタイルの記	と発展: 箇条書き、編集記号、ヘッダーとフッター、段組み、脚 役定	予習:教科書 p.93~p.105	
第4回(Excel) Excelの基本 照、基本的な関数	sと関数の利用: データ入力、計算式と関数、相対参照と絶対参	予習: 教科書 p.110~p.136	
第5回 (Excel) 書式の設定 作成、グラフの貼り付け	、グラフ: 行・列・セルの書式、グラフの種類と構成、グラフの	予習: 教科書 p.140~p.162	
LOOKUP, INDEX, MATCH	: RANK, COUNTIF, SUMIF, ROUND, INT, IF, AND, OR, H, TODAY, NOW, DATE , p.163~p.174, p.188~p.190	予習:教科書 p.196~p.210	
第7回(Excel) データベー. トテーブル	ス・ビボットテーブル: リストデータ、並べ替え、抽出、ビボッ	予習: 教科書 p.175~p.185	
第8回 (Powerpoint)プレゼン 理、文字入力、レイアウト、	マテーションの作成: プレゼンテーションの基礎、スライド管 図	予習:教科書 p.196~p.210	
第9回(Powerpoint)プレゼン 果、アニメーション、スライ	ンテーションの構成、書式: 発表の組み立て、書式、画面切替効 イドショー、印刷	予習:教科書 p.211~p.232	
第10回 Word, Excel, Powerl	Point演習	復習: 教科書: p5~232	
第11回 (AI・データサイエ	ンスの心得)Alおよびビッグデータについての解説	復習:授業資料	
第12回 (AI・データサイエ	ンスの心得)データ・Alを扱う上での留意事項1	復習:授業資料	
第13回 (AI・データサイエンスの心得)データ・AIを扱う上での留意事項2		復習:授業資料	
第14回 (AI・データサイエンスの心得) データを守る上での留意事項		復習:授業資料	
アクティブ・ラーニング			
ICT活用	UNIPA等LMSによる、学習課題や学習教材の提示・配信、学習課	題の提出等	
授業外学修時間 合計625分(約45分/週)が目安です。詳しくは各授業回の授業外学修		学修時間欄を参照してください。	

成績評価について (定期 試験など)	平素の成績によって評価する(B~Eに記載)	
成績評価 種別	成績評価 %割合	成績評価基準の詳細等
A.定期試験(筆記/レポート 試験/実技/口述)		
B.レポート(定期試験以外)	65	(Word, Excel, Powerpointについて)演習課題の完成と提出によって評価する。
C.小テスト等	25	(AI・データサイエンスの心得について)理解状況をを確認する小テストによって評価を行う。

D.成果発表		
E.受講態度	10	受講態度、出席状況、課題提出状況・小テスト受講状況による評価を行う。
	Word課題、PowerPoint課題、Excel課題については採点結果(評価点)をLMS(筑女ネット)に表示する。 小テストについては筑女ネット上で実施し、結果は実施直後に画面上に表示される。	
成績評価に関する留意点		

教科書購入	必要あり(下記教科書を購入してください)			
教科書	書名	著者名	発行所	ISBN
教科書1	情報リテラシー教科書 ―Windows 11/Office 2022 版	1対応 矢野文彦	オーム社	
教科書2				
教科書3				
教科書4				
教科書に関するお知らせ				
指定図書				
参考図書				
授業に参考となるURL				
オフィスアワー	授業実施日の昼休みの時間帯をオフィスアワーとする。また、Teamsを利用したオンラインの相談も受け付ける。事前にメールその他で連絡を行うこと。また、メールでの問い合わせも受け付ける。			
授業に関する実務経験	なし			

	(1) 筑女DP(卒業までに身につく力)の積み上げ【日本語・日本文学科】:科目の修得に応じて	学修率
(1)-①	「倫理観・人間観」自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。	-
(1)-②	「自己管理能力」自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。	-
(1)-③	「チームワーク力」他者と協働して課題に取り組むことができる。	50%
(1)-④	「市民としての社会的責任・勤労観」社会の一員としての意識をもってその発展に関わることがで きる。	-
(2)-①	「コミュニケーション・スキル」多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができ る。	50%
(2)-②	「情報リテラシー」多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。	100%
(2)-③	「論理的思考力」獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。	50%
(2)-4	「問題解決力」社会の多様な問題を発見し、解決することができる。	-
(2)-⑤	「幅広い視野」人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。	-
(3)-①	「キャリアを構想する力」自己にふさわしいキャリアを構想できる。	
(3)-②-1	「基礎的な専門性」日本の言語・文学・文化の学びに基づいて、適切なコミュニケーションを図る ことができる。	-
(3)-②-2	「基礎的な専門性」日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、的確な言語表現を行うことがで きる。	-
(3)-②-3	「基礎的な専門性」日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づき、多様な他者との関わりを通 して見いだした自己の考えを示すことができる。	-
(4)-①	「課題探究力」これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。	

授業科目名	情報処理基礎演習(福祉)	授業コード	10119009	科目ナンバリング (1、2 年次科目のみ)	cs1200201m
担当教員	一ノ瀬 元史				
開講年度学期	2024年度前期	曜日時限	水曜1限	開講学科コース	人間科学科 社福
配当学年	1年	授業形態	演習	単位数	1単位
科目の目的と概要	毎回、テーマに沿って具体的な課題に	社会生活で必須とされるインターネット(情報探索・発信)、ワードプロセッサ、表計算ソフトやプレゼンテーションソフト等の使い方を身に付ける。 毎回、テーマに沿って具体的な課題に取り組む。教科書には詳細な手順が記載されているので、参照しながら作業する。 また、情報技術、特にインターネット、またAIおよびビッグデータの活用についての基礎知識について学習する。			等の使い方を身に付ける。
到達目標【DPキーワード】	1. Wordを用いて、文字だけでなくオブジェクトを取り入れた多彩なレイアウトの文書を作成できる。「情報リテラシー」「論理的思考力」「チームワーク力」 2. PowerPointを用いて、ブレゼンテーションデータを作成し実行することができる。「情報リテラシー」「論理的思考力」「コミュニケーション・スキル」 3. Excelを使って、表形式データの集計・分析・抽出をすることができる。「情報リテラシー」「論理的思考力」 4. インターネット、情報セキュリティ、Alおよびデータサイエンスの社会の中での位置づけとそこで求められる基礎的な態度、社会制度等について概要を説明することができる。「情報リテラシー」「論理的思考力」				
DP達成に向けて行う活動 【DPキーワード】	ネットワーク検索、文書生成、プレゼンテーション生成、情報技術の活用、AI・ビッグデータの理解「情報リテラシー」 データ整理と処理、文書やプレゼンテーションの構造化「論理的思考力」 メール、チャット、ビデオによるコミュニケーション、プレゼンテーション実行「コミュニケーション・スキル」 文書の共同管理、変更履歴の共有「チームワーク力」				
関連する科目	「情報科学概論」「データサイエンス基礎演習」「データサイエンス応用演習A」「データサイエンス応用演習B」				
授業に関する情報(使用 するツール・課題の設定 場所など含)	演習素材の提供や課題の提出にはLMS(筑女ネット)を用いる。				

授業回 授業テーマと内容		授業外学修 (予習復習含む) 【想定時間 (分)】
第1回(Word)基本的な文書の作成:文字入力とかな漢字変換、ページ設定、文字書式、段 落書式		予習:教科書 p.5~p.12、p.64~p.78
第2回 (Word)オブジェク	トの取り扱い:表、図形、画像(図・写真)	予習:教科書 p.79~p.92
第3回(Word) 書式の応用 注、図表番号、スタイルの記	と発展: 箇条書き、編集記号、ヘッダーとフッター、段組み、脚 役定	予習:教科書 p.93~p.105
第4回(Excel) Excelの基本 照、基本的な関数	sと関数の利用: データ入力、計算式と関数、相対参照と絶対参	予習:教科書 p.110~p.136
第5回(Excel) 書式の設定 作成、グラフの貼り付け	、グラフ: 行・列・セルの書式、グラフの種類と構成、グラフの	予習: 教科書 p.140~p.162
第6回(Excel)高度な関数: RANK、COUNTIF、SUMIF、ROUND、INT、IF、AND、OR、LOOKUP、INDEX、MATCH、TODAY、NOW、DATE 予習:教科書 p.136~p.139、p.163~p.174、p.188~p.190		予習:教科書 p.196~p.210
第7回(Excel) データベートテーブル	ス・ビボットテーブル: リストデータ、並べ替え、抽出、ビボッ	予習:教科書 p.175~p.185
第8回 (Powerpoint)プレゼン 理、文字入力、レイアウト、	マテーションの作成: プレゼンテーションの基礎、スライド管 図	予習:教科書 p.196~p.210
第9回(Powerpoint)プレゼン 果、アニメーション、スライ	ンテーションの構成、書式: 発表の組み立て、書式、画面切替効 イドショー、印刷	予習:教科書 p.211~p.232
第10回 Word, Excel, Power	Point演習	復習: 教科書: p5~232
第11回 (AI・データサイエ	ンスの心得)Alおよびビッグデータについての解説	復習:授業資料
第12回 (AI・データサイエ	ンスの心得)データ・Alを扱う上での留意事項1	復習:授業資料
第13回 (AI・データサイエンスの心得) データ・AIを扱う上での留意事項2		復習:授業資料
第14回 (AI・データサイエンスの心得) データを守る上での留意事項		復習:授業資料
アクティブ・ラーニング		
ICT活用	UNIPA等LMSによる、学習課題や学習教材の提示・配信、学習課	題の提出等
授業外学修時間 合計625分(約45分/週)が目安です。詳しくは各授業回の授業外学修時間欄を参照してください。		学修時間欄を参照してください。

成績評価について (定期 試験など)	平素の成績によって評価する(B~Eに記載)	
成績評価 種別	成績評価 %割合	成績評価基準の詳細等
A.定期試験(筆記/レポート 試験/実技/口述)		
B.レポート (定期試験以外)	65	(Word, Excel, Powerpointについて)演習課題の完成と提出によって評価する。
C.小テスト等	25	(AI・データサイエンスの心得について)理解状況をを確認する小テストによって評価を行う。

D.成果発表		
E.受講態度	10	受講態度、出席状況、課題提出状況・小テスト受講状況による評価を行う。
	Word課題、PowerPoint課題、Excel課題については採点結果(評価点)をLMS(筑女ネット)に表示する。 小テストについては筑女ネット上で実施し、結果は実施直後に画面上に表示される。	
成績評価に関する留意点		

教科書購入	必要あり(下記教科書を購入してください)			
教科書	書名	著者名	発行所	ISBN
教科書1	情報リテラシー教科書 ―Windows 11/Office 2022 版	1対応 矢野文彦	オーム社	
教科書2				
教科書3				
教科書4				
教科書に関するお知らせ				
指定図書				
参考図書				
授業に参考となるURL				
オフィスアワー	授業実施日の昼休みの時間帯をオフィスアワーとする。また、Teamsを利用したオンラインの相談も受け付ける。事前にメールその他で連絡を行うこと。また、メールでの問い合わせも受け付ける。			
授業に関する実務経験	なし			

	(1) 筑女DP(卒業までに身につく力)の積み上げ【日本語・日本文学科】:科目の修得に応じて	学修率
(1)-①	「倫理観・人間観」自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。	-
(1)-②	「自己管理能力」自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。	-
(1)-③	「チームワーク力」他者と協働して課題に取り組むことができる。	50%
(1)-④	「市民としての社会的責任・勤労観」社会の一員としての意識をもってその発展に関わることができる。	-
(2)-①	「コミュニケーション・スキル」多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができ る。	50%
(2)-②	「情報リテラシー」多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。	100%
(2)-③	「論理的思考力」獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。	50%
(2)-④	「問題解決力」社会の多様な問題を発見し、解決することができる。	-
(2)-⑤	「幅広い視野」人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。	-
(3)-①	「キャリアを構想する力」自己にふさわしいキャリアを構想できる。	-
(3)-②-1	「基礎的な専門性」日本の言語・文学・文化の学びに基づいて、適切なコミュニケーションを図る ことができる。	-
(3)-②-2	「基礎的な専門性」日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、的確な言語表現を行うことがで きる。	-
(3)-②-3	「基礎的な専門性」日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づき、多様な他者との関わりを通 して見いだした自己の考えを示すことができる。	-
(4)-①	「課題探究力」これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。	-

授業科目名	情報処理基礎演習 (初等Aクラス)	授業コード	10119013	科目ナンバリング (1、2 年次科目のみ)	cs1200201m
担当教員	持尾 弘司				
開講年度学期	2024年度前期	曜日時限	水曜2限	開講学科コース	人間科学科 初教
配当学年	1年	授業形態	演習	単位数	1単位
科目の目的と概要	社会生活で必須とされるインターネット(情報探索・発信)、ワードプロセッサ、表計算ソフトやプレゼンテーションソフト等の使い方を身に付ける。 毎回、テーマに沿って具体的な課題に取り組む。教科書には詳細な手順が記載されているので、参照しながら作業する。 また、情報技術、特にインターネット、またAIおよびビッグデータの活用についての基礎知識について学習する。				
到達目標【DPキーワード】	1. Wordを用いて、文字だけでなくオブジェクトを取り入れた多彩なレイアウトの文書を作成できる。「情報リテラシー」「論理的思考力」「チームワーク力」 2. PowerPointを用いて、プレゼンテーションデータを作成し実行することができる。「情報リテラシー」「論理的思考力」「コミュニケーション・スキル」 3. Excelを使って、表形式データの集計・分析・抽出をすることができる。「情報リテラシー」「論理的思考力」 4. インターネット、情報セキュリティ、Alおよびデータサイエンスの社会の中での位置づけとそこで求められる基礎的な態度、社会制度等について概要を説明することができる。「情報リテラシー」「論理的思考力」				
DP達成に向けて行う活動 【DPキーワード】	ネットワーク検索、文書生成、プレゼンテーション生成、情報技術の活用、AI・ビッグデータの理解「情報リテラシー」 データ整理と処理、文書やプレゼンテーションの構造化「論理的思考力」 メール、チャット、ビデオによるコミュニケーション、プレゼンテーション実行「コミュニケーション・スキル」 文書の共同管理、変更履歴の共有「チームワーク力」				
関連する科目	「情報科学概論」「データサイエンス基礎演習」「データサイエンス応用演習A」「データサイエンス応用演習B」				
授業に関する情報(使用 するツール・課題の設定 場所など含)	演習素材の提供や課題の提出にはLMS(筑女ネット)を用いる。				

授業回 授業テーマと内容		授業外学修 (予習復習含む) 【想定時間 (分)】	
第1回(Word)基本的な文書の作成:文字入力とかな漢字変換、ページ設定、文字書式、段 落書式		予習:教科書 p.5~p.12、p.64~p.78	
第2回 (Word)オブジェク	トの取り扱い:表、図形、画像(図・写真)	予習: 教科書 p.79~p.92	
第3回(Word) 書式の応用 注、図表番号、スタイルの記	と発展: 箇条書き、編集記号、ヘッダーとフッター、段組み、脚 役定	予習:教科書 p.93~p.105	
第4回(Excel) Excelの基本 照、基本的な関数	sと関数の利用: データ入力、計算式と関数、相対参照と絶対参	予習: 教科書 p.110~p.136	
第5回 (Excel) 書式の設定 作成、グラフの貼り付け	、グラフ: 行・列・セルの書式、グラフの種類と構成、グラフの	予習: 教科書 p.140~p.162	
第6回 (Excel) 高度な関数: RANK、COUNTIF、SUMIF、ROUND、INT、IF、AND、OR、LOOKUP、INDEX、MATCH、TODAY、NOW、DATE 予習:教科書 p.136~p.139、p.163~p.174、p.188~p.190		予習:教科書 p.196~p.210	
第7回(Excel) データベー. トテーブル	ス・ビボットテーブル: リストデータ、並べ替え、抽出、ビボッ	予習: 教科書 p.175~p.185	
第8回 (Powerpoint)プレゼン 理、文字入力、レイアウト、	マテーションの作成: プレゼンテーションの基礎、スライド管 図	予習:教科書 p.196~p.210	
第9回(Powerpoint)プレゼン 果、アニメーション、スライ	ンテーションの構成、書式: 発表の組み立て、書式、画面切替効 イドショー、印刷	予習:教科書 p.211~p.232	
第10回 Word, Excel, Powerl	Point演習	復習: 教科書: p5~232	
第11回 (AI・データサイエ	ンスの心得)Alおよびビッグデータについての解説	復習:授業資料	
第12回 (AI・データサイエ	ンスの心得)データ・Alを扱う上での留意事項1	復習:授業資料	
第13回 (AI・データサイエンスの心得)データ・AIを扱う上での留意事項2		復習:授業資料	
第14回 (AI・データサイエンスの心得) データを守る上での留意事項		復習:授業資料	
アクティブ・ラーニング			
ICT活用	UNIPA等LMSによる、学習課題や学習教材の提示・配信、学習課	題の提出等	
授業外学修時間	合計625分(約45分/週)が目安です。詳しくは各授業回の授業外	学修時間欄を参照してください。	

成績評価について (定期 試験など)	平素の成績によって評価する(B~Eに記載)	
成績評価 種別	成績評価 %割合	成績評価基準の詳細等
A.定期試験(筆記/レポート 試験/実技/口述)		
B.レポート(定期試験以外)	65	(Word, Excel, Powerpointについて)演習課題の完成と提出によって評価する。
C.小テスト等	25	(AI・データサイエンスの心得について)理解状況をを確認する小テストによって評価を行う。

D.成果発表		
E.受講態度	10	受講態度、出席状況、課題提出状況・小テスト受講状況による評価を行う。
- レボート筆)に対するフィー	Word課題、PowerPoint課題、Excel課題については採点結果(評価点)をLMS(筑女ネット)に表示する。 小テストについては筑女ネット上で実施し、結果は実施直後に画面上に表示される。	
成績評価に関する留意点		

教科書購入	必要あり(下記教科書を購入してください)			
教科書	書名	著者名	発行所	ISBN
教科書1	情報リテラシー教科書 ―Windows 11/Office 2022 版	1対応 矢野文彦	オーム社	
教科書2				
教科書3				
教科書4				
教科書に関するお知らせ				
指定図書				
参考図書				
授業に参考となるURL				
オフィスアワー	授業実施日の昼休みの時間帯をオフィスアワーとする。また、Teamsを利用したオンラインの相談も受け付ける。事前にメールその他で連絡を行うこと。また、メールでの問い合わせも受け付ける。			
授業に関する実務経験	なし			

	(1) 筑女DP(卒業までに身につく力)の積み上げ【日本語・日本文学科】:科目の修得に応じて	学修率
(1)-①	「倫理観・人間観」自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。	-
(1)-②	「自己管理能力」自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。	-
(1)-③	「チームワーク力」他者と協働して課題に取り組むことができる。	50%
(1)-④	「市民としての社会的責任・勤労観」社会の一員としての意識をもってその発展に関わることがで きる。	-
(2)-①	「コミュニケーション・スキル」多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができ る。	50%
(2)-②	「情報リテラシー」多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。	100%
(2)-③	「論理的思考力」獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。	50%
(2)-④	「問題解決力」社会の多様な問題を発見し、解決することができる。	-
(2)-⑤	「幅広い視野」人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。	-
(3)-①	「キャリアを構想する力」自己にふさわしいキャリアを構想できる。	-
(3)-②-1	「基礎的な専門性」日本の言語・文学・文化の学びに基づいて、適切なコミュニケーションを図る ことができる。	-
(3)-②-2	「基礎的な専門性」日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、的確な言語表現を行うことがで きる。	-
(3)-②-3	「基礎的な専門性」日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づき、多様な他者との関わりを通 して見いだした自己の考えを示すことができる。	-
(4)-①	「課題探究力」これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。	-

授業科目名	情報処理基礎演習 (初等Bクラス)	授業コード	10119014	科目ナンバリング (1、2 年次科目のみ)	cs1200201m
担当教員	多川 孝央				
開講年度学期	2024年度前期	曜日時限	水曜2限	開講学科コース	人間科学科 初教
配当学年	1年	授業形態	演習	単位数	1単位
科目の目的と概要	社会生活で必須とされるインターネット (情報探索・発信)、ワードプロセッサ、表計算ソフトやプレゼンテーションソフト等の使い方を身に付ける。 毎回、テーマに沿って具体的な課題に取り組む。教科書には詳細な手順が記載されているので、参照しながら作業する。 また、情報技術、特にインターネット、またAIおよびビッグデータの活用についての基礎知識について学習する。				
到達目標【DPキーワード】	1. Wordを用いて、文字だけでなくオブジェクトを取り入れた多彩なレイアウトの文書を作成できる。「情報リテラシー」「論理的思考力」「チームワーク力」 2. PowerPointを用いて、プレゼンテーションデータを作成し実行することができる。「情報リテラシー」「論理的思考力」「コミュニケーション・スキル」 3. Excelを使って、表形式データの集計・分析・抽出をすることができる。「情報リテラシー」「論理的思考力」 4. インターネット、情報セキュリティ、Alおよびデータサイエンスの社会の中での位置づけとそこで求められる基礎的な態度、社会制度等について概要を説明することができる。「情報リテラシー」「論理的思考力」				
DP達成に向けて行う活動 【DPキーワード】	ネットワーク検索、文書生成、プレゼンテーション生成、情報技術の活用、AI・ビッグデータの理解「情報リテラシー」 データ整理と処理、文書やプレゼンテーションの構造化「論理的思考力」 メール、チャット、ビデオによるコミュニケーション、プレゼンテーション実行「コミュニケーション・スキル」 文書の共同管理、変更履歴の共有「チームワーク力」				
関連する科目	「情報科学概論」「データサイエンス基礎演習」「データサイエンス応用演習A」「データサイエンス応用演習B」				
授業に関する情報(使用 するツール・課題の設定 場所など含)	演習素材の提供や課題の提出にはLMS(筑女ネット)を用いる。				

授業回 授業テーマと内容		授業外学修 (予習復習含む) 【想定時間 (分)】	
第1回(Word)基本的な文書の作成:文字入力とかな漢字変換、ページ設定、文字書式、段 落書式		予習:教科書 p.5~p.12、p.64~p.78	
第2回 (Word)オブジェク	トの取り扱い:表、図形、画像(図・写真)	予習: 教科書 p.79~p.92	
第3回(Word) 書式の応用 注、図表番号、スタイルの記	と発展: 箇条書き、編集記号、ヘッダーとフッター、段組み、脚 役定	予習:教科書 p.93~p.105	
第4回(Excel) Excelの基本 照、基本的な関数	sと関数の利用: データ入力、計算式と関数、相対参照と絶対参	予習: 教科書 p.110~p.136	
第5回 (Excel) 書式の設定 作成、グラフの貼り付け	、グラフ: 行・列・セルの書式、グラフの種類と構成、グラフの	予習: 教科書 p.140~p.162	
第6回 (Excel) 高度な関数: RANK、COUNTIF、SUMIF、ROUND、INT、IF、AND、OR、LOOKUP、INDEX、MATCH、TODAY、NOW、DATE 予習:教科書 p.136~p.139、p.163~p.174、p.188~p.190		予習:教科書 p.196~p.210	
第7回(Excel) データベー. トテーブル	ス・ビボットテーブル: リストデータ、並べ替え、抽出、ビボッ	予習: 教科書 p.175~p.185	
第8回 (Powerpoint)プレゼン 理、文字入力、レイアウト、	マテーションの作成: プレゼンテーションの基礎、スライド管 図	予習:教科書 p.196~p.210	
第9回(Powerpoint)プレゼン 果、アニメーション、スライ	ンテーションの構成、書式: 発表の組み立て、書式、画面切替効 イドショー、印刷	予習:教科書 p.211~p.232	
第10回 Word, Excel, Powerl	Point演習	復習: 教科書: p5~232	
第11回 (AI・データサイエ	ンスの心得)Alおよびビッグデータについての解説	復習:授業資料	
第12回 (AI・データサイエ	ンスの心得)データ・Alを扱う上での留意事項1	復習:授業資料	
第13回 (AI・データサイエンスの心得)データ・AIを扱う上での留意事項2		復習:授業資料	
第14回 (AI・データサイエンスの心得) データを守る上での留意事項		復習:授業資料	
アクティブ・ラーニング			
ICT活用	UNIPA等LMSによる、学習課題や学習教材の提示・配信、学習課	題の提出等	
授業外学修時間	合計625分(約45分/週)が目安です。詳しくは各授業回の授業外	学修時間欄を参照してください。	

成績評価について (定期 試験など)	平素の成績によって評価する(B~Eに記載)	
成績評価 種別	成績評価 %割合	成績評価基準の詳細等
A.定期試験(筆記/レポート 試験/実技/口述)		
B.レポート(定期試験以外)	65	(Word, Excel, Powerpointについて)演習課題の完成と提出によって評価する。
C.小テスト等	25	(AI・データサイエンスの心得について)理解状況をを確認する小テストによって評価を行う。

D.成果発表		
E.受講態度	10	受講態度、出席状況、課題提出状況・小テスト受講状況による評価を行う。
- レボート筆)に対するフィー	Word課題、PowerPoint課題、Excel課題については採点結果(評価点)をLMS(筑女ネット)に表示する。 小テストについては筑女ネット上で実施し、結果は実施直後に画面上に表示される。	
成績評価に関する留意点		

教科書購入	必要あり(下記教科書を購入してください)			
教科書	書名	著者名	発行所	ISBN
教科書1	情報リテラシー教科書 ―Windows 11/Office 2022 版	1対応 矢野文彦	オーム社	
教科書2				
教科書3				
教科書4				
教科書に関するお知らせ				
指定図書				
参考図書				
授業に参考となるURL				
オフィスアワー	授業実施日の昼休みの時間帯をオフィスアワーとする。また、Teamsを利用したオンラインの相談も受け付ける。事前にメールその他で連絡を行うこと。また、メールでの問い合わせも受け付ける。			
授業に関する実務経験	なし			

	(1) 筑女DP(卒業までに身につく力)の積み上げ【日本語・日本文学科】:科目の修得に応じて	学修率
(1)-①	「倫理観・人間観」自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。	-
(1)-②	「自己管理能力」自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。	-
(1)-③	「チームワーク力」他者と協働して課題に取り組むことができる。	50%
(1)-④	「市民としての社会的責任・勤労観」社会の一員としての意識をもってその発展に関わることがで きる。	-
(2)-①	「コミュニケーション・スキル」多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができ る。	50%
(2)-②	「情報リテラシー」多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。	100%
(2)-③	「論理的思考力」獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。	50%
(2)-④	「問題解決力」社会の多様な問題を発見し、解決することができる。	-
(2)-⑤	「幅広い視野」人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。	-
(3)-①	「キャリアを構想する力」自己にふさわしいキャリアを構想できる。	-
(3)-②-1	「基礎的な専門性」日本の言語・文学・文化の学びに基づいて、適切なコミュニケーションを図る ことができる。	-
(3)-②-2	「基礎的な専門性」日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、的確な言語表現を行うことがで きる。	-
(3)-②-3	「基礎的な専門性」日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づき、多様な他者との関わりを通 して見いだした自己の考えを示すことができる。	-
(4)-①	「課題探究力」これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。	-

		1			
授業科目名	情報処理基礎演習 (幼保)	授業コード	10119012	科目ナンバリング (1、2 年次科目のみ)	cs1200201m
担当教員	一ノ瀬 元史				
開講年度学期	2024年度前期	曜日時限	水曜2限	開講学科コース	人間科学科 幼保
配当学年	1年	授業形態	演習	単位数	1単位
科目の目的と概要	毎回、テーマに沿って具体的な課題に	社会生活で必須とされるインターネット(情報探索・発信)、ワードプロセッサ、表計算ソフトやプレゼンテーションソフト等の使い方を身に付ける。 毎回、テーマに沿って具体的な課題に取り組む。教科書には詳細な手順が記載されているので、参照しながら作業する。 また、情報技術、特にインターネット、またAIおよびビッグデータの活用についての基礎知識について学習する。			
到達目標【DPキーワード】	1. Wordを用いて、文字だけでなくオブジェクトを取り入れた多彩なレイアウトの文書を作成できる。「情報リテラシー」「論理的思考力」「チームワーク力」 2. PowerPointを用いて、プレゼンテーションデータを作成し実行することができる。「情報リテラシー」「論理的思考力」「コミュニケーション・スキル」 3. Excelを使って、表形式データの集計・分析・抽出をすることができる。「情報リテラシー」「論理的思考力」 4. インターネット、情報セキュリティ、Alおよびデータサイエンスの社会の中での位置づけとそこで求められる基礎的な態度、社会制度等について概要を説明することができる。「情報リテラシー」「論理的思考力」				
DP達成に向けて行う活動 【DPキーワード】	ネットワーク検索、文書生成、プレゼンテーション生成、情報技術の活用、AI・ビッグデータの理解「情報リテラシー」 データ整理と処理、文書やプレゼンテーションの構造化「論理的思考力」 メール、チャット、ビデオによるコミュニケーション、プレゼンテーション実行「コミュニケーション・スキル」 文書の共同管理、変更履歴の共有「チームワーク力」				
関連する科目	「情報科学概論」「データサイエンス基礎演習」「データサイエンス応用演習A」「データサイエンス応用演習B」				
授業に関する情報(使用 するツール・課題の設定 場所など含)	演習素材の提供や課題の提出にはLMS(筑女ネット)を用いる。				

授業回 授業テーマと内容		授業外学修 (予習復習含む) 【想定時間 (分)】	
第1回(Word)基本的な文書の作成:文字入力とかな漢字変換、ページ設定、文字書式、段 落書式		予習:教科書 p.5~p.12、p.64~p.78	
第2回 (Word)オブジェク	トの取り扱い:表、図形、画像(図・写真)	予習: 教科書 p.79~p.92	
第3回(Word) 書式の応用 注、図表番号、スタイルの記	と発展: 箇条書き、編集記号、ヘッダーとフッター、段組み、脚 役定	予習:教科書 p.93~p.105	
第4回(Excel) Excelの基本 照、基本的な関数	sと関数の利用: データ入力、計算式と関数、相対参照と絶対参	予習: 教科書 p.110~p.136	
第5回 (Excel) 書式の設定 作成、グラフの貼り付け	、グラフ: 行・列・セルの書式、グラフの種類と構成、グラフの	予習: 教科書 p.140~p.162	
第6回 (Excel) 高度な関数: RANK、COUNTIF、SUMIF、ROUND、INT、IF、AND、OR、LOOKUP、INDEX、MATCH、TODAY、NOW、DATE 予習:教科書 p.136~p.139、p.163~p.174、p.188~p.190		予習:教科書 p.196~p.210	
第7回(Excel) データベー. トテーブル	ス・ビボットテーブル: リストデータ、並べ替え、抽出、ビボッ	予習: 教科書 p.175~p.185	
第8回 (Powerpoint)プレゼン 理、文字入力、レイアウト、	マテーションの作成: プレゼンテーションの基礎、スライド管 図	予習:教科書 p.196~p.210	
第9回(Powerpoint)プレゼン 果、アニメーション、スライ	ンテーションの構成、書式: 発表の組み立て、書式、画面切替効 イドショー、印刷	予習:教科書 p.211~p.232	
第10回 Word, Excel, Powerl	Point演習	復習: 教科書: p5~232	
第11回 (AI・データサイエ	ンスの心得)Alおよびビッグデータについての解説	復習:授業資料	
第12回 (AI・データサイエ	ンスの心得)データ・Alを扱う上での留意事項1	復習:授業資料	
第13回 (AI・データサイエンスの心得)データ・AIを扱う上での留意事項2		復習:授業資料	
第14回 (AI・データサイエンスの心得) データを守る上での留意事項		復習:授業資料	
アクティブ・ラーニング			
ICT活用	UNIPA等LMSによる、学習課題や学習教材の提示・配信、学習課	題の提出等	
授業外学修時間	合計625分(約45分/週)が目安です。詳しくは各授業回の授業外	学修時間欄を参照してください。	

成績評価について (定期 試験など)	平素の成績によって評価する(B~Eに記載)		
成績評価 種別	成績評価 %割合	成績評価基準の詳細等	
A.定期試験(筆記/レポート 試験/実技/口述)			
B.レポート (定期試験以外)	65	(Word, Excel, Powerpointについて)演習課題の完成と提出によって評価する。	
C.小テスト等	25	(AI・データサイエンスの心得について)理解状況をを確認する小テストによって評価を行う。	

D.成果発表		
E.受講態度	10	受講態度、出席状況、課題提出状況・小テスト受講状況による評価を行う。
- レボート筆)に対するフィー	Word課題、PowerPoint課題、Excel課題については採点結果(評価点)をLMS(筑女ネット)に表示する。 小テストについては筑女ネット上で実施し、結果は実施直後に画面上に表示される。	
成績評価に関する留意点		

教科書購入	必要あり(下記教科書を購入してください)			
教科書	書名	著者名	発行所	ISBN
教科書1	情報リテラシー教科書 ―Windows 11/Office 2022 版	1対応 矢野文彦	オーム社	
教科書2				
教科書3				
教科書4				
教科書に関するお知らせ				
指定図書				
参考図書				
授業に参考となるURL				
オフィスアワー	授業実施日の昼休みの時間帯をオフィスアワーとする。また、Teamsを利用したオンラインの相談も受け付ける。事前にメールその他で連絡を行うこと。また、メールでの問い合わせも受け付ける。			
授業に関する実務経験	なし			

	(1) 筑女DP(卒業までに身につく力)の積み上げ【日本語・日本文学科】:科目の修得に応じて	学修率
(1)-①	「倫理観・人間観」自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。	-
(1)-②	「自己管理能力」自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。	-
(1)-③	「チームワーク力」他者と協働して課題に取り組むことができる。	50%
(1)-④	「市民としての社会的責任・勤労観」社会の一員としての意識をもってその発展に関わることがで きる。	-
(2)-①	「コミュニケーション・スキル」多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができ る。	50%
(2)-②	「情報リテラシー」多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。	100%
(2)-③	「論理的思考力」獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。	50%
(2)-④	「問題解決力」社会の多様な問題を発見し、解決することができる。	-
(2)-⑤	「幅広い視野」人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。	-
(3)-①	「キャリアを構想する力」自己にふさわしいキャリアを構想できる。	-
(3)-②-1	「基礎的な専門性」日本の言語・文学・文化の学びに基づいて、適切なコミュニケーションを図る ことができる。	-
(3)-②-2	「基礎的な専門性」日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、的確な言語表現を行うことがで きる。	-
(3)-②-3	「基礎的な専門性」日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づき、多様な他者との関わりを通 して見いだした自己の考えを示すことができる。	-
(4)-①	「課題探究力」これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。	-

授業科目名	情報処理基礎演習 (現社Aクラス)	授業コード	10119007	科目ナンバリング (1、2 年次科目のみ)	cs1200201m
担当教員	小川 暢祐				
開講年度学期	2024年度前期	曜日時限	月曜2限	開講学科コース	現代社会学部共通
配当学年	1年	授業形態	演習	単位数	1単位
科目の目的と概要	社会生活で必須とされるインターネット (情報探索・発信)、ワードプロセッサ、表計算ソフトやプレゼンテーションソフト等の使い方を身に付ける。 毎回、テーマに沿って具体的な課題に取り組む。教科書には詳細な手順が記載されているので、参照しながら作業する。 また、情報技術、特にインターネット、またAIおよびビッグデータの活用についての基礎知識について学習する。				
到達目標【DPキーワード】	1. Wordを用いて、文字だけでなくオブジェクトを取り入れた多彩なレイアウトの文書を作成できる。「情報リテラシー」「論理的思考力」「チームワーク力」 2. PowerPointを用いて、プレゼンテーションデータを作成し実行することができる。「情報リテラシー」「論理的思考力」「コミュニケーション・スキル」 3. Excelを使って、表形式データの集計・分析・抽出をすることができる。「情報リテラシー」「論理的思考力」 4. インターネット、情報セキュリティ、Alおよびデータサイエンスの社会の中での位置づけとそこで求められる基礎的な態度、社会制度等について概要を説明することができる。「情報リテラシー」「論理的思考力」				
DP達成に向けて行う活動 【DPキーワード】	ネットワーク検索、文書生成、プレゼンテーション生成、情報技術の活用、AI・ビッグデータの理解「情報リテラシー」 データ整理と処理、文書やプレゼンテーションの構造化「論理的思考力」 メール、チャット、ビデオによるコミュニケーション、プレゼンテーション実行「コミュニケーション・スキル」 文書の共同管理、変更履歴の共有「チームワーク力」				
関連する科目	「情報科学概論」「データサイエンス基礎演習」「データサイエンス応用演習A」「データサイエンス応用演習B」				
授業に関する情報(使用 するツール・課題の設定 場所など含)	演習素材の提供や課題の提出にはLMS(筑女ネット)を用いる。				

授業回 授業テーマと内容		授業外学修 (予習復習含む) 【想定時間 (分)】	
第1回(Word)基本的な文書の作成:文字入力とかな漢字変換、ページ設定、文字書式、段 落書式		予習:教科書 p.5~p.12、p.64~p.78	
第2回 (Word)オブジェク	トの取り扱い:表、図形、画像(図・写真)	予習: 教科書 p.79~p.92	
第3回(Word) 書式の応用 注、図表番号、スタイルの記	と発展: 箇条書き、編集記号、ヘッダーとフッター、段組み、脚 役定	予習:教科書 p.93~p.105	
第4回(Excel) Excelの基本 照、基本的な関数	sと関数の利用: データ入力、計算式と関数、相対参照と絶対参	予習: 教科書 p.110~p.136	
第5回 (Excel) 書式の設定 作成、グラフの貼り付け	、グラフ: 行・列・セルの書式、グラフの種類と構成、グラフの	予習: 教科書 p.140~p.162	
第6回 (Excel) 高度な関数: RANK、COUNTIF、SUMIF、ROUND、INT、IF、AND、OR、LOOKUP、INDEX、MATCH、TODAY、NOW、DATE 予習:教科書 p.136~p.139、p.163~p.174、p.188~p.190		予習:教科書 p.196~p.210	
第7回(Excel) データベー. トテーブル	ス・ビボットテーブル: リストデータ、並べ替え、抽出、ビボッ	予習: 教科書 p.175~p.185	
第8回 (Powerpoint)プレゼン 理、文字入力、レイアウト、	マテーションの作成: プレゼンテーションの基礎、スライド管 図	予習:教科書 p.196~p.210	
第9回(Powerpoint)プレゼン 果、アニメーション、スライ	ンテーションの構成、書式: 発表の組み立て、書式、画面切替効 イドショー、印刷	予習:教科書 p.211~p.232	
第10回 Word, Excel, Powerl	Point演習	復習: 教科書: p5~232	
第11回 (AI・データサイエ	ンスの心得)Alおよびビッグデータについての解説	復習:授業資料	
第12回 (AI・データサイエ	ンスの心得)データ・Alを扱う上での留意事項1	復習:授業資料	
第13回 (AI・データサイエンスの心得)データ・AIを扱う上での留意事項2		復習:授業資料	
第14回 (AI・データサイエンスの心得) データを守る上での留意事項		復習:授業資料	
アクティブ・ラーニング			
ICT活用	UNIPA等LMSによる、学習課題や学習教材の提示・配信、学習課	題の提出等	
授業外学修時間	合計625分(約45分/週)が目安です。詳しくは各授業回の授業外	学修時間欄を参照してください。	

成績評価について (定期 試験など)	平素の成績によって評価する(B~Eに記載)	
成績評価 種別	成績評価 %割合	成績評価基準の詳細等
A.定期試験(筆記/レポート 試験/実技/口述)		
B.レポート(定期試験以外)	65	(Word, Excel, Powerpointについて)演習課題の完成と提出によって評価する。
C.小テスト等	25	(AI・データサイエンスの心得について)理解状況をを確認する小テストによって評価を行う。

D.成果発表		
E.受講態度	10	受講態度、出席状況、課題提出状況・小テスト受講状況による評価を行う。
- レボート筆)に対するフィー	Word課題、PowerPoint課題、Excel課題については採点結果(評価点)をLMS(筑女ネット)に表示する。 小テストについては筑女ネット上で実施し、結果は実施直後に画面上に表示される。	
成績評価に関する留意点		

教科書購入	必要あり(下記教科書を購入してください)			
教科書	書名	著者名	発行所	ISBN
教科書1	情報リテラシー教科書 ―Windows 11/Office 2022 版	1対応 矢野文彦	オーム社	
教科書2				
教科書3				
教科書4				
教科書に関するお知らせ				
指定図書				
参考図書				
授業に参考となるURL				
オフィスアワー	授業実施日の昼休みの時間帯をオフィスアワーとする。また、Teamsを利用したオンラインの相談も受け付ける。事前にメールその他で連絡を行うこと。また、メールでの問い合わせも受け付ける。			
授業に関する実務経験	なし			

	(1) 筑女DP(卒業までに身につく力)の積み上げ【日本語・日本文学科】:科目の修得に応じて	学修率
(1)-①	「倫理観・人間観」自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。	-
(1)-②	「自己管理能力」自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。	-
(1)-③	「チームワーク力」他者と協働して課題に取り組むことができる。	50%
(1)-④	「市民としての社会的責任・勤労観」社会の一員としての意識をもってその発展に関わることがで きる。	-
(2)-①	「コミュニケーション・スキル」多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができ る。	50%
(2)-②	「情報リテラシー」多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。	100%
(2)-③	「論理的思考力」獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。	50%
(2)-④	「問題解決力」社会の多様な問題を発見し、解決することができる。	-
(2)-⑤	「幅広い視野」人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。	-
(3)-①	「キャリアを構想する力」自己にふさわしいキャリアを構想できる。	-
(3)-②-1	「基礎的な専門性」日本の言語・文学・文化の学びに基づいて、適切なコミュニケーションを図る ことができる。	-
(3)-②-2	「基礎的な専門性」日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、的確な言語表現を行うことがで きる。	-
(3)-②-3	「基礎的な専門性」日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づき、多様な他者との関わりを通 して見いだした自己の考えを示すことができる。	-
(4)-①	「課題探究力」これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。	-

授業科目名	情報処理基礎演習 (現社Bクラス)	授業コード	10119008	科目ナンバリング (1、2 年次科目のみ)	cs1200201m
担当教員	多川 孝央				
開講年度学期	2024年度前期	曜日時限	月曜2限	開講学科コース	現代社会学部共通
配当学年	1年	授業形態	演習	単位数	1単位
科目の目的と概要	毎回、テーマに沿って具体的な課題に	社会生活で必須とされるインターネット(情報探索・発信)、ワードプロセッサ、表計算ソフトやプレゼンテーションソフト等の使い方を身に付ける。 毎回、テーマに沿って具体的な課題に取り組む。教科書には詳細な手順が記載されているので、参照しながら作業する。 また、情報技術、特にインターネット、またAIおよびビッグデータの活用についての基礎知識について学習する。			
到達目標【DPキーワード】	1. Wordを用いて、文字だけでなくオブジェクトを取り入れた多彩なレイアウトの文書を作成できる。「情報リテラシー」「論理的思考力」「チームワーク力」 2. PowerPointを用いて、プレゼンテーションデータを作成し実行することができる。「情報リテラシー」「論理的思考力」「コミュニケーション・スキル」 3. Excelを使って、表形式データの集計・分析・抽出をすることができる。「情報リテラシー」「論理的思考力」 4. インターネット、情報セキュリティ、Alおよびデータサイエンスの社会の中での位置づけとそこで求められる基礎的な態度、社会制度等について概要を説明することができる。「情報リテラシー」「論理的思考力」				
DP達成に向けて行う活動 【DPキーワード】	ネットワーク検索、文書生成、プレゼンテーション生成、情報技術の活用、AI・ビッグデータの理解「情報リテラシー」 データ整理と処理、文書やプレゼンテーションの構造化「論理的思考力」 メール、チャット、ビデオによるコミュニケーション、プレゼンテーション実行「コミュニケーション・スキル」 文書の共同管理、変更履歴の共有「チームワーク力」				
関連する科目	「情報科学概論」「データサイエンス基礎演習」「データサイエンス応用演習A」「データサイエンス応用演習B」				
授業に関する情報(使用 するツール・課題の設定 場所など含)	演習素材の提供や課題の提出にはLMS(筑女ネット)を用いる。				

授業回 授業テーマと内容		授業外学修 (予習復習含む) 【想定時間 (分)】	
第1回(Word)基本的な文書の作成:文字入力とかな漢字変換、ページ設定、文字書式、段 落書式		予習:教科書 p.5~p.12、p.64~p.78	
第2回 (Word) オブジェクトの取り扱い:表、図形、画像(図・写真)		予習: 教科書 p.79~p.92	
第3回(Word) 書式の応用と発展: 箇条書き、編集記号、ヘッダーとフッター、段組み、脚注、図表番号、スタイルの設定		予習:教科書 p.93~p.105	
第4回(Excel) Excelの基本 照、基本的な関数	sと関数の利用: データ入力、計算式と関数、相対参照と絶対参	予習: 教科書 p.110~p.136	
第5回 (Excel) 書式の設定 作成、グラフの貼り付け	、グラフ: 行・列・セルの書式、グラフの種類と構成、グラフの	予習: 教科書 p.140~p.162	
LOOKUP, INDEX, MATCH	: RANK, COUNTIF, SUMIF, ROUND, INT, IF, AND, OR, H, TODAY, NOW, DATE , p.163~p.174, p.188~p.190	予習:教科書 p.196~p.210	
第7回(Excel) データベー. トテーブル	ス・ビボットテーブル: リストデータ、並べ替え、抽出、ビボッ	予習: 教科書 p.175~p.185	
第8回 (Powerpoint)プレゼン 理、文字入力、レイアウト、	マテーションの作成: プレゼンテーションの基礎、スライド管 図	予習:教科書 p.196~p.210	
第9回(Powerpoint)プレゼン 果、アニメーション、スライ	ンテーションの構成、書式: 発表の組み立て、書式、画面切替効 イドショー、印刷	予習:教科書 p.211~p.232	
第10回 Word, Excel, Powerl	Point演習	復習: 教科書: p5~232	
第11回 (AI・データサイエ	ンスの心得)Alおよびビッグデータについての解説	復習:授業資料	
第12回 (AI・データサイエ	ンスの心得)データ・Alを扱う上での留意事項1	復習:授業資料	
第13回 (AI・データサイエンスの心得) データ・AIを扱う上での留意事項2		復習:授業資料	
第14回 (AI・データサイエンスの心得) データを守る上での留意事項		復習:授業資料	
アクティブ・ラーニング			
ICT活用	UNIPA等LMSによる、学習課題や学習教材の提示・配信、学習課	題の提出等	
授業外学修時間 合計625分(約45分/週)が目安です。詳しくは各授業回の授業外学修時間欄を参照してください。		学修時間欄を参照してください。	

成績評価について (定期 試験など)	平素の成績によって評価する(B~Eに記載)		
成績評価 種別	成績評価 %割合	成績評価基準の詳細等	
A.定期試験(筆記/レポート 試験/実技/口述)			
B.レポート(定期試験以外)	65	(Word, Excel, Powerpointについて)演習課題の完成と提出によって評価する。	
C.小テスト等	25	(AI・データサイエンスの心得について)理解状況をを確認する小テストによって評価を行う。	

D.成果発表		
E.受講態度	10	受講態度、出席状況、課題提出状況・小テスト受講状況による評価を行う。
- レボート筆)に対するフィー	Word課題、PowerPoint課題、Excel課題については採点結果(評価点)をLMS(筑女ネット)に表示する。 小テストについては筑女ネット上で実施し、結果は実施直後に画面上に表示される。	
成績評価に関する留意点		

教科書購入	必要あり(下記教科書を購入してください)			
教科書	書名	著者名	発行所	ISBN
教科書1	情報リテラシー教科書 ―Windows 11/Office 2022 版	1対応 矢野文彦	オーム社	
教科書2				
教科書3				
教科書4				
教科書に関するお知らせ				
指定図書				
参考図書				
授業に参考となるURL				
オフィスアワー	授業実施日の昼休みの時間帯をオフィスアワーとする。また、Teamsを利用したオンラインの相談も受け付ける。事前にメールその他で連絡を行うこと。また、メールでの問い合わせも受け付ける。			
授業に関する実務経験	なし			

	(1) 筑女DP(卒業までに身につく力)の積み上げ【日本語・日本文学科】: 科目の修得に応じて	学修率
(1)-①	「倫理観・人間観」自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。	-
(1)-②	「自己管理能力」自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。	-
(1)-③	「チームワーク力」他者と協働して課題に取り組むことができる。	50%
(1)-④	「市民としての社会的責任・勤労観」社会の一員としての意識をもってその発展に関わることがで きる。	-
(2)-①	「コミュニケーション・スキル」多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができ る。	50%
(2)-②	「情報リテラシー」多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。	100%
(2)-③	「論理的思考力」獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。	50%
(2)-④	「問題解決力」社会の多様な問題を発見し、解決することができる。	-
(2)-⑤	「幅広い視野」人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。	-
(3)-①	「キャリアを構想する力」自己にふさわしいキャリアを構想できる。	-
(3)-②-1	「基礎的な専門性」日本の言語・文学・文化の学びに基づいて、適切なコミュニケーションを図る ことができる。	-
(3)-②-2	「基礎的な専門性」日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、的確な言語表現を行うことがで きる。	-
(3)-②-3	「基礎的な専門性」日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づき、多様な他者との関わりを通 して見いだした自己の考えを示すことができる。	-
(4)-①	「課題探究力」これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。	-

授業科目名	データサイエンス基礎演習 (日文Aクラ ス)	授業コード	41014001	科目ナンバリング (1、2 年次科目のみ)	cs1200202m
担当教員	持尾 弘司				
開講年度学期	2024年度後期	曜日時限	月曜1限	開講学科コース	日本語・日本文学科
配当学年	1年	授業形態	演習	単位数	1単位
科目の目的と概要	Alおよびデータサイエンスの近年の動可視化について学ぶ。	Alおよびデータサイエンスの近年の動向を踏まえ、ビッグデータやAlの活用とそれに伴う社会の変化の様相、また背景にあるさまざまなデータの統計的な処理や可視化について学ぶ。			
到達目標【DPキーワード】	各種データについて適切に前処理して整理・集計し、それに基づいてデータの性質を判断し利用について検討することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 シー」 AIやビッグデータの概念について理解し、自らの言葉で説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの活用事例について把握し、説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの活用事例について把握し、説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」				
DP達成に向けて行う活動 【DPキーワード】	各種データとAI・情報サービスの関連性の数理的理解「論理的思考力」 統計的データの処理についての演習「問題解決力」 AI・ビッグデータ活用事例と社会との関係についての学習「情報リテラシー」				
関連する科目	「情報処理基礎演習」「情報科学概論」「データサイエンス応用演習A」「データサイエンス応用演習B」				
授業に関する情報(使用 するツール・課題の設定 場所など含)	資料の提供、課題提出等にLMS(筑女ネット)を用いる。				

授業回 授業テーマと内容		授業外学修(予習復習含む)【想定時間(分)】	
第1回(授業ガイダンス)対	象分野の概観および演習作業についての説明	復習:授業内容	
第2回 (導入) 1-1. 社会で起きている変化、1-2. 社会で活用されているデータ		予習: 教科書 p.8~p.17	
第3回 (導入)1-3. データ	・AIの活用領域、1-4. データ・AI活用のための技術	予習: 教科書 p.18~p.26	
第4回 (導入)1-5. データ	・AI利活用の現場 、1-6. データ・AI利活用の最新動向	予習: 教科書 p.27~p.37	
第5回 (基礎) 2-1. Excelの	基本的な操作方法、2-2. 時系列データの可視化	予習: 教科書 p.38~p.71	
第6回 (基礎) 2-3. 平均の	章出とその可視化	予習: 教科書 p.72~p.83	
第7回 (基礎) 2-4. 標準偏差	差の算出とその可視化	予習: 教科書 p.84~p.97	
第8回 (基礎) 2-5. 大量の	データを扱う方法	予習: 教科書 p.98~p.113	
第9回 (基礎) 2-6. 基本統	計量の算出と箱ひげ図	予習: 教科書 p.114~p.128	
第10回 (基礎) 2-7. 度数分	布表とヒストグラムの作成	予習: 教科書 p.129~p.141	
第11回 (基礎) 2-8. 散布図	の作成と相関係数の算出	予習: 教科書 p.142~p.154	
第12回 (基礎) 2-9. 定性テ	ータの扱い方とクロス集計	予習: 教科書 p.155~p.165	
第13回 総合演習		復習: 教科書 p.8~p.165	
第14回 到達度確認演習		復習:教科書 p.8~p.165	
アクティブ・ラーニング	クティブ・ラーニング		
ICT活用	UNIPA等LMSによる、学習課題や学習教材の提示・配信、学習課題の提出等/メールやチャット等による学生と教職員間での学習に関するコミュニケーショ の機会		
授業外学修時間 合計625分(約45分/週)が目安です。詳しくは各授業回の授業外学修時間欄を参照してください。		学修時間欄を参照してください。	

成績評価について (定期 試験など)	平素の成績によって評価する(B~Eに記載)		
成績評価 種別	成績評価 %割合	成績評価基準の詳細等	
A.定期試験(筆記/レポート 試験/実技/口述)			
B.レポート(定期試験以外)			
C.小テスト等	90	40%:第1回〜第12回の小テスト、提出物 10%:第13回の総合演習 40%:第14回の到達度確認演習	
D.成果発表			
E.受講態度	10	授業への参加状況を小テストの受験や出席等から確認し評価する。	
課題 (試験や小テスト、レポート等) に対するフィードバックの方法	小テストは筑女ネット上の:	システムにより結果がフィードバックされる。	
成績評価に関する留意点			

教科書購入	必要あり(下記教科書を購入してください)
-------	----------------------

教科書	書	名	著者名	発行所	ISBN
教科書1	「AIデータサイエンスリテラ	ラシー入門(改訂新版)」	吉岡 剛志、森倉 悠介、小林 領、照屋 健作	技術評論社	978-4297144098
教科書2					
教科書3					
教科書4					
教科書に関するお知らせ					
指定図書					
参考図書					
授業に参考となるURL					
オフィスアワー	授業実施日の昼休みの時間 うこと。	帯をオフィスアワーと設定す	る。このほか、オンライン(Teamsをf	使用)での相談等を受け付ける。必要	な場合には事前に連絡を行
授業に関する実務経験	なし				

	(1) 筑女DP(卒業までに身につく力)の積み上げ【日本語・日本文学科】: 科目の修得に応じて	学修率
(1)-①	「倫理観・人間観」自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。	-
(1)-②	「自己管理能力」自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。	-
(1)-③	「チームワーク力」他者と協働して課題に取り組むことができる。	50%
(1)-④	「市民としての社会的責任・勤労観」社会の一員としての意識をもってその発展に関わることができる。	-
(2)-①	「コミュニケーション・スキル」多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。	50%
(2)-②	「情報リテラシー」多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。	100%
(2)-③	「論理的思考力」獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。	50%
(2)-4	「問題解決力」社会の多様な問題を発見し、解決することができる。	-
(2)-⑤	「幅広い視野」人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。	-
(3)-①	「キャリアを構想する力」自己にふさわしいキャリアを構想できる。	-
(3)-②-1	「基礎的な専門性」日本の言語・文学・文化の学びに基づいて、適切なコミュニケーションを図る ことができる。	-
(3)-2-2	「基礎的な専門性」日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、的確な言語表現を行うことができる。	-
(3)-②-3	「基礎的な専門性」日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づき、多様な他者との関わりを通 して見いだした自己の考えを示すことができる。	-
(4)-①	「課題探究力」これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。	-

授業科目名	データサイエンス基礎演習 (日文Bク ラス)	授業コード	41014002	科目ナンバリング (1、2 年次科目のみ)	cs1200202m	
担当教員	冨永 信一					
開講年度学期	2024年度後期	曜日時限	月曜1限	開講学科コース	日本語・日本文学科	
配当学年	1年	授業形態	演習	単位数	1単位	
科目の目的と概要	Alおよびデータサイエンスの近年の重可視化について学ぶ。	Alおよびデータサイエンスの近年の動向を踏まえ、ビッグデータやAlの活用とそれに伴う社会の変化の様相、また背景にあるさまざまなデータの統計的な処理や可視化について学ぶ。				
到達目標【DPキーワード】	各種データについて適切に前処理して整理・集計し、それに基づいてデータの性質を判断し利用について検討することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの概念について理解し、自らの言葉で説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの活用事例について把握し、説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの活用事例について把握し、説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」					
DP達成に向けて行う活動 【DPキーワード】	各種データとAI・情報サービスの関連性の数理的理解「論理的思考力」 統計的データの処理についての演習「問題解決力」 AI・ビッグデータ活用事例と社会との関係についての学習「情報リテラシー」					
関連する科目	「情報処理基礎演習」「情報科学概論」「データサイエンス応用演習A」「データサイエンス応用演習B」					
授業に関する情報(使用 するツール・課題の設定 場所など含)	資料の提供、課題提出等にLMS(筑女ネット)を用いる。					

授業回 授業テーマと内容		授業外学修(予習復習含む)【想定時間(分)】	
第1回(授業ガイダンス)対象分野の概観および演習作業についての説明		復習:授業内容	
第2回 (導入) 1-1. 社会で	起きている変化、1-2. 社会で活用されているデータ	予習: 教科書 p.8~p.17	
第3回 (導入)1-3. データ	・AIの活用領域、1-4. データ・AI活用のための技術	予習: 教科書 p.18~p.26	
第4回 (導入)1-5. データ	・AI利活用の現場 、1-6. データ・AI利活用の最新動向	予習: 教科書 p.27~p.37	
第5回 (基礎) 2-1. Excelの	基本的な操作方法、2-2. 時系列データの可視化	予習: 教科書 p.38~p.71	
第6回 (基礎) 2-3. 平均の	章出とその可視化	予習: 教科書 p.72~p.83	
第7回 (基礎) 2-4. 標準偏差	差の算出とその可視化	予習: 教科書 p.84~p.97	
第8回 (基礎) 2-5. 大量の	データを扱う方法	予習: 教科書 p.98~p.113	
第9回 (基礎) 2-6. 基本統	計量の算出と箱ひげ図	予習: 教科書 p.114~p.128	
第10回 (基礎) 2-7. 度数分	布表とヒストグラムの作成	予習: 教科書 p.129~p.141	
第11回 (基礎) 2-8. 散布図	の作成と相関係数の算出	予習: 教科書 p.142~p.154	
第12回 (基礎) 2-9. 定性テ	ータの扱い方とクロス集計	予習: 教科書 p.155~p.165	
第13回 総合演習		復習: 教科書 p.8~p.165	
第14回 到達度確認演習		復習:教科書 p.8~p.165	
アクティブ・ラーニング			
UNIPA等LMSによる、学習課題や学習教材の提示・配信、学習課題の提出等/メールやチャット等による学生と教職員間での学習に関するコミュニケの機会		題の提出等/メールやチャット等による学生と教職員間での学習に関するコミュニケーション	
授業外学修時間 合計625分(約45分/週)が目安です。詳しくは各授業回の授業外学修時間欄を参照してください。		学修時間欄を参照してください。	

成績評価について (定期 試験など)	平素の成績によって評価する	平素の成績によって評価する(B~Eに記載)			
成績評価 種別	成績評価 %割合	成績評価基準の詳細等			
A.定期試験(筆記/レポート 試験/実技/口述)					
B.レポート(定期試験以外)					
C.小テスト等	90	40%:第1回〜第12回の小テスト、提出物 10%:第13回の総合演習 40%:第14回の到達度確認演習			
D.成果発表					
E.受講態度	10	授業への参加状況を小テストの受験や出席等から確認し評価する。			
課題 (試験や小テスト、レポート等) に対するフィードバックの方法	小テストは筑女ネット上の	システムにより結果がフィードバックされる。			
成績評価に関する留意点					

	教科書購入	必要あり(下記教科書を購入してください)	
--	-------	----------------------	--

教科書	書	名	著者名	発行所	ISBN
教科書1	「AIデータサイエンスリテラ	ラシー入門(改訂新版)」	吉岡 剛志、森倉 悠介、小林 領、照屋 健作	技術評論社	978-4297144098
教科書2					
教科書3					
教科書4					
教科書に関するお知らせ					
指定図書					
参考図書					
授業に参考となるURL					
オフィスアワー	授業実施日の昼休みの時間 うこと。	帯をオフィスアワーと設定す	る。このほか、オンライン(Teamsをf	使用)での相談等を受け付ける。必要	な場合には事前に連絡を行
授業に関する実務経験	なし				

	(1) 筑女DP(卒業までに身につく力)の積み上げ【日本語・日本文学科】:科目の修得に応じて	学修率
(1)-①	「倫理観・人間観」自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。	-
(1)-②	「自己管理能力」自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。	-
(1)-③	「チームワーク力」他者と協働して課題に取り組むことができる。	50%
(1)-④	「市民としての社会的責任・勤労観」社会の一員としての意識をもってその発展に関わることがで きる。	-
(2)-①	「コミュニケーション・スキル」多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。	50%
(2)-②	「情報リテラシー」多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。	100%
(2)-③	「論理的思考力」獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。	50%
(2)-④	「問題解決力」社会の多様な問題を発見し、解決することができる。	-
(2)-⑤	「幅広い視野」人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。	-
(3)-①	「キャリアを構想する力」自己にふさわしいキャリアを構想できる。	-
(3)-②-1	「基礎的な専門性」日本の言語・文学・文化の学びに基づいて、適切なコミュニケーションを図る ことができる。	-
(3)-②-2	「基礎的な専門性」日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、的確な言語表現を行うことがで きる。	-
(3)-②-3	「基礎的な専門性」日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づき、多様な他者との関わりを通 して見いだした自己の考えを示すことができる。	-
(4)-①	「課題探究力」これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。	-

授業科目名	データサイエンス基礎演習 (英語)	授業コード	41014004	科目ナンバリング (1、2 年次科目のみ)	cs1200202m
担当教員	冨永 信一				
開講年度学期	2024年度後期	曜日時限	月曜2限	開講学科コース	英語学科
配当学年	1年	授業形態	演習	単位数	1単位
科目の目的と概要	Alおよびデータサイエンスの近年の動可視化について学ぶ。	Alおよびデータサイエンスの近年の動向を踏まえ、ビッグデータやAlの活用とそれに伴う社会の変化の様相、また背景にあるさまざまなデータの統計的な処理や可視化について学ぶ。			
	各種データについて適切に前処理して整理・集計し、それに基づいてデータの性質を判断し利用について検討することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの概念について理解し、自らの言葉で説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの活用事例について把握し、説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの活用事例について把握し、技術と社会との関係について適切に説明することができる。。「論理的思考力」「情報リテラシー」				
DP 達成に向けて行う沽動	各種データとAI・情報サービスの関連性の数理的理解「論理的思考力」 統計的データの処理についての演習「問題解決力」 AI・ビッグデータ活用事例と社会との関係についての学習「情報リテラシー」				
関連する科目	「情報処理基礎演習」「情報科学概論」「データサイエンス応用演習A」「データサイエンス応用演習B」				
授業に関する情報(使用 するツール・課題の設定 場所など含)	資料の提供、課題提出等にLMS(筑女ネット)を用いる。				

授業回 授業テーマと内容		授業外学修(予習復習含む)【想定時間(分)】	
第1回(授業ガイダンス)対象分野の概観および演習作業についての説明		復習:授業内容	
第2回 (導入) 1-1. 社会で	起きている変化、1-2. 社会で活用されているデータ	予習: 教科書 p.8~p.17	
第3回 (導入)1-3. データ	・AIの活用領域、1-4. データ・AI活用のための技術	予習: 教科書 p.18~p.26	
第4回 (導入)1-5. データ	・AI利活用の現場 、1-6. データ・AI利活用の最新動向	予習: 教科書 p.27~p.37	
第5回 (基礎) 2-1. Excelの	基本的な操作方法、2-2. 時系列データの可視化	予習: 教科書 p.38~p.71	
第6回 (基礎) 2-3. 平均の	章出とその可視化	予習: 教科書 p.72~p.83	
第7回 (基礎) 2-4. 標準偏差	差の算出とその可視化	予習: 教科書 p.84~p.97	
第8回 (基礎) 2-5. 大量の	データを扱う方法	予習: 教科書 p.98~p.113	
第9回 (基礎) 2-6. 基本統	計量の算出と箱ひげ図	予習: 教科書 p.114~p.128	
第10回 (基礎) 2-7. 度数分	布表とヒストグラムの作成	予習: 教科書 p.129~p.141	
第11回 (基礎) 2-8. 散布図	の作成と相関係数の算出	予習: 教科書 p.142~p.154	
第12回 (基礎) 2-9. 定性テ	ータの扱い方とクロス集計	予習: 教科書 p.155~p.165	
第13回 総合演習		復習: 教科書 p.8~p.165	
第14回 到達度確認演習		復習:教科書 p.8~p.165	
アクティブ・ラーニング			
UNIPA等LMSによる、学習課題や学習教材の提示・配信、学習課題の提出等/メールやチャット等による学生と教職員間での学習に関するコミュニケの機会		題の提出等/メールやチャット等による学生と教職員間での学習に関するコミュニケーション	
授業外学修時間 合計625分(約45分/週)が目安です。詳しくは各授業回の授業外学修時間欄を参照してください。		学修時間欄を参照してください。	

成績評価について (定期 試験など)	平素の成績によって評価する	平素の成績によって評価する(B~Eに記載)			
成績評価 種別	成績評価 %割合	成績評価基準の詳細等			
A.定期試験(筆記/レポート 試験/実技/口述)					
B.レポート(定期試験以外)					
C.小テスト等	90	40%:第1回〜第12回の小テスト、提出物 10%:第13回の総合演習 40%:第14回の到達度確認演習			
D.成果発表					
E.受講態度	10	授業への参加状況を小テストの受験や出席等から確認し評価する。			
課題 (試験や小テスト、レポート等) に対するフィードバックの方法	小テストは筑女ネット上の:	システムにより結果がフィードバックされる。			
成績評価に関する留意点					

教科書購入	必要あり(下記教科書を購入してください)
-------	----------------------

教科書	書	名	著者名	発行所	ISBN
教科書1	「AIデータサイエンスリテラ	ラシー入門(改訂新版)」	吉岡 剛志、森倉 悠介、小林 領、照屋 健作	技術評論社	978-4297144098
教科書2					
教科書3					
教科書4					
教科書に関するお知らせ					
指定図書					
参考図書					
授業に参考となるURL					
オフィスアワー	授業実施日の昼休みの時間を うこと。	帯をオフィスアワーと設定す	る。このほか、オンライン(Teamsをf	吏用)での相談等を受け付ける。必要 [‡]	な場合には事前に連絡を行
授業に関する実務経験	なし				

	(1) 筑女DP(卒業までに身につく力)の積み上げ【日本語・日本文学科】: 科目の修得に応じて	学修率
(1)-①	「倫理観・人間観」自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。	-
(1)-②	「自己管理能力」自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。	-
(1)-③	「チームワーク力」他者と協働して課題に取り組むことができる。	50%
(1)-④	「市民としての社会的責任・勤労観」社会の一員としての意識をもってその発展に関わることがで きる。	-
(2)-①	「コミュニケーション・スキル」多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができ る。	50%
(2)-②	「情報リテラシー」多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。	100%
(2)-③	「論理的思考力」獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。	50%
(2)-4	「問題解決力」社会の多様な問題を発見し、解決することができる。	-
(2)-⑤	「幅広い視野」人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。	-
(3)-①	「キャリアを構想する力」自己にふさわしいキャリアを構想できる。	-
(3)-②-1	「基礎的な専門性」日本の言語・文学・文化の学びに基づいて、適切なコミュニケーションを図る ことができる。	-
(3)-②-2	「基礎的な専門性」日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、的確な言語表現を行うことがで きる。	-
(3)-②-3	「基礎的な専門性」日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づき、多様な他者との関わりを通 して見いだした自己の考えを示すことができる。	-
(4)-①	「課題探究力」これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。	-

授業科目名						
開講年度学期 2024年度後期 曜日時限 月曜1限 開講学科コース アジア文化学科 配当学年 1年 授業形態 演習 単位数 1単位 科目の目的と概要 Alおよびデータサイエンスの近年の動向を踏まえ、ビッグデータやAlの活用とそれに伴う社会の変化の様相、また背景にあるさまざまなデータの統計的が可視化について学ぶ。 各種データについて適切に前処理して整理・集計し、それに基づいてデータの性質を判断し利用について検討することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 Alやビッグデータの概念について理解し、自らの言葉で説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 Alやビッグデータの活用事例について把握し、説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 Alやビッグデータの活用事例について把握し、技術と社会との関係について適切に説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 DP達成に向けて行う活動 【DPキーワード】 各種データとAl・情報サービスの関連性の数理的理解「論理的思考力」 統計的データの処理についての演習「問題解決力」 Al・ビッグデータが活用事例と社会との関係についての学習「情報リテラシー」 関連する科目 「情報処理基礎演習」「情報科学概論」「データサイエンス応用演習B」 授業に関する情報(使用	授業科目名		授業コード	41014005		cs1200202m
配当学年 1年 授業形態 演習 単位数 1単位 科目の目的と概要 Alおよびデータサイエンスの近年の動向を踏まえ、ビッグデータやAlの活用とそれに伴う社会の変化の様相、また背景にあるさまざまなデータの統計的が可視化について学ぶ。 各種データについて適切に前処理して整理・集計し、それに基づいてデータの性質を判断し利用について検討することができる。「論理的思考力」「情報シャー」 Alやビッグデータの概念について理解し、自らの言葉で説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 Alやビッグデータの活用事例について把握し、説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 Alやビッグデータの活用事例について把握し、説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 DP達成に向けて行う活動 [DPキーワード] を種データとAl・情報サービスの関連性の数理的理解「論理的思考力」 が計的データの処理についての演習「問題解決力」 Al・ビッグデータが活用事例と社会との関係についての学習「情報リテラシー」 関連する科目 「情報処理基礎演習」「情報科学概論」「データサイエンス応用演習A」「データサイエンス応用演習B」 授業に関する情報(使用	担当教員	小川 暢祐				
科目の目的と概要	開講年度学期	2024年度後期	曜日時限	月曜1限	開講学科コース	アジア文化学科
科目の目的と概要 可視化について学ぶ。 各種データについて適切に前処理して整理・集計し、それに基づいてデータの性質を判断し利用について検討することができる。「論理的思考力」「情報シー」 AIやビッグデータの概念について理解し、自らの言葉で説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの活用事例について把握し、説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの活用事例について把握し、技術と社会との関係について適切に説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 DP達成に向けて行う活動 【DPキーワード】 を種データとAI・情報サービスの関連性の数理的理解「論理的思考力」 統計的データの処理についての演習「問題解決力」 AI・ビッグデータ活用事例と社会との関係についての学習「情報リテラシー」 関連する科目 「情報処理基礎演習」「情報科学概論」「データサイエンス応用演習A」「データサイエンス応用演習B」 授業に関する情報(使用	配当学年	1年	授業形態	演習	単位数	1単位
シー AIやビッグデータの概念について理解し、自らの言葉で説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの活用事例について把握し、説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの活用事例について把握し、説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの活用事例について把握し、技術と社会との関係について適切に説明することができる。。「論理的思考力」「情報リテラシー」	科目の目的と概要		向のを踏まえ、ビッグデータや	PAIの活用とそれに伴う社会の	の変化の様相、また背景にある	るさまざまなデータの統計的な処理や
【DPキーワード】	到達目標【DPキーワード】	- AIやビッグデータの概念について理解し、自らの言葉で説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの活用事例について把握し、説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」				
授業に関する情報(使用		統計的データの処理についての演習「問題解決力」				
	関連する科目	「情報処理基礎演習」「情報科学概論」「データサイエンス応用演習A」「データサイエンス応用演習B」				
場所など含)	するツール・課題の設定	資料の提供、課題提出等にLMS(筑女ネット)を用いる。				

授業回 授業テーマと内容 授業外学修 (予習復習含む) 【想定時間 (分)】				
第1回(授業ガイダンス)対象分野の概観および演習作業についての説明		復習:授業內容		
第2回(導入)1-1. 社会で起きている変化、1-2. 社会で活用されているデータ		予習:教科書 p.8~p.17		
第3回 (導入) 1-3. データ	・Alの活用領域、1-4. データ・Al活用のための技術	予習: 教科書 p.18~p.26		
第4回 (導入) 1-5. データ	・AI利活用の現場 、1-6. データ・AI利活用の最新動向	予習: 教科書 p.27~p.37		
第5回 (基礎) 2-1. Excelの	基本的な操作方法、2-2. 時系列データの可視化	予習: 教科書 p.38~p.71		
第6回 (基礎) 2-3. 平均の第	算出とその可視化	予習: 教科書 p.72~p.83		
第7回 (基礎) 2-4. 標準偏差	皇の算出とその可視化	予習: 教科書 p.84~p.97		
第8回 (基礎) 2-5. 大量の元	データを扱う方法	予習: 教科書 p.98~p.113		
第9回 (基礎) 2-6. 基本統計量の算出と箱ひげ図		予習: 教科書 p.114~p.128		
第10回 (基礎) 2-7. 度数分布表とヒストグラムの作成		予習: 教科書 p.129~p.141		
第11回 (基礎) 2-8. 散布図の作成と相関係数の算出		予習:教科書 p.142~p.154		
第12回 (基礎) 2-9. 定性デ	ータの扱い方とクロス集計	予習:教科書 p.155~p.165		
第13回 総合演習		復習:教科書 p.8~p.165		
第14回 到達度確認演習		復習:教科書 p.8~p.165		
アクティブ・ラーニング				
ICT活用	UNIPA等LMSによる、学習課題や学習教材の提示・配信、学習課題の提出等/メールやチャット等による学生と教職員間での学習に関するコミュニケーション の機会			
授業外学修時間	合計625分(約45分/週)が目安です。詳しくは各授業回の授業外学修時間欄を参照してください。			

成績評価について (定期 試験など)	平素の成績によって評価する(B~Eに記載)		
成績評価 種別	成績評価 %割合	成績評価基準の詳細等	
A.定期試験(筆記/レポート 試験/実技/口述)			
B.レポート(定期試験以外)			
C.小テスト等	90	40%:第1回〜第12回の小テスト、提出物 10%:第13回の総合演習 40%:第14回の到達度確認演習	
D.成果発表			
E.受講態度	10	授業への参加状況を小テストの受験や出席等から確認し評価する。	
課題 (試験や小テスト、レポート等) に対するフィードバックの方法	小テストは筑女ネット上の	システムにより結果がフィードバックされる。	
成績評価に関する留意点			

教科書購入	必要あり(下記教科書を購入してください)
-------	----------------------

教科書	書	名	著者名	発行所	ISBN
教科書1	「AIデータサイエンスリテラ	ラシー入門(改訂新版)」	吉岡 剛志、森倉 悠介、小林 領、照屋 健作	技術評論社	978-4297144098
教科書2					
教科書3					
教科書4					
教科書に関するお知らせ					
指定図書					
参考図書					
授業に参考となるURL					
オフィスアワー	授業実施日の昼休みの時間 うこと。	帯をオフィスアワーと設定す	る。このほか、オンライン(Teamsをf	使用)での相談等を受け付ける。必要	な場合には事前に連絡を行
授業に関する実務経験	なし				

	(1) 筑女DP(卒業までに身につく力)の積み上げ【日本語・日本文学科】:科目の修得に応じて	学修率
(1)-①	「倫理観・人間観」自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。	-
(1)-②	「自己管理能力」自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。	-
(1)-③	「チームワーク力」他者と協働して課題に取り組むことができる。	50%
(1)-④	「市民としての社会的責任・勤労観」社会の一員としての意識をもってその発展に関わることがで きる。	-
(2)-①	「コミュニケーション・スキル」多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。	50%
(2)-②	「情報リテラシー」多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。	100%
(2)-③	「論理的思考力」獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。	50%
(2)-④	「問題解決力」社会の多様な問題を発見し、解決することができる。	-
(2)-⑤	「幅広い視野」人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。	-
(3)-①	「キャリアを構想する力」自己にふさわしいキャリアを構想できる。	-
(3)-②-1	「基礎的な専門性」日本の言語・文学・文化の学びに基づいて、適切なコミュニケーションを図る ことができる。	-
(3)-②-2	「基礎的な専門性」日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、的確な言語表現を行うことがで きる。	-
(3)-②-3	「基礎的な専門性」日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づき、多様な他者との関わりを通 して見いだした自己の考えを示すことができる。	-
(4)-①	「課題探究力」これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。	-

			1		
授業科目名	データサイエンス基礎演習 (アジアBク ラス)	授業コード	41014006	科目ナンバリング (1、2 年次科目のみ)	cs1200202m
担当教員	多川 孝央				
開講年度学期	2024年度後期	曜日時限	月曜1限	開講学科コース	アジア文化学科
配当学年	1年	授業形態	演習	単位数	1単位
科目の目的と概要	Alおよびデータサイエンスの近年の動可視化について学ぶ。	ー p向を踏まえ、ビッグデータや	PAIの活用とそれに伴う社会の)変化の様相、また背景にあ	るさまざまなデータの統計的な処理や
到達目標【DPキーワード】	各種データについて適切に前処理して整理・集計し、それに基づいてデータの性質を判断し利用について検討することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 シー」 AIやビッグデータの概念について理解し、自らの言葉で説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの活用事例について把握し、説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの活用事例について把握し、説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」				
DP達成に向けて行う活動 【DPキーワード】	各種データとAI・情報サービスの関連性の数理的理解「論理的思考力」 統計的データの処理についての演習「問題解決力」 AI・ビッグデータ活用事例と社会との関係についての学習「情報リテラシー」				
関連する科目	「情報処理基礎演習」「情報科学概論」「データサイエンス応用演習A」「データサイエンス応用演習B」				
授業に関する情報(使用 するツール・課題の設定 場所など含)	資料の提供、課題提出等にLMS(筑女ネット)を用いる。				

授業回 授業テーマと内容 授業外学修 (予習復習含む)【想定時間 (分)】			
第1回(授業ガイダンス)対象分野の概観および演習作業についての説明		復習:授業内容	
第2回(導入)1-1. 社会で起きている変化、1-2. 社会で活用されているデータ		予習: 教科書 p.8~p.17	
第3回 (導入) 1-3. データ	・AIの活用領域、1-4. データ・AI活用のための技術	予習: 教科書 p.18~p.26	
第4回 (導入)1-5. データ	・AI利活用の現場 、1-6. データ・AI利活用の最新動向	予習: 教科書 p.27~p.37	
第5回 (基礎) 2-1. Excelの	基本的な操作方法、2-2. 時系列データの可視化	予習: 教科書 p.38~p.71	
第6回 (基礎) 2-3. 平均の第	章出とその可視化	予習: 教科書 p.72~p.83	
第7回 (基礎) 2-4. 標準偏差	差の算出とその可視化	予習: 教科書 p.84~p.97	
第8回 (基礎) 2-5. 大量の	データを扱う方法	予習: 教科書 p.98~p.113	
第9回 (基礎) 2-6. 基本統計量の算出と箱ひげ図		予習: 教科書 p.114~p.128	
第10回 (基礎) 2-7. 度数分布表とヒストグラムの作成		予習: 教科書 p.129~p.141	
第11回 (基礎) 2-8. 散布図	の作成と相関係数の算出	予習: 教科書 p.142~p.154	
第12回 (基礎) 2-9. 定性デ	一タの扱い方とクロス集計	予習:教科書 p.155~p.165	
第13回 総合演習		復習: 教科書 p.8~p.165	
第14回 到達度確認演習		復習:教科書 p.8~p.165	
アクティブ・ラーニング			
ICT活用	UNIPA等LMSによる、学習課題や学習教材の提示・配信、学習課題の提出等/メールやチャット等による学生と教職員間での学習に関するコミュニケーション の機会		
授業外学修時間	合計625分(約45分/週)が目安です。詳しくは各授業回の授業外学修時間欄を参照してください。		

成績評価について (定期 試験など)	平素の成績によって評価する(B~Eに記載)		
成績評価 種別	成績評価 %割合	成績評価基準の詳細等	
A.定期試験(筆記/レポート 試験/実技/口述)			
B.レポート(定期試験以外)			
C.小テスト等	90	40%:第1回〜第12回の小テスト、提出物 10%:第13回の総合演習 40%:第14回の到達度確認演習	
D.成果発表			
E.受講態度	10	授業への参加状況を小テストの受験や出席等から確認し評価する。	
課題 (試験や小テスト、 レポート等) に対するフィ ードバックの方法	小テストは筑女ネット上の?	システムにより結果がフィードバックされる。	
成績評価に関する留意点			

教科書購入	必要あり(下記教科書を購入してください)
-------	----------------------

教科書	書	名	著者名	発行所	ISBN
教科書1	「AIデータサイエンスリテラ	ラシー入門(改訂新版)」	吉岡 剛志、森倉 悠介、小林 領、照屋 健作	技術評論社	978-4297144098
教科書2					
教科書3					
教科書4					
教科書に関するお知らせ					
指定図書					
参考図書					
授業に参考となるURL					
オフィスアワー	授業実施日の昼休みの時間を うこと。	帯をオフィスアワーと設定す	る。このほか、オンライン(Teamsをf	吏用)での相談等を受け付ける。必要 [‡]	な場合には事前に連絡を行
授業に関する実務経験	なし				

	(1) 筑女DP(卒業までに身につく力)の積み上げ【日本語・日本文学科】:科目の修得に応じて	学修率
(1)-①	「倫理観・人間観」自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。	-
(1)-②	「自己管理能力」自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。	-
(1)-③	「チームワーク力」他者と協働して課題に取り組むことができる。	50%
(1)-④	「市民としての社会的責任・勤労観」社会の一員としての意識をもってその発展に関わることがで きる。	-
(2)-①	「コミュニケーション・スキル」多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。	50%
(2)-②	「情報リテラシー」多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。	100%
(2)-③	「論理的思考力」獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。	50%
(2)-④	「問題解決力」社会の多様な問題を発見し、解決することができる。	-
(2)-⑤	「幅広い視野」人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。	-
(3)-①	「キャリアを構想する力」自己にふさわしいキャリアを構想できる。	-
(3)-②-1	「基礎的な専門性」日本の言語・文学・文化の学びに基づいて、適切なコミュニケーションを図る ことができる。	-
(3)-②-2	「基礎的な専門性」日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、的確な言語表現を行うことがで きる。	-
(3)-②-3	「基礎的な専門性」日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づき、多様な他者との関わりを通 して見いだした自己の考えを示すことができる。	-
(4)-①	「課題探究力」これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。	-

授業科目名	データサイエンス基礎演習 (心理Aクラ ス)	授業コード	41014010	科目ナンバリング (1、2 年次科目のみ)	cs1200202m
担当教員	持尾 弘司				1
開講年度学期	2024年度後期	曜日時限	水曜1限	開講学科コース	人間科学科 心理
配当学年	1年	授業形態	演習	単位数	1単位
科目の目的と概要	Alおよびデータサイエンスの近年の動可視化について学ぶ。	Alおよびデータサイエンスの近年の動向を踏まえ、ビッグデータやAlの活用とそれに伴う社会の変化の様相、また背景にあるさまざまなデータの統計的な処理や可視化について学ぶ。			るさまざまなデータの統計的な処理や
到達目標【DPキーワード】	各種データについて適切に前処理して整理・集計し、それに基づいてデータの性質を判断し利用について検討することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの概念について理解し、自らの言葉で説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの活用事例について把握し、説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの活用事例について把握し、説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」				
DP達成に向けて行う活動 【DPキーワード】	各種データとAI・情報サービスの関連性の数理的理解「論理的思考力」 統計的データの処理についての演習「問題解決力」 AI・ビッグデータ活用事例と社会との関係についての学習「情報リテラシー」				
関連する科目	「情報処理基礎演習」「情報科学概論」「データサイエンス応用演習A」「データサイエンス応用演習B」				
授業に関する情報(使用 するツール・課題の設定 場所など含)	資料の提供、課題提出等にLMS(筑女ネット)を用いる。				

	授業回 授業テーマと内容	授業外学修(予習復習含む)【想定時間(分)】	
第1回(授業ガイダンス)対象分野の概観および演習作業についての説明		復習:授業内容	
第2回(導入)1-1. 社会で起きている変化、1-2. 社会で活用されているデータ		予習: 教科書 p.8~p.17	
第3回 (導入) 1-3. データ	・AIの活用領域、1-4. データ・AI活用のための技術	予習: 教科書 p.18~p.26	
第4回 (導入)1-5. データ	・AI利活用の現場 、1-6. データ・AI利活用の最新動向	予習: 教科書 p.27~p.37	
第5回 (基礎) 2-1. Excelの	基本的な操作方法、2-2. 時系列データの可視化	予習: 教科書 p.38~p.71	
第6回 (基礎) 2-3. 平均の第	章出とその可視化	予習: 教科書 p.72~p.83	
第7回 (基礎) 2-4. 標準偏差	差の算出とその可視化	予習: 教科書 p.84~p.97	
第8回 (基礎) 2-5. 大量の	データを扱う方法	予習: 教科書 p.98~p.113	
第9回 (基礎) 2-6. 基本統計量の算出と箱ひげ図		予習: 教科書 p.114~p.128	
第10回 (基礎) 2-7. 度数分布表とヒストグラムの作成		予習: 教科書 p.129~p.141	
第11回 (基礎) 2-8. 散布図	の作成と相関係数の算出	予習: 教科書 p.142~p.154	
第12回 (基礎) 2-9. 定性デ	一タの扱い方とクロス集計	予習:教科書 p.155~p.165	
第13回 総合演習		復習: 教科書 p.8~p.165	
第14回 到達度確認演習		復習:教科書 p.8~p.165	
アクティブ・ラーニング			
ICT活用	UNIPA等LMSによる、学習課題や学習教材の提示・配信、学習課題の提出等/メールやチャット等による学生と教職員間での学習に関するコミュニケーション の機会		
授業外学修時間	合計625分(約45分/週)が目安です。詳しくは各授業回の授業外学修時間欄を参照してください。		

成績評価について (定期 試験など)	平素の成績によって評価する(B~Eに記載)		
成績評価 種別	成績評価 %割合	成績評価基準の詳細等	
A.定期試験(筆記/レポート 試験/実技/口述)			
B.レポート(定期試験以外)			
C.小テスト等	90	40%:第1回〜第12回の小テスト、提出物 10%:第13回の総合演習 40%:第14回の到達度確認演習	
D.成果発表			
E.受講態度	10	授業への参加状況を小テストの受験や出席等から確認し評価する。	
課題 (試験や小テスト、レポート等) に対するフィードバックの方法	小テストは筑女ネット上の	システムにより結果がフィードバックされる。	
成績評価に関する留意点			

教科書購入	必要あり(下記教科書を購入してください)
-------	----------------------

教科書	書	名	著者名	発行所	ISBN
教科書1	「AIデータサイエンスリテラ	ラシー入門(改訂新版)」	吉岡 剛志、森倉 悠介、小林 領、照屋 健作	技術評論社	978-4297144098
教科書2					
教科書3					
教科書4					
教科書に関するお知らせ					
指定図書					
参考図書					
授業に参考となるURL					
オフィスアワー	授業実施日の昼休みの時間を うこと。	帯をオフィスアワーと設定す	る。このほか、オンライン(Teamsをf	吏用)での相談等を受け付ける。必要 [‡]	な場合には事前に連絡を行
授業に関する実務経験	なし				

	(1) 筑女DP(卒業までに身につく力)の積み上げ【日本語・日本文学科】: 科目の修得に応じて	学修率
(1)-①	「倫理観・人間観」自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。	-
(1)-②	「自己管理能力」自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。	-
(1)-③	「チームワーク力」他者と協働して課題に取り組むことができる。	50%
(1)-④	「市民としての社会的責任・勤労観」社会の一員としての意識をもってその発展に関わることがで きる。	-
(2)-①	「コミュニケーション・スキル」多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。	50%
(2)-②	「情報リテラシー」多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。	100%
(2)-③	「論理的思考力」獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。	50%
(2)-④	「問題解決力」社会の多様な問題を発見し、解決することができる。	-
(2)-⑤	「幅広い視野」人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。	-
(3)-①	「キャリアを構想する力」自己にふさわしいキャリアを構想できる。	-
(3)-2-1	「基礎的な専門性」日本の言語・文学・文化の学びに基づいて、適切なコミュニケーションを図る ことができる。	-
(3)-2-2	「基礎的な専門性」日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、的確な言語表現を行うことがで きる。	-
(3)-2-3	「基礎的な専門性」日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づき、多様な他者との関わりを通 して見いだした自己の考えを示すことができる。	-
(4)-①	「課題探究力」これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。	-

			1		
授業科目名	データサイエンス基礎演習 (心理Bク ラス)	授業コード	41014011	科目ナンバリング (1、2 年次科目のみ)	cs1200202m
担当教員	多川 孝央				
開講年度学期	2024年度後期	曜日時限	水曜1限	開講学科コース	人間科学科 心理
配当学年	1年	授業形態	演習	単位数	1単位
科目の目的と概要	Alおよびデータサイエンスの近年の動可視化について学ぶ。	Alおよびデータサイエンスの近年の動向を踏まえ、ビッグデータやAlの活用とそれに伴う社会の変化の様相、また背景にあるさまざまなデータの統計的な処理や 可視化について学ぶ。			るさまざまなデータの統計的な処理や
到達目標【DPキーワード】	各種データについて適切に前処理して整理・集計し、それに基づいてデータの性質を判断し利用について検討することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの概念について理解し、自らの言葉で説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの活用事例について把握し、説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの活用事例について把握し、説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」				
DP達成に向けて行う活動 【DPキーワード】	各種データとAI・情報サービスの関連性の数理的理解「論理的思考力」 統計的データの処理についての演習「問題解決力」 AI・ビッグデータ活用事例と社会との関係についての学習「情報リテラシー」				
関連する科目	「情報処理基礎演習」「情報科学概論」「データサイエンス応用演習A」「データサイエンス応用演習B」				
授業に関する情報(使用 するツール・課題の設定 場所など含)	資料の提供、課題提出等にLMS(筑女ネット)を用いる。				

	授業回 授業テーマと内容	授業外学修(予習復習含む)【想定時間(分)】	
第1回(授業ガイダンス)対象分野の概観および演習作業についての説明		復習:授業内容	
第2回 (導入) 1-1. 社会で起きている変化、1-2. 社会で活用されているデータ		予習: 教科書 p.8∼p.17	
第3回 (導入) 1-3. データ	・AIの活用領域、1-4. データ・AI活用のための技術	予習: 教科書 p.18~p.26	
第4回 (導入)1-5. データ	・AI利活用の現場 、1-6. データ・AI利活用の最新動向	予習: 教科書 p.27~p.37	
第5回 (基礎) 2-1. Excelの	基本的な操作方法、2-2. 時系列データの可視化	予習: 教科書 p.38~p.71	
第6回 (基礎) 2-3. 平均の第	章出とその可視化	予習: 教科書 p.72~p.83	
第7回 (基礎) 2-4. 標準偏差	差の算出とその可視化	予習: 教科書 p.84~p.97	
第8回 (基礎) 2-5. 大量の	データを扱う方法	予習: 教科書 p.98~p.113	
第9回 (基礎) 2-6. 基本統計量の算出と箱ひげ図		予習: 教科書 p.114~p.128	
第10回 (基礎) 2-7. 度数分布表とヒストグラムの作成		予習: 教科書 p.129~p.141	
第11回 (基礎) 2-8. 散布図	の作成と相関係数の算出	予習: 教科書 p.142~p.154	
第12回 (基礎) 2-9. 定性デ	ータの扱い方とクロス集計	予習: 教科書 p.155~p.165	
第13回 総合演習		復習: 教科書 p.8~p.165	
第14回 到達度確認演習		復習:教科書 p.8~p.165	
アクティブ・ラーニング			
ICT活用	UNIPA等LMSによる、学習課題や学習教材の提示・配信、学習課題の提出等/メールやチャット等による学生と教職員間での学習に関するコミュニケーション の機会		
授業外学修時間	合計625分(約45分/週)が目安です。詳しくは各授業回の授業外学修時間欄を参照してください。		

成績評価について (定期 試験など)	平素の成績によって評価する(B~Eに記載)		
成績評価 種別	成績評価 %割合	成績評価基準の詳細等	
A.定期試験(筆記/レポート 試験/実技/口述)			
B.レポート(定期試験以外)			
C.小テスト等	90	40%:第1回〜第12回の小テスト、提出物 10%:第13回の総合演習 40%:第14回の到達度確認演習	
D.成果発表			
E.受講態度	10	授業への参加状況を小テストの受験や出席等から確認し評価する。	
課題 (試験や小テスト、レポート等) に対するフィードバックの方法	小テストは筑女ネット上の	システムにより結果がフィードバックされる。	
成績評価に関する留意点			

教科書購入	必要あり(下記教科書を購入してください)
-------	----------------------

教科書	書	名	著者名	発行所	ISBN
教科書1	「AIデータサイエンスリテラ	ラシー入門(改訂新版)」	吉岡 剛志、森倉 悠介、小林 領、照屋 健作	技術評論社	978-4297144098
教科書2					
教科書3					
教科書4					
教科書に関するお知らせ					
指定図書					
参考図書					
授業に参考となるURL					
オフィスアワー	授業実施日の昼休みの時間帯をオフィスアワーと設定する。このほか、オンライン(Teamsを使用)での相談等を受け付ける。必要な場合には事前に連絡を行うこと。				
授業に関する実務経験	なし				

	(1) 筑女DP(卒業までに身につく力)の積み上げ【日本語・日本文学科】:科目の修得に応じて	学修率
(1)-①	「倫理観・人間観」自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。	-
(1)-②	「自己管理能力」自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。	-
(1)-③	「チームワーク力」他者と協働して課題に取り組むことができる。	50%
(1)-④	「市民としての社会的責任・勤労観」社会の一員としての意識をもってその発展に関わることがで きる。	-
(2)-①	「コミュニケーション・スキル」多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。	50%
(2)-②	「情報リテラシー」多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。	100%
(2)-③	「論理的思考力」獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。	50%
(2)-④	「問題解決力」社会の多様な問題を発見し、解決することができる。	-
(2)-⑤	「幅広い視野」人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。	-
(3)-①	「キャリアを構想する力」自己にふさわしいキャリアを構想できる。	-
(3)-②-1	「基礎的な専門性」日本の言語・文学・文化の学びに基づいて、適切なコミュニケーションを図る ことができる。	-
(3)-②-2	「基礎的な専門性」日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、的確な言語表現を行うことがで きる。	-
(3)-②-3	「基礎的な専門性」日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づき、多様な他者との関わりを通 して見いだした自己の考えを示すことができる。	-
(4)-①	「課題探究力」これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。	-

授業科目名	データサイエンス基礎演習(福祉)	授業コード	41014009	科目ナンバリング (1、2 年次科目のみ)	cs1200202m	
担当教員	一ノ瀬 元史					
開講年度学期	2024年度後期	曜日時限	水曜1限	開講学科コース	人間科学科 社福	
配当学年	1年	授業形態	演習	単位数	1単位	
科目の目的と概要	Alおよびデータサイエンスの近年の動可視化について学ぶ。	Alおよびデータサイエンスの近年の動向を踏まえ、ビッグデータやAlの活用とそれに伴う社会の変化の様相、また背景にあるさまざまなデータの統計的な処理や可視化について学ぶ。				
到達目標【DPキーワード】	各種データについて適切に前処理して整理・集計し、それに基づいてデータの性質を判断し利用について検討することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの概念について理解し、自らの言葉で説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの活用事例について把握し、説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの活用事例について把握し、技術と社会との関係について適切に説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」					
DP達成に向けて行う活動 【DPキーワード】	各種データとAI・情報サービスの関連性の数理的理解「論理的思考力」 統計的データの処理についての演習「問題解決力」 AI・ビッグデータ活用事例と社会との関係についての学習「情報リテラシー」					
関連する科目	「情報処理基礎演習」「情報科学概論	「情報処理基礎演習」「情報科学概論」「データサイエンス応用演習A」「データサイエンス応用演習B」				
授業に関する情報(使用 するツール・課題の設定 場所など含)	資料の提供、課題提出等にLMS(筑女ネット)を用いる。					

	授業回 授業テーマと内容	授業外学修 (予習復習含む)【想定時間 (分)】	
第1回(授業ガイダンス)対象分野の概観および演習作業についての説明		復習:授業内容	
第2回(導入)1-1. 社会で	起きている変化、1-2. 社会で活用されているデータ	予習: 教科書 p.8~p.17	
第3回(導入)1-3. データ	・AIの活用領域、1-4. データ・AI活用のための技術	予習: 教科書 p.18~p.26	
第4回(導入)1-5. データ	・AI利活用の現場 、1-6. データ・AI利活用の最新動向	予習: 教科書 p.27~p.37	
第5回 (基礎) 2-1. Excelの	基本的な操作方法、2-2. 時系列データの可視化	予習: 教科書 p.38~p.71	
第6回 (基礎) 2-3. 平均の	算出とその可視化	予習: 教科書 p.72~p.83	
第7回 (基礎) 2-4. 標準偏差	差の算出とその可視化	予習: 教科書 p.84~p.97	
第8回 (基礎) 2-5. 大量のデータを扱う方法		予習: 教科書 p.98~p.113	
第9回 (基礎) 2-6. 基本統計量の算出と箱ひげ図		予習: 教科書 p.114~p.128	
第10回 (基礎) 2-7. 度数分布表とヒストグラムの作成		予習: 教科書 p.129~p.141	
第11回 (基礎) 2-8. 散布図の作成と相関係数の算出		予習: 教科書 p.142~p.154	
第12回 (基礎)2-9. 定性テ	ータの扱い方とクロス集計	予習: 教科書 p.155~p.165	
第13回 総合演習		復習: 教科書 p.8~p.165	
第14回 到達度確認演習		復習: 教科書 p.8~p.165	
アクティブ・ラーニング			
ICT活用	UNIPA等LMSによる、学習課題や学習教材の提示・配信、学習課題の提出等/メールやチャット等による学生と教職員間での学習に関するコミュニケーション の機会		
授業外学修時間 合計625分(約45分/週)が目安です。詳しくは各授業回の授業外学修時間欄を参照してください。			

成績評価について (定期 試験など)	平素の成績によって評価する(B~Eに記載)					
成績評価 種別	成績評価 %割合	成績評価基準の詳細等				
A.定期試験(筆記/レポート 試験/実技/口述)						
B.レポート(定期試験以外)						
C.小テスト等	90	40%:第1回〜第12回の小テスト、提出物 10%:第13回の総合演習 40%:第14回の到達度確認演習				
D.成果発表						
E.受講態度	10	授業への参加状況を小テストの受験や出席等から確認し評価する。				
課題 (試験や小テスト、レポート等) に対するフィードバックの方法	小テストは筑女ネット上のシステムにより結果がフィードバックされる。					
成績評価に関する留意点						

教科書購入	必要あり(下記教科書を購入してください)
-------	----------------------

教科書	書	名	著者名	発行所	ISBN
教科書1	「AIデータサイエンスリテラ	ラシー入門(改訂新版)」	吉岡 剛志、森倉 悠介、小林 領、照屋 健作	技術評論社	978-4297144098
教科書2					
教科書3					
教科書4					
教科書に関するお知らせ					
指定図書					
参考図書					
授業に参考となるURL					
オフィスアワー	授業実施日の昼休みの時間帯をオフィスアワーと設定する。このほか、オンライン(Teamsを使用)での相談等を受け付ける。必要な場合には事前に連絡を行うこと。				
授業に関する実務経験	なし				

	(1) 筑女DP(卒業までに身につく力)の積み上げ【日本語・日本文学科】: 科目の修得に応じて	学修率
(1)-①	「倫理観・人間観」自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。	-
(1)-②	「自己管理能力」自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。	-
(1)-③	「チームワーク力」他者と協働して課題に取り組むことができる。	50%
(1)-④	「市民としての社会的責任・勤労観」社会の一員としての意識をもってその発展に関わることがで きる。	-
(2)-①	「コミュニケーション・スキル」多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができ る。	50%
(2)-②	「情報リテラシー」多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。	100%
(2)-③	「論理的思考力」獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。	50%
(2)-4	「問題解決力」社会の多様な問題を発見し、解決することができる。	-
(2)-⑤	「幅広い視野」人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。	-
(3)-①	「キャリアを構想する力」自己にふさわしいキャリアを構想できる。	-
(3)-②-1	「基礎的な専門性」日本の言語・文学・文化の学びに基づいて、適切なコミュニケーションを図る ことができる。	-
(3)-②-2	「基礎的な専門性」日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、的確な言語表現を行うことがで きる。	-
(3)-②-3	「基礎的な専門性」日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づき、多様な他者との関わりを通 して見いだした自己の考えを示すことができる。	-
(4)-①	「課題探究力」これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。	-

授業科目名	データサイエンス基礎演習 (初等Aクラ ス)	授業コード	41014013	科目ナンバリング(1、2 年次科目のみ)	cs1200202m
担当教員	持尾 弘司				
開講年度学期	2024年度後期	曜日時限	水曜2限	開講学科コース	人間科学科 初教
配当学年	1年	授業形態	演習	単位数	1単位
科目の目的と概要	Alおよびデータサイエンスの近年の動可視化について学ぶ。	Alおよびデータサイエンスの近年の動向を踏まえ、ビッグデータやAlの活用とそれに伴う社会の変化の様相、また背景にあるさまざまなデータの統計的な処理や可視化について学ぶ。			
到達目標【DPキーワード】	各種データについて適切に前処理して整理・集計し、それに基づいてデータの性質を判断し利用について検討することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの概念について理解し、自らの言葉で説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの活用事例について把握し、説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの活用事例について把握し、説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」				
DP達成に向けて行う活動 【DPキーワード】	各種データとAI・情報サービスの関連性の数理的理解「論理的思考力」 統計的データの処理についての演習「問題解決力」 AI・ビッグデータ活用事例と社会との関係についての学習「情報リテラシー」				
関連する科目	「情報処理基礎演習」「情報科学概論	」「データサイエンス応用演習	習A」「データサイエンス応用	寅習B」	
授業に関する情報(使用 するツール・課題の設定 場所など含)	資料の提供、課題提出等にLMS(筑女ネット)を用いる。				

	授業回 授業テーマと内容	授業外学修(予習復習含む)【想定時間(分)】	
第1回(授業ガイダンス)対象分野の概観および演習作業についての説明		復習:授業内容	
第2回 (導入) 1-1. 社会で	起きている変化、1-2. 社会で活用されているデータ	予習: 教科書 p.8~p.17	
第3回 (導入)1-3. データ	・AIの活用領域、1-4. データ・AI活用のための技術	予習: 教科書 p.18~p.26	
第4回 (導入)1-5. データ	・AI利活用の現場 、1-6. データ・AI利活用の最新動向	予習: 教科書 p.27~p.37	
第5回 (基礎) 2-1. Excelの	基本的な操作方法、2-2. 時系列データの可視化	予習: 教科書 p.38~p.71	
第6回 (基礎) 2-3. 平均の	章出とその可視化	予習: 教科書 p.72~p.83	
第7回 (基礎) 2-4. 標準偏差	差の算出とその可視化	予習:教科書 p.84~p.97	
第8回 (基礎) 2-5. 大量のデータを扱う方法		予習: 教科書 p.98~p.113	
第9回 (基礎) 2-6. 基本統計量の算出と箱ひげ図		予習: 教科書 p.114~p.128	
第10回 (基礎) 2-7. 度数分布表とヒストグラムの作成		予習: 教科書 p.129~p.141	
第11回 (基礎) 2-8. 散布図	の作成と相関係数の算出	予習: 教科書 p.142~p.154	
第12回 (基礎) 2-9. 定性テ	ータの扱い方とクロス集計	予習: 教科書 p.155~p.165	
第13回 総合演習		復習: 教科書 p.8~p.165	
第14回 到達度確認演習		復習:教科書 p.8~p.165	
アクティブ・ラーニング			
ICT活用	UNIPA等LMSによる、学習課題や学習教材の提示・配信、学習課題の提出等/メールやチャット等による学生と教職員間での学習に関するコミュニケーシの機会		
授業外学修時間 合計625分(約45分/週)が目安です。詳しくは各授業回の授業外学修時間欄を参照してください。		学修時間欄を参照してください。	

成績評価について (定期 試験など)	平素の成績によって評価する(B~Eに記載)					
成績評価 種別	成績評価 %割合	成績評価基準の詳細等				
A.定期試験(筆記/レポート 試験/実技/口述)						
B.レポート(定期試験以外)						
C.小テスト等	90	40%:第1回〜第12回の小テスト、提出物 10%:第13回の総合演習 40%:第14回の到達度確認演習				
D.成果発表						
E.受講態度	10	授業への参加状況を小テストの受験や出席等から確認し評価する。				
課題 (試験や小テスト、レポート等) に対するフィードバックの方法	小テストは筑女ネット上のシステムにより結果がフィードバックされる。					
成績評価に関する留意点						

	教科書購入	必要あり(下記教科書を購入してください)	
--	-------	----------------------	--

教科書	書	名	著者名	発行所	ISBN
教科書1	「AIデータサイエンスリテラ	ラシー入門(改訂新版)」	吉岡 剛志、森倉 悠介、小林 領、照屋 健作	技術評論社	978-4297144098
教科書2					
教科書3					
教科書4					
教科書に関するお知らせ					
指定図書					
参考図書					
授業に参考となるURL					
オフィスアワー	授業実施日の昼休みの時間帯をオフィスアワーと設定する。このほか、オンライン(Teamsを使用)での相談等を受け付ける。必要な場合には事前に連絡を行うこと。				
授業に関する実務経験	なし				

	(1) 筑女DP(卒業までに身につく力)の積み上げ【日本語・日本文学科】:科目の修得に応じて	学修率
(1)-①	「倫理観・人間観」自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。	-
(1)-②	「自己管理能力」自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。	-
(1)-③	「チームワーク力」他者と協働して課題に取り組むことができる。	50%
(1)-④	「市民としての社会的責任・勤労観」社会の一員としての意識をもってその発展に関わることがで きる。	-
(2)-①	「コミュニケーション・スキル」多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。	50%
(2)-②	「情報リテラシー」多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。	100%
(2)-③	「論理的思考力」獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。	50%
(2)-④	「問題解決力」社会の多様な問題を発見し、解決することができる。	-
(2)-⑤	「幅広い視野」人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。	-
(3)-①	「キャリアを構想する力」自己にふさわしいキャリアを構想できる。	-
(3)-②-1	「基礎的な専門性」日本の言語・文学・文化の学びに基づいて、適切なコミュニケーションを図る ことができる。	-
(3)-②-2	「基礎的な専門性」日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、的確な言語表現を行うことがで きる。	-
(3)-②-3	「基礎的な専門性」日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づき、多様な他者との関わりを通 して見いだした自己の考えを示すことができる。	-
(4)-①	「課題探究力」これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。	-

授業科目名	データサイエンス基礎演習 (初等Bク ラス)	授業コード	41014014	科目ナンバリング (1、2 年次科目のみ)	cs1200202m	
担当教員	多川 孝央					
開講年度学期	2024年度後期	曜日時限	水曜2限	開講学科コース	人間科学科 初教	
配当学年	1年	授業形態	演習	単位数	1単位	
科目の目的と概要	Alおよびデータサイエンスの近年の動向を踏まえ、ビッグデータやAlの活用とそれに伴う社会の変化の様相、また背景にあるさまざまなデータの統計的な処理や可視化について学ぶ。					
到達目標【DPキーワード】	各種データについて適切に前処理して整理・集計し、それに基づいてデータの性質を判断し利用について検討することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの概念について理解し、自らの言葉で説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの活用事例について把握し、説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの活用事例について把握し、技術と社会との関係について適切に説明することができる。。「論理的思考力」「情報リテラシー」					
DP達成に向けて行う活動 【DPキーワード】	各種データとAI・情報サービスの関連性の数理的理解「論理的思考力」 統計的データの処理についての演習「問題解決力」 AI・ビッグデータ活用事例と社会との関係についての学習「情報リテラシー」					
関連する科目	「情報処理基礎演習」「情報科学概論	「情報処理基礎演習」「情報科学概論」「データサイエンス応用演習A」「データサイエンス応用演習B」				
授業に関する情報(使用 するツール・課題の設定 場所など含)	資料の提供、課題提出等にLMS(筑女ネット)を用いる。					

	授業回 授業テーマと内容	授業外学修(予習復習含む)【想定時間(分)】
第1回(授業ガイダンス)対象分野の概観および演習作業についての説明		復習:授業内容
第2回 (導入) 1-1. 社会で	起きている変化、1-2. 社会で活用されているデータ	予習: 教科書 p.8~p.17
第3回 (導入)1-3. データ	・AIの活用領域、1-4. データ・AI活用のための技術	予習: 教科書 p.18~p.26
第4回 (導入)1-5. データ	・AI利活用の現場 、1-6. データ・AI利活用の最新動向	予習: 教科書 p.27~p.37
第5回 (基礎) 2-1. Excelの	基本的な操作方法、2-2. 時系列データの可視化	予習: 教科書 p.38~p.71
第6回 (基礎) 2-3. 平均の	章出とその可視化	予習: 教科書 p.72~p.83
第7回 (基礎) 2-4. 標準偏差	差の算出とその可視化	予習: 教科書 p.84~p.97
第8回 (基礎) 2-5. 大量のデータを扱う方法		予習: 教科書 p.98~p.113
第9回 (基礎) 2-6. 基本統計量の算出と箱ひげ図		予習: 教科書 p.114~p.128
第10回 (基礎) 2-7. 度数分	布表とヒストグラムの作成	予習: 教科書 p.129~p.141
第11回 (基礎) 2-8. 散布図	の作成と相関係数の算出	予習: 教科書 p.142~p.154
第12回 (基礎) 2-9. 定性テ	ータの扱い方とクロス集計	予習: 教科書 p.155~p.165
第13回 総合演習		復習: 教科書 p.8~p.165
第14回 到達度確認演習		復習:教科書 p.8~p.165
アクティブ・ラーニング		
I C T 活用 UNIPA等LMSによる、学習課題や学習教材の提示・配信、学習課題の提出等/メールやチャット等による学生と教職員間での学習に関するコミュニケーの機会		
授業外学修時間 合計625分(約45分/週)が目安です。詳しくは各授業回の授業外学修時間欄を参照してください。		学修時間欄を参照してください。

成績評価について (定期 試験など)	平素の成績によって評価する(B~Eに記載)				
成績評価 種別	成績評価 %割合	成績評価基準の詳細等			
A.定期試験(筆記/レポート 試験/実技/口述)					
B.レポート(定期試験以外)					
C.小テスト等	90	40%:第1回〜第12回の小テスト、提出物 10%:第13回の総合演習 40%:第14回の到達度確認演習			
D.成果発表					
E.受講態度	10	授業への参加状況を小テストの受験や出席等から確認し評価する。			
課題 (試験や小テスト、レポート等) に対するフィードバックの方法	小テストは筑女ネット上のシステムにより結果がフィードバックされる。				
成績評価に関する留意点					

	教科書購入	必要あり(下記教科書を購入してください)	
--	-------	----------------------	--

教科書	書	名	著者名	発行所	ISBN
教科書1	「AIデータサイエンスリテラ	ラシー入門(改訂新版)」	吉岡 剛志、森倉 悠介、小林 領、照屋 健作	技術評論社	978-4297144098
教科書2					
教科書3					
教科書4					
教科書に関するお知らせ					
指定図書					
参考図書					
授業に参考となるURL					
オフィスアワー	授業実施日の昼休みの時間帯をオフィスアワーと設定する。このほか、オンライン(Teamsを使用)での相談等を受け付ける。必要な場合には事前に連絡を行うこと。				
授業に関する実務経験	なし				

	(1) 筑女DP(卒業までに身につく力)の積み上げ【日本語・日本文学科】: 科目の修得に応じて	学修率
(1)-①	「倫理観・人間観」自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。	-
(1)-②	「自己管理能力」自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。	-
(1)-③	「チームワーク力」他者と協働して課題に取り組むことができる。	50%
(1)-④	「市民としての社会的責任・勤労観」社会の一員としての意識をもってその発展に関わることができる。	-
(2)-①	「コミュニケーション・スキル」多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。	50%
(2)-②	「情報リテラシー」多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。	100%
(2)-③	「論理的思考力」獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。	50%
(2)-4	「問題解決力」社会の多様な問題を発見し、解決することができる。	-
(2)-⑤	「幅広い視野」人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。	-
(3)-①	「キャリアを構想する力」自己にふさわしいキャリアを構想できる。	-
(3)-②-1	「基礎的な専門性」日本の言語・文学・文化の学びに基づいて、適切なコミュニケーションを図る ことができる。	-
(3)-②-2	「基礎的な専門性」日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、的確な言語表現を行うことがで きる。	-
(3)-②-3	「基礎的な専門性」日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づき、多様な他者との関わりを通 して見いだした自己の考えを示すことができる。	-
(4)-①	「課題探究力」これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。	-
	·	

授業科目名	データサイエンス基礎演習 (幼保)	授業コード	41014012	科目ナンバリング (1、2 年次科目のみ)	cs1200202m		
担当教員	一ノ瀬 元史	一ノ瀬 元史					
開講年度学期	2024年度後期	曜日時限	水曜2限	開講学科コース	人間科学科 幼保		
配当学年	1年	授業形態	演習	単位数	1単位		
科日の日的と概要	Alおよびデータサイエンスの近年の動向を踏まえ、ビッグデータやAlの活用とそれに伴う社会の変化の様相、また背景にあるさまざまなデータの統計的な処理や可視化について学ぶ。						
到達目標【DPキーワード】	各種データについて適切に前処理して整理・集計し、それに基づいてデータの性質を判断し利用について検討することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの概念について理解し、自らの言葉で説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの活用事例について把握し、説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの活用事例について把握し、説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」						
DP 達成に向けて行う沽動	各種データとAI・情報サービスの関連性の数理的理解「論理的思考力」 統計的データの処理についての演習「問題解決力」 AI・ビッグデータ活用事例と社会との関係についての学習「情報リテラシー」						
関連する科目	「情報処理基礎演習」「情報科学概論	」「データサイエンス応用演習	習A」「データサイエンス応用注	寅習B」			
授業に関する情報(使用 するツール・課題の設定 場所など含)	資料の提供、課題提出等にLMS(筑女ネット)を用いる。						

	授業回 授業テーマと内容	授業外学修(予習復習含む)【想定時間(分)】
第1回(授業ガイダンス)対象分野の概観および演習作業についての説明		復習:授業内容
第2回 (導入) 1-1. 社会で	起きている変化、1-2. 社会で活用されているデータ	予習: 教科書 p.8~p.17
第3回 (導入)1-3. データ	・AIの活用領域、1-4. データ・AI活用のための技術	予習: 教科書 p.18~p.26
第4回 (導入)1-5. データ	・AI利活用の現場 、1-6. データ・AI利活用の最新動向	予習: 教科書 p.27~p.37
第5回 (基礎) 2-1. Excelの	基本的な操作方法、2-2. 時系列データの可視化	予習: 教科書 p.38~p.71
第6回 (基礎) 2-3. 平均の	章出とその可視化	予習: 教科書 p.72~p.83
第7回 (基礎) 2-4. 標準偏差	差の算出とその可視化	予習: 教科書 p.84~p.97
第8回 (基礎) 2-5. 大量のデータを扱う方法		予習: 教科書 p.98~p.113
第9回 (基礎) 2-6. 基本統計量の算出と箱ひげ図		予習: 教科書 p.114~p.128
第10回 (基礎) 2-7. 度数分	布表とヒストグラムの作成	予習: 教科書 p.129~p.141
第11回 (基礎) 2-8. 散布図	の作成と相関係数の算出	予習: 教科書 p.142~p.154
第12回 (基礎) 2-9. 定性テ	ータの扱い方とクロス集計	予習: 教科書 p.155~p.165
第13回 総合演習		復習: 教科書 p.8~p.165
第14回 到達度確認演習		復習:教科書 p.8~p.165
アクティブ・ラーニング		
I C T 活用 UNIPA等LMSによる、学習課題や学習教材の提示・配信、学習課題の提出等/メールやチャット等による学生と教職員間での学習に関するコミュニケーの機会		
授業外学修時間 合計625分(約45分/週)が目安です。詳しくは各授業回の授業外学修時間欄を参照してください。		学修時間欄を参照してください。

成績評価について (定期 試験など)	平素の成績によって評価する(B~Eに記載)						
成績評価 種別	成績評価 %割合	成績評価基準の詳細等					
A.定期試験(筆記/レポート 試験/実技/口述)							
B.レポート(定期試験以外)							
C.小テスト等	90	40%:第1回〜第12回の小テスト、提出物 10%:第13回の総合演習 40%:第14回の到達度確認演習					
D.成果発表							
E.受講態度	10	授業への参加状況を小テストの受験や出席等から確認し評価する。					
課題 (試験や小テスト、レポート等) に対するフィードバックの方法	小テストは筑女ネット上のシステムにより結果がフィードバックされる。						
成績評価に関する留意点							

	教科書購入	必要あり(下記教科書を購入してください)	
--	-------	----------------------	--

教科書	書	名	著者名	発行所	ISBN
教科書1	「AIデータサイエンスリテラ	ラシー入門(改訂新版)」	吉岡 剛志、森倉 悠介、小林 領、照屋 健作	技術評論社	978-4297144098
教科書2					
教科書3					
教科書4					
教科書に関するお知らせ					
指定図書					
参考図書					
授業に参考となるURL					
オフィスアワー	授業実施日の昼休みの時間帯をオフィスアワーと設定する。このほか、オンライン(Teamsを使用)での相談等を受け付ける。必要な場合には事前に連絡を行うこと。				
授業に関する実務経験	なし				

	(1) 筑女DP(卒業までに身につく力)の積み上げ【日本語・日本文学科】: 科目の修得に応じて	学修率
(1)-①	「倫理観・人間観」自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。	-
(1)-②	「自己管理能力」自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。	-
(1)-③	「チームワーク力」他者と協働して課題に取り組むことができる。	50%
(1)-④	「市民としての社会的責任・勤労観」社会の一員としての意識をもってその発展に関わることがで きる。	-
(2)-①	「コミュニケーション・スキル」多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。	50%
(2)-②	「情報リテラシー」多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。	100%
(2)-③	「論理的思考力」獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。	50%
(2)-④	「問題解決力」社会の多様な問題を発見し、解決することができる。	-
(2)-⑤	「幅広い視野」人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。	-
(3)-①	「キャリアを構想する力」自己にふさわしいキャリアを構想できる。	-
(3)-2-1	「基礎的な専門性」日本の言語・文学・文化の学びに基づいて、適切なコミュニケーションを図る ことができる。	-
(3)-2-2	「基礎的な専門性」日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、的確な言語表現を行うことがで きる。	-
(3)-2-3	「基礎的な専門性」日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づき、多様な他者との関わりを通 して見いだした自己の考えを示すことができる。	-
(4)-①	「課題探究力」これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。	-

授業科目名	データサイエンス基礎演習 (現社Aクラ ス)	授業コード	41014007	科目ナンバリング(1、2 年次科目のみ)	cs1200202m	
担当教員	小川 暢祐					
開講年度学期	2024年度後期	曜日時限	月曜2限	開講学科コース	現代社会学部共通	
配当学年	1年	授業形態	演習	単位数	1単位	
科目の目的と概要	Alおよびデータサイエンスの近年の動可視化について学ぶ。	Alおよびデータサイエンスの近年の動向を踏まえ、ビッグデータやAlの活用とそれに伴う社会の変化の様相、また背景にあるさまざまなデータの統計的な処理や可視化について学ぶ。				
到達目標【DPキーワード】	各種データについて適切に前処理して整理・集計し、それに基づいてデータの性質を判断し利用について検討することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの概念について理解し、自らの言葉で説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの活用事例について把握し、説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの活用事例について把握し、説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」					
DP達成に向けて行う活動 【DPキーワード】	各種データとAI・情報サービスの関連性の数理的理解「論理的思考力」 統計的データの処理についての演習「問題解決力」 AI・ビッグデータ活用事例と社会との関係についての学習「情報リテラシー」					
関連する科目	「情報処理基礎演習」「情報科学概論」「データサイエンス応用演習A」「データサイエンス応用演習B」					
授業に関する情報(使用 するツール・課題の設定 場所など含)	資料の提供、課題提出等にLMS(筑女ネット)を用いる。					

	授業回 授業テーマと内容	授業外学修(予習復習含む)【想定時間(分)】	
第1回(授業ガイダンス)対	象分野の概観および演習作業についての説明	復習:授業内容	
第2回 (導入) 1-1. 社会で起	起きている変化、1-2. 社会で活用されているデータ	予習: 教科書 p.8~p.17	
第3回 (導入) 1-3. データ	・AIの活用領域、1-4. データ・AI活用のための技術	予習: 教科書 p.18~p.26	
第4回 (導入)1-5. データ	・AI利活用の現場 、1-6. データ・AI利活用の最新動向	予習: 教科書 p.27~p.37	
第5回 (基礎) 2-1. Excelの	基本的な操作方法、2-2. 時系列データの可視化	予習: 教科書 p.38~p.71	
第6回 (基礎) 2-3. 平均の第	章出とその可視化	予習: 教科書 p.72~p.83	
第7回 (基礎) 2-4. 標準偏差	差の算出とその可視化	予習: 教科書 p.84~p.97	
第8回 (基礎) 2-5. 大量のデータを扱う方法		予習: 教科書 p.98~p.113	
第9回 (基礎) 2-6. 基本統計量の算出と箱ひげ図		予習: 教科書 p.114~p.128	
第10回 (基礎) 2-7. 度数分布表とヒストグラムの作成		予習: 教科書 p.129~p.141	
第11回 (基礎) 2-8. 散布図	の作成と相関係数の算出	予習: 教科書 p.142~p.154	
第12回 (基礎) 2-9. 定性デ	ータの扱い方とクロス集計	予習: 教科書 p.155~p.165	
第13回 総合演習		復習: 教科書 p.8~p.165	
第14回 到達度確認演習		復習:教科書 p.8~p.165	
アクティブ・ラーニング			
ICT活用	UNIPA等LMSによる、学習課題や学習教材の提示・配信、学習課題の提出等/メールやチャット等による学生と教職員間での学習に関するコミュニケーション の機会		
授業外学修時間	合計625分(約45分/週)が目安です。詳しくは各授業回の授業外学修時間欄を参照してください。		

成績評価について (定期 試験など)	平素の成績によって評価する(B~Eに記載)				
成績評価 種別	成績評価 %割合	成績評価基準の詳細等			
A.定期試験(筆記/レポート 試験/実技/口述)					
B.レポート(定期試験以外)					
C.小テスト等	90	40%:第1回〜第12回の小テスト、提出物 10%:第13回の総合演習 40%:第14回の到達度確認演習			
D.成果発表					
E.受講態度	10	授業への参加状況を小テストの受験や出席等から確認し評価する。			
課題 (試験や小テスト、レポート等) に対するフィードバックの方法	小テストは筑女ネット上のシステムにより結果がフィードバックされる。				
成績評価に関する留意点					

教科書購入	必要あり(下記教科書を購入してください)
-------	----------------------

教科書	書	名	著者名	発行所	ISBN
教科書1	「AIデータサイエンスリテラ	ラシー入門(改訂新版)」	吉岡 剛志、森倉 悠介、小林 領、照屋 健作	技術評論社	978-4297144098
教科書2					
教科書3					
教科書4					
教科書に関するお知らせ					
指定図書					
参考図書					
授業に参考となるURL					
オフィスアワー	授業実施日の昼休みの時間帯をオフィスアワーと設定する。このほか、オンライン(Teamsを使用)での相談等を受け付ける。必要な場合には事前に連絡を行うこと。				
授業に関する実務経験	なし				

	(1) 筑女DP(卒業までに身につく力)の積み上げ【日本語・日本文学科】: 科目の修得に応じて	学修率
(1)-①	「倫理観・人間観」自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。	-
(1)-②	「自己管理能力」自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。	-
(1)-③	「チームワーク力」他者と協働して課題に取り組むことができる。	50%
(1)-④	「市民としての社会的責任・勤労観」社会の一員としての意識をもってその発展に関わることができる。	-
(2)-①	「コミュニケーション・スキル」多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。	50%
(2)-②	「情報リテラシー」多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。	100%
(2)-③	「論理的思考力」獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。	50%
(2)-4	「問題解決力」社会の多様な問題を発見し、解決することができる。	-
(2)-⑤	「幅広い視野」人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。	-
(3)-①	「キャリアを構想する力」自己にふさわしいキャリアを構想できる。	-
(3)-②-1	「基礎的な専門性」日本の言語・文学・文化の学びに基づいて、適切なコミュニケーションを図る ことができる。	-
(3)-2-2	「基礎的な専門性」日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、的確な言語表現を行うことができる。	-
(3)-②-3	「基礎的な専門性」日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づき、多様な他者との関わりを通 して見いだした自己の考えを示すことができる。	-
(4)-①	「課題探究力」これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。	-

科目の目的と概要 可視化について学ぶ。 各種データについて適切に前処理して整理・集計し、それに基づいてデータの性質を判断し利用について検討することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 Alやビッグデータの概念について理解し、自らの言葉で説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 Alやビッグデータの活用事例について把握し、説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 Alやビッグデータの活用事例について把握し、技術と社会との関係について適切に説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 DP達成に向けて行う活動 【DPキーワード】 各種データとAl・情報サービスの関連性の数理的理解「論理的思考力」 統計的データの処理についての演習「問題解決力」 Al・ビッグデータ活用事例と社会との関係についての学習「情報リテラシー」 関連する科目 「情報処理基礎演習」「情報科学概論」「データサイエンス応用演習A」「データサイエンス応用演習B」 授業に関する情報(使用 するツール・課題の設定 資料の提供、課題提出等にLMS(筑女ネット)を用いる。							
開講年度学期 2024年度後期 曜日時限 月曜2限 開講学科コース 現代社会学部共通 配当学年 1年 授業形態 演習 単位数 1単位 科目の目的と概要 Alおよびデータサイエンスの近年の動向を踏まえ、ビッグデータやAlの活用とそれに伴う社会の変化の様相、また背景にあるさまざまなデータの統計的な可視化について学ぶ。 各種データについて適切に前処理して整理・集計し、それに基づいてデータの性質を判断し利用について検討することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 Alやビッグデータの標念について理解し、自らの言葉で説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 Alやビッグデータの活用事例について把握し、説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 Alやビッグデータの活用事例について把握し、説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 DP達成に向けて行う活動 【DPキーワード】 名種データとAl・情報サービスの関連性の数理的理解「論理的思考力」 統計的データの処理についての演習「問題解決力」 Al・ビッグデータ活用事例と社会との関係についての学習「情報リテラシー」 関連する科目 「情報処理基礎演習」「情報科学概論」「データサイエンス応用演習A」「データサイエンス応用演習B」 授業に関する情報(使用するツール・課題の設定	授業科目名		授業コード	41014008		cs1200202m	
配当学年 1年 授業形態 演習 単位数 1単位	担当教員	多川 孝央					
科目の目的と概要 Alおよびデータサイエンスの近年の動向を踏まえ、ビッグデータやAlの活用とそれに伴う社会の変化の様相、また背景にあるさまざまなデータの統計的な可視化について学ぶ。 各種データについて適切に前処理して整理・集計し、それに基づいてデータの性質を判断し利用について検討することができる。「論理的思考力」「情報リシー」 Alやビッグデータの概念について理解し、自らの言葉で説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 Alやビッグデータの活用事例について把握し、説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 Alやビッグデータの活用事例について把握し、説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 Alやビッグデータの活用事例について把握し、技術と社会との関係について適切に説明することができる。。「論理的思考力」「情報リテラシー」 DP達成に向けて行う活動 【DPキーワード】 を種データとAl・情報サービスの関連性の数理的理解「論理的思考力」 統計的データの処理についての演習「問題解決力」 Al・ビッグデータ活用事例と社会との関係についての学習「情報リテラシー」 関連する科目 「情報処理基礎演習」「情報科学概論」「データサイエンス応用演習A」「データサイエンス応用演習B」 授業に関する情報(使用 するツール・課題の設定 資料の提供、課題提出等にLMS(筑女ネット)を用いる。	開講年度学期	2024年度後期	曜日時限	月曜2限	開講学科コース	現代社会学部共通	
科目の目的と概要 可視化について学ぶ。 各種データについて適切に前処理して整理・集計し、それに基づいてデータの性質を判断し利用について検討することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 Alやビッグデータの概念について理解し、自らの言葉で説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 Alやビッグデータの活用事例について把握し、説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 Alやビッグデータの活用事例について把握し、技術と社会との関係について適切に説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 DP達成に向けて行う活動 【DPキーワード】 各種データとAl・情報サービスの関連性の数理的理解「論理的思考力」 統計的データの処理についての演習「問題解決力」 Al・ビッグデータ活用事例と社会との関係についての学習「情報リテラシー」 関連する科目 「情報処理基礎演習」「情報科学概論」「データサイエンス応用演習A」「データサイエンス応用演習B」 授業に関する情報(使用 するツール・課題の設定 資料の提供、課題提出等にLMS(筑女ネット)を用いる。	配当学年	1年	授業形態	演習	単位数	1単位	
 到達目標【DPキーワード】 AIやビッグデータの概念について理解し、自らの言葉で説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの活用事例について把握し、説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの活用事例について把握し、技術と社会との関係について適切に説明することができる。。「論理的思考力」「情報リテラシー」 DP達成に向けて行う活動 [DPキーワード] 各種データとAI・情報サービスの関連性の数理的理解「論理的思考力」 統計的データの処理についての演習「問題解決力」 AI・ビッグデータ活用事例と社会との関係についての学習「情報リテラシー」 関連する科目 「情報処理基礎演習」「情報科学概論」「データサイエンス応用演習A」「データサイエンス応用演習B」 授業に関する情報(使用するツール・課題の設定 資料の提供、課題提出等にLMS(筑女ネット)を用いる。 	科目の目的と概要		Alおよびデータサイエンスの近年の動向を踏まえ、ビッグデータやAlの活用とそれに伴う社会の変化の様相、また背景にあるさまざまなデータの統計的な処理や可視化について学ぶ。				
【DPキーワード】	到達目標【DPキーワード】	AIやビッグデータの概念について理解し、自らの言葉で説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」 AIやビッグデータの活用事例について把握し、説明することができる。「論理的思考力」「情報リテラシー」					
授業に関する情報(使用 するツール・課題の設定 資料の提供、課題提出等にLMS(筑女ネット)を用いる。		統計的データの処理についての演習「問題解決力」					
するツール・課題の設定 資料の提供、課題提出等にLMS(筑女ネット)を用いる。	関連する科目	「情報処理基礎演習」「情報科学概論」「データサイエンス応用演習A」「データサイエンス応用演習B」					
物別はC召)		資料の提供、課題提出等にLMS(筑女ネット)を用いる。					

	授業回 授業テーマと内容	授業外学修(予習復習含む)【想定時間(分)】	
第1回(授業ガイダンス)対	象分野の概観および演習作業についての説明	復習:授業内容	
第2回 (導入) 1-1. 社会で	起きている変化、1-2. 社会で活用されているデータ	予習: 教科書 p.8~p.17	
第3回 (導入)1-3. データ	・AIの活用領域、1-4. データ・AI活用のための技術	予習: 教科書 p.18~p.26	
第4回 (導入)1-5. データ	・AI利活用の現場 、1-6. データ・AI利活用の最新動向	予習: 教科書 p.27~p.37	
第5回 (基礎) 2-1. Excelの	基本的な操作方法、2-2. 時系列データの可視化	予習: 教科書 p.38~p.71	
第6回 (基礎) 2-3. 平均の	章出とその可視化	予習: 教科書 p.72~p.83	
第7回 (基礎) 2-4. 標準偏差	差の算出とその可視化	予習: 教科書 p.84~p.97	
第8回 (基礎) 2-5. 大量のデータを扱う方法		予習: 教科書 p.98~p.113	
第9回 (基礎) 2-6. 基本統計量の算出と箱ひげ図		予習: 教科書 p.114~p.128	
第10回 (基礎) 2-7. 度数分布表とヒストグラムの作成		予習: 教科書 p.129~p.141	
第11回 (基礎) 2-8. 散布図	の作成と相関係数の算出	予習: 教科書 p.142~p.154	
第12回 (基礎) 2-9. 定性テ	ータの扱い方とクロス集計	予習: 教科書 p.155~p.165	
第13回 総合演習		復習: 教科書 p.8~p.165	
第14回 到達度確認演習		復習:教科書 p.8~p.165	
アクティブ・ラーニング			
ICT活用	UNIPA等LMSによる、学習課題や学習教材の提示・配信、学習課題の提出等/メールやチャット等による学生と教職員間での学習に関するコミュニケーションの機会		
授業外学修時間 合計625分(約45分/週)が目安です。詳しくは各授業回の授業外学修時間欄を参照してください。			

成績評価について (定期 試験など)	平素の成績によって評価する(B~Eに記載)				
成績評価 種別	成績評価 %割合	成績評価基準の詳細等			
A.定期試験(筆記/レポート 試験/実技/口述)					
B.レポート(定期試験以外)					
C.小テスト等	90	40%:第1回〜第12回の小テスト、提出物 10%:第13回の総合演習 40%:第14回の到達度確認演習			
D.成果発表					
E.受講態度	10	授業への参加状況を小テストの受験や出席等から確認し評価する。			
課題 (試験や小テスト、レポート等) に対するフィードバックの方法	小テストは筑女ネット上のシステムにより結果がフィードバックされる。				
成績評価に関する留意点					

	教科書購入	必要あり(下記教科書を購入してください)	
--	-------	----------------------	--

教科書	書	名	著者名	発行所	ISBN
教科書1	「AIデータサイエンスリテラ	ラシー入門(改訂新版)」	吉岡 剛志、森倉 悠介、小林 領、照屋 健作	技術評論社	978-4297144098
教科書2					
教科書3					
教科書4					
教科書に関するお知らせ					
指定図書					
参考図書					
授業に参考となるURL					
オフィスアワー	授業実施日の昼休みの時間 うこと。	帯をオフィスアワーと設定す	る。このほか、オンライン(Teamsをf	使用)での相談等を受け付ける。必要	な場合には事前に連絡を行
授業に関する実務経験	なし				

	(1) 筑女DP(卒業までに身につく力)の積み上げ【日本語・日本文学科】:科目の修得に応じて	学修率
(1)-①	「倫理観・人間観」自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。	-
(1)-②	「自己管理能力」自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。	-
(1)-③	「チームワーク力」他者と協働して課題に取り組むことができる。	50%
(1)-④	「市民としての社会的責任・勤労観」社会の一員としての意識をもってその発展に関わることがで きる。	-
(2)-①	「コミュニケーション・スキル」多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。	50%
(2)-②	「情報リテラシー」多様な情報の中から必要なものを選択し、活用することができる。	100%
(2)-③	「論理的思考力」獲得した情報や知識を使って物事を筋道立てて考えることができる。	50%
(2)-④	「問題解決力」社会の多様な問題を発見し、解決することができる。	-
(2)-⑤	「幅広い視野」人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。	-
(3)-①	「キャリアを構想する力」自己にふさわしいキャリアを構想できる。	-
(3)-②-1	「基礎的な専門性」日本の言語・文学・文化の学びに基づいて、適切なコミュニケーションを図る ことができる。	-
(3)-②-2	「基礎的な専門性」日本語の構造や特徴に対する理解に基づいて、的確な言語表現を行うことがで きる。	-
(3)-②-3	「基礎的な専門性」日本の文学及び文化の特質に対する理解に基づき、多様な他者との関わりを通 して見いだした自己の考えを示すことができる。	-
(4)-①	「課題探究力」これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に向き合うことができる。	-

2024

学品・学科

39

[文学部]

日本語・日本文学科 開講科目表

○は必修科目

			第一年次			第二年次			第三年次			第四年次				卒業	に必要	な単位数	(
1	区分	is.		332	nde		12/	n.t.		117	n.t.		ы	n+			選択単位	ī.		備考
	IA 7	ū	授業科目	単位	時期	授業科目	位位	時期	授業科目	単位	時期	授業科目	単位	時期	必修	必修 選択	学科 選択	自由 選択	合計)HE -5
		仏教	○仏教と人間 I		前	○仏教と社会 I		前			П				8					○全学共通科目
1		教	○仏教と人間Ⅱ		後	○仏教と社会Ⅱ	2	後							0					・必修科日16単位を
1			○キャリアデザイン	2	前	女性とキャリア A		ij∙8												修得しなければなら ない。
	쿠	١,.	○ジェンダー論入門		後	女性とキャリア B		前榜												・「コア」の「女性」、
1		女性	女性とウエルネスI		前	女性と文化 A		前榜							4					「スキルズ」の「基
		,	女性とウエルネスⅡ	1	後	女性と文化 B		前格												礎」「情報」より必 修科目以外に2単位
						ウエルネス・スポーツ論	1	前·後								2				以上修得しなければ
		基礎	○基礎ゼミナール		前										2	_				ならない。
1		떋	日本語コミュニケーション	-	後															・「スキルズ」の「コ ミュニケーション」
1		情	○情報処理基礎演習	1	前	データサイエンス応用演習 A		前後							_					より2単位以上修得
1		情報	○データサイエンス基礎演習	1	後後	データサイエンス応用演習 B	1	前馆							2					しなければならな
全	z		情報科学概論 英語スキルズ I		俊前	英語スキルズⅢ	1	前		_	\vdash		_				-			・「ドアーズ」の「世
1 *			英語スキルズⅡ		後	大品スキルス皿 TOEIC Preparation		後												界へのドア」「社会
1	丰		フランス語Ⅰ	1	前	TOEIC Freparation	'	1/2												へのドア」「学びへ のドア」より、それ
学	ル	3.	フランス語Ⅱ	1	後															ぞれ2単位以上修得
	ズ	ニテケ	中国語Ⅰ	1	前															しなければならな
共	^	ケー	中国語Ⅱ	1	後											2				• 「Global Project」
1 75		÷	韓国語Ⅰ	1	前															「SocialProject」
		ョン	韓国語Ⅱ	1	後														124	「SocialProject」 は、大学で定められ る各種活動に取り組
通		*	はじめての手話 I	1	前													20		お、その活動内容・
İ			はじめての手話Ⅱ	1	後														İ	時間等により単位を 認定する。それぞれ
科		世	国際社会と文化 A	2	前		Г	Т									1			6単位まで修得する
77		界	国際社会と文化 B		後															ことができる。
		へ の	スタディ・アブロード A		後											2				
目		ドア	スタディ・アブロード B	2	前															
		L	Global Project	1	L.		L	1			Ш						-			
	ĸ	の社	キャリアコミュニケーション	1		キャリアプラン		前												
1	ア	ド会 アヘ	パーソナルファイナンス	1	後	企業研究		前								2				
	′		Social Project	1	11. 70	インターンシップ研究		前			H		_				-			
	1		哲学		前·後 前·後			後前												
	ズ	坐	倫理 メディア		目·彼 前·後	日本国憲法 人権教育	2													
		学 び	芸術		前後	八惟织月	~	1安												
		0	本門 教育	1	前後											2				
		ドア	心理		前後															
		'	環境		前後															
			生命	Ιî	前・後															
			1	<u> </u>	par 02		_	-		_	_		_				_	J	I	· .

_			H-2/6-12 - 4- 2- 2-	1 2	34	1487=25124	1 2	24	ロナナルは	2	26	1	_	_	-			1	ı	0.040 # 140 C
	共。	k.tr	異文化コミュニケーション 異文化探求 PBL	2	前後			前前	日本文化論		前後									○学科専攻科目
	共生科目	文学							日本事情	2	俊				-	4				・必修科目14単位 修得しなければな
	晉任	上部	国際文化論	2	後		2	後												ない。
\perp			言語学	2	後		_			_			_	\perp	_					・「文学部多文化共
			○日本語学概論	2	前															科目」より4単位
	1	基礎斗	○古代文学概論(日本文学史を含む)	2	前															上修得しなければ らない。
	10 A	4E 3-	○中・近世文学模論(日本文学史を含む)	2	後									- [-	8					・「日本語学」より
	E	1	○近・現代文学模論(日本文学史を含む)	2	後															単位以上修得しな
L			中国文学概論	2	後									\perp						ればならない。
L			基		幹	科目			発	展		科目		\perp						・「日本文学」のA
			日本語の語彙	2	後	日本語文法論		前	日本語学演習 I	2	前			前						B群よりそれぞれ 単位・8単位以上
			日本語学特殊講義	2		日本語音声論		後	日本語学演習Ⅱ	2	後	日本語教育演習Ⅱ 2	2	後						得しなければなり
		1				日本の方言		前	古代日本語研究	2	後									U _o
	4	k				日本語の歴史	2	後	現代日本語研究	2	前					8				・「日本文化」より
	日才能得	百				日本語教育法 A I		前	日本語とジェンダー	2	前					0				単位以上修得した ればならない。
:	7	r-				日本語教育法 A Ⅱ	2		日本語教育法 B I	2	前									・「現代コミュニク
						日本語教材研究	2	後	日本語教育法 B Ⅱ	2	後		1							ション」より必何
									日本語教育実習	1	後		İ	ı	İ					目以外に4単位.
ŀ -			源氏物語を読む	2	後	古典文学基礎研究	2	前·徐	古文読解	2	後			T			ĺ			修得しなければ ない。
			江戸の小説を読む	2	後	近・現代文学基礎研究	2	前・後	現代文読解	2	後		İ	ı	İ					・学科選択として、
		A 群	現代文学を読む	2	前	文学と女性	2	後	漢文読解	2	前			- 1	İ	4				記以外に28単位
		ÖF.	漢字と故事成語	2	前	日本の詩歌	2						İ	ı	İ					上修得しなけれ
	п		日本文学特殊講義	2			-	^					ı		ı		28			らない。
	- 1		H-1-X 1 11//10/77X	۳	\vdash	古代文学講読 I	2	前	古代文学演習I	2	前		+	+	\dashv					・「卒業論文」の原要件については、
	本					古代文学講読Ⅱ	2		古代文学演習Ⅱ	2	後		ı		ı					に定める。
	文					中・近世文学講読Ⅰ		前	中・近世文学演習Ⅰ	2	前									 「日本語学特殊講
	7	- n				中・近世文学講読Ⅱ	2		中・近世文学演習Ⅱ	2	後		1		ł					「日本文学特別
	,	B 群				近・現代文学講読Ⅰ		前	近・現代文学演習Ⅰ	2	前					8				義」「日本文化 ⁹ 講義」「仏教文
						近・現代文学講読Ⅱ	2		近・現代文学演習Ⅱ	2	後				1					殊講義 はそれ
						中国文学講読Ⅰ	2		中国文学演習Ⅰ	2	前									12単位まで修行
						中国文字講読 II	2		中国文字演習Ⅱ	2	後									ることができる。
\vdash			日本史Ⅰ	12	34			後	中国又字演習 Ⅱ 日本文化演習 I		_	□ 4-3645th 0	2 .	A.f.	\dashv					・他学部等科目は 単位を上限に「[
				2	前		1	1		2	前			前						選択科目」単位
			日本史Ⅱ	2	後	1		前	日本文化演習Ⅱ	2	後	文化観察演習 2	2 :	後						て含めることが
	E	3	考古学	2	前		2		日本伝統文化演習	2	前		ı							る。
	E 本 文 们	Ę	文化人類学	2	前		2		文化遺産論	2	後					8				※免許、資格、副 の取得に必要な
	à	È	現代文化論	2	後		2	前	書道・書道史	2	前									の修得単位数、
			日本芸能論	2	後				書誌学	2	前									方法については
			日本文化特殊講義	2																に定める。
L			仏教文化特殊講義	2	L								1							※授業科目は、年 よって開講年次
	ニケーション	現	○日本語表現演習 I	2	後			前		2				前						期が変わること
	ĩ	代				プレゼンテーション演習		後	出版メディア論	2	前			後 .	2	4				るので、授業時
	ショ	1 11				マスコミュニケーション論	2	前	編集技術	2	後	出版メディア演習 2	2 i	前	۱ '	4				や掲示に注意す と。
	ジ	A				マスメディアの表現	2	後	朗読とアナウンス	2	後									
	卒業	論文										○卒業論文 4	4	ı.	4					
					_									1 3	0	46	28	20	124	1

筑紫女学園大学 筑紫女学園大学大学院

ある。 おど・背部

学者・発売

[文学部]

○は必修科目 英語学科 開講科目表

			第一年次			第二年次			第三年次			第四年次					に必要だ		(
1	K :	33			nde		127	17.40		22.5	n.b		11/	n.t.		3	選択単位	Ï.		備考
	IA 7	/J	授業科目	単位	時期	授業科目	単位	時期	授業科目	単位	時期	授業科目	単位	時期	必修	必修 選択	学科 選択	自由 選択	合計	VIII -75
		仏教	○仏教と人間 I ○仏教と人間 II	2 2		○仏教と社会 I○仏教と社会 II	2 2	前後							8					○全学共通科目
	コア	女性	○キャリアデザイン ○ジェンダー論入門 女性とウエルネス I 女性とウエルネス II	2 2 1 1	前後前	女性とキャリア A 女性とキャリア B 女性と文化 A	1 1 1 1 1 1	前·名 前·名 前·名							4					 ・必修科目 16 単位を 修得しなければなら ない。 ・「コア」の「女性」、「ス キルズ」の「基礎」 「情報」より必修科
		基礎	○基礎ゼミナール日本語コミュニケーション	2 2											2	2				目以外に2単位以上 修得しなければなら ない。
全		情報	○情報処理基礎演習 ○データサイエンス基礎演習 情報科学概論 英語スキルズ I		前後後前	データサイエンス応用演習 A データサイエンス応用演習 B 英語スキルブⅢ	1 1	前電							2					・「スキルズ」の「コミュ ニケーション」より、 「フランス語」「中国 語」「韓国語」のい
学	キル	Пшч	英語スキルズⅡ フランス語 I フランス語 II	1 1 1	後前後	TOEIC Preparation	1													ずれか一つの言語を 選択して、2単位以 上修得しなければな らない。
共	ズ	ニケーショ	中国語 I 中国語 I 韓国語 I 韓国語 I	1 1 1 1	前											2				・「ドアーズ」の「世 界へのドア」「社会 へのドア」「学びへ のドア」より、それ
通		世	はじめての手話 I はじめての手話 II 国際社会と文化 A	1 1 2	後														124	ぞれ2単位以上修 得しなければならな い。
科		世界へのドア	国際社会と文化 B スタディ・アプロード A スタディ・アプロード B Global Project	2 2 2	後後											2		20	124	・「Global Project」 「Social Project」は、 大学で定められる各 種活動に取り組み、 その活動内容・時間
	ドア	の社 ド会 アヘ	キャリアコミュニケーション パーソナルファイナンス Social Project	_		企業研究 インターンシップ研究	1 1 1	前前								2				等により単位を認定する。それを単位まで修得することができる。
	ズ	学びへのドア	哲学 倫 ディイア 芸術 育 心 環境	1 1 1 1 1 1 1	前前前前前	日本国憲法	2 2 2	ìń								2				
		多文 文学 上部	集党 異文化コミュニケーション 異文化探求 PBL 国際文化論 言語学	1 2 2 2	前後	対照言語学 コミュニケーションと心理 比較文化論		前		2 2	前後					4				○学科専攻科目・必修科目 39 単位を 修得しなければなら ない。
	1 有 利	店 楚 斗	Core English I Core English II Core Oral English I	1											4					

			Core Oral English II ○ Pronunciation I ○ Pronunciation II 英語コミュニケーション人門 ○アカデミック・スキルズ ○ Reading and Writing A I	1 1 1 2 2	前後	Reading and Writing B. I.	2	前											・「文学部多文化共生 科目」より4単位以 上修得しなければな らない。 ・「発展科目」の「ECP」 より必修科目以外に
	基幹科	E C P	Reading and Writing A II Conversation A I Conversation A II Introduction to TOEIC	2 1 1 1	後前後	Reading and Writing B II Conversation B I Conversation B II TOEIC Training Pre-intermediate TOEIC Practice	2 1 1	後前後前						1	5				4 単位以上修得しなければならない。 ・学科選択として、上記以外に31 単位以上修得しなければならない。 ・「英語文学研究」は8
学	目	圏文学/ 文部学・英語	○英語文学 A 英語学概説	2 2		: Pre-intermediate ○英語音声学 ○英語文法論 I ○英語文法論 I ○英語文学 B ○英語文学 C	2 2 2 2 2 2	前後前後							2				単位まで修得することができる。 「英語学特殊講義」「英語学特殊講義」 「海外研修特殊講義」 「海外研修特殊講義」 はそれぞれ12単位まで修得できる。
子科專攻		E C P				News Media	2	ÀÚ	O TOEIC Training: Intermediat ToEICPractice: Intermediat English Communication I English Communication II Academic Reading Academic Writing Business Communication I Business Communication I Business Communication I English Meaning and Use II English Meaning and Use II Presentation for Debate	1 1 1 2 2 2 2 2	前後前後前後前後前後		1		2	4	31		・「卒業ゼミナール I」「卒業ゼミナール II」「卒業ゼミナール II」「卒業・一ル II」「卒業・一次の服修要件については、別に定める。・他学部等科目は 20単位を上限に「自由選択科目」単位として含めることができる。 ・・発許、資格、副専攻
科目	発展	要させ、英語学・英語				アメリカ文学史 イギリス文学史		前後	英語発達史	2 2 2 2 2 2 2	前後前前前								の取得に必要な科目 の修得単位数、修得 方法については、別 に定める。 ※授業科目は、年度に よって開講年次や時 期が変わることがあ
	科	ツーリズム	Tourist English Hospitality-service English		後	Airline English II 旅行実務 観光文化論	2 2 2 2	後前後	グローバルツーリズム I グローバルツーリズム II 英語通訳研究 国際観光論	2 2 2 2	前後前前								るので、授業時間割や掲示に注意すること。
		理 解 化	ヨーロッパの社会と文化 世界遺産論	2		Intercultural Communication I Intercultural Communication II 現代ポップカルチャー 早期英語教育研究	2 2 2	後後	Communication Theory	2 2	前		2	à					
		言語教育				日本語教育法 A I 日本語教育法 A I 日本語教育法 A II 日本語教材研究	2 2	前	小学校英語教育研究 日本語教育法 B I 日本語教育法 B II	2 2 2	前前後								
		卒業論文 ・ ・	英語学特殊講義	2					○専門ゼミナール	2	後	○卒業ゼミナール I○卒業ゼミナール II卒業論文	2 2 4	前後通	6				
		特殊講義	英語學 付來調義 英語圈文化特殊講義 海外研修特殊講義	2											5	18	31	20 12	4

学者・学術

59

[文学部]

アジア文化学科 開講科目表

○は必修科目

コ ○キャリアデザイン (フェンター 満入門 (シェンター 満入門 (シェンター 満入門 (シェンター 満入門 (シェンター 満入門 (シェンター 満入門 (シェンター 満入門 (シェンター 満入門 (シェンター 満入門 (シェンター 大大門 (シェンター) (シェンター 大大門 (シェンター) (シェンター 大大門 (シェンター) (シェンター) (シェンター (シェンター) (シ				第一年次			第二年次			第三年次			第四年次		Т	卒	業に必要	な単位数	t t	
投資料目 位 所 投資料目 投资料目 投资料 投资料目 投资料 投资料目 投资料目 投资料 投资料 投资料 投资料 投资料 投资料 投资料 投资料 投资料 投资料 投资料 投资料 投资料 投资料 投资料 投资料 投资料 投资料 投资料	- 1	12"	7.5		334	nde			, ,,,	,,	,,	n.t.		32/ 19			選択単位	Ĺ		/# ×
2			A)	授業科目	世位	期	授業科目	【花	1. 脚	授業科目	立	期	授業科目	位	心	修 必修 選択	学科 選択	自由 選択	合計	- inii -is
A OLAC 人間 2 後 OLAC 上独 2 後 OLAC 上独 2 後 OLAC 上			14									П								◎全学共通科目
イ クジェンター高入門 (2 版) 女性とクレルネス (1 前) 女性と文化 (1 前) 女性と文化 (1 前) 女性と文化 (2 前) 女性と文化 (3 前) 女性会文化 (3 前) 女性会文化 (3 前) 女性会文化 (3 前) 女性会文化 (3 前) 女性会文化 (3 前) 女性会文化 (3 前) 女性会文化 (3 前) 女性会文化 (3 前) 女性会文化 (3 前) 女性会文化 (3 前) 女性会文化 (3 前) 女性会文化 (3 前) 女性会文化 (3 前) 女性会文化 (3 前) 女性会文化 (3 前) 女性会文化 (3 前) 女性会文化 (3 前) 女性会文化 (3 前) 女性会文化 (3 前) 女性会文化 (4 女性会文化 (3 前) 女性会文化 (4 女性会文化 (3 前) 女性会文化 (4 女性会文文化 (4 女性会文化 (4 女性会文化 (4 女性会文文化 (4 女性会文化 (4 女性会文文化 (4 女性会文文化 (4 女性会文化 (4 女性会文文化 (4 女性会文文化 (4 女性会文文化 (4 女性会文文化 (4 女性会文文化 (4 女性会文文化 (4 女性会文文化 (4 女性会文文化 (4 女性会文文化 (4 女性会文文化 (4 女性会文文化 (4 女性会文文化 (4 女性会文化 (4 女性会文文化 (4 女性会文文化 (4 女性会文文化 (4 女性会文文文 (4 女性会文文化 (4 女性会文文化 (4			教									Ш			Ľ	<u> </u>			_	・必修科目 16 単位を
ア 女 佐 党 ア ス ス () () () () () () () () ()																				
大型	-	7	- tr												1					
女性をグエルネス 1 使 女性をグエルネス 1 mmm		′	栓												4					
本	-			女性とウエルネスⅡ	1	後									-					「情報」より必修科
日 日 日 日 日 日 日 日 日 日				Ottobara and a		26	ウエルネス・スホーツ論	1	10.4		-	Н		+	+	2				目以外に2単位以上
全 「合物理理基礎演習」 1 前 元 クサイエンス原用演習 1 前 元 クサイエンス原用演習 1 前 元 クサイエンス原用演習 1 前 元 クサイエンス原用演習 1 前 元 クサイエンス原用演習 1 前 元 クサイエンス原用演習 1 前 元 クサイエンス原用演習 1 前 元 クサイエンス原用演習 1 前 元 クサイエンス原用演習 1 前 元 クランス語 1 1 前 元 クランス クランシップ研究 1 前 前 元 クランシップ研究 1 前 前 元 クランシップ研究 1 前 前 元 クランシップ研究 1 前 前 元 クランシップ研究 1 前 前 元 介 元 介 元 介 元 介 元 介 元 介 元 介 元 介 元 介			基础												2					
全 「中のサイエンス彫画練習 1 後 データサイエンス応用練習 1 日来 1 日本 2 日本			ReE				デニカサフェンフ内田波羽 A	1	25.0		+	Н		+	+	-				・「スキルズ」の「コミュ
全			情																	ニケーション」より
英語スキルズ目	١.		報				/ メリーエンへ心の原目 D	1	119.1						'					2 単位以上修得しな ければからかい。
学 カー フランス語目 1 前 で フランス語目 1 前 で フランス語目 1 前 位 で で で で で で で で で で で で で で で で で で	全	ス					英語スキルズⅢ	1	èí		T	Н			+		+			
学 カー フランス語目 1 前 で フランス語目 1 前 で フランス語目 1 前 位 で で で で で で で で で で で で で で で で で で	ı	-à-													i					界へのドア」「社会
月 カー フランス語目 1 後 中国語目 1 後 中国語目 1 後 中国語目 1 後 中国語目 1 後 中国語目 1 後 中国語目 1 後 中国語目 1 後 中国語目 1 後 はじめての手話目 1 前 はじめての手話目 2 後 スタディ・アプロードA 2 後 スタディ・アプロードA 2 後 スタディ・アプロードB 2 前 F Global Project インスター・アプロードB 2 前 ア Global Project ア Toolal Project ア Toolal Project ア Toolal Project ア Toolal Project ア Toolal Project ア Toolal Project ア Toolal Project ア Toolal Project ア Toolal Project ア Toolal Project ア Toolal Project ア Toolal Project ア Toolal Project ア Toolal Project ア Toolal Project ア Toolal Project ア Toolal Project 1 前 ア Toolal Project 1 前 ア <t< td=""><td>44</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td> "</td><td></td><td></td><td>ΙI</td><td></td><td></td><td>i</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>┃ へのドア 「学びへ」</td></t<>	44								"			ΙI			i					┃ へのドア 「学びへ」
共 ズ ー 中国語 I 中国語 I 中国語 I 自 検	1	ル	ユ	フランス語Ⅱ											i					□ のトケ」より、それ デカク単位以上修
中国部	ı	ズ	=	中国語 I	1	前									İ					得しなければならな
1	共		1 7	中国語Ⅱ	1										İ	2				_
通					1														124	· Global Project
A																		20	124	大学で定められる各
世	通		-															20		種活動に取り組み、
科									_					\perp	\perp					その活動内容・時間
日	154		世																	する。それぞれ6単
F	71																			位まで修得すること
B															ł	2				かぐさる。
F	1 🛮		トテ		2	Bu														
F		l	<u> </u>		1	徐	キャリアプラン	1	計		+	\vdash		\vdash	+	-	+			
ア Social Project 1 インターンシップ研究 1 前 日 哲学 1 前要 ダイパーシティ論 2 後 ズ 場合 1 前要 日本国憲法 2 前 ズ ジボイア 1 前要 人権教育 2 後 の 教育 1 前要 2 ア 心理 1 前要 2 財産 1 前要 2		K	りださ												ł	2				
1 前髪 ダイパーシティ論 2 後		ア				1.										-				
T	1	1			1	前・後									+		1			
で		1 '.			1	前後									1					
	1	ズ	学が	メディア	1	前·後	人権教育													
	1		_ ^	芸術	1											1 2				
ア 心理 1 mg																2				
			F																1	
			1		1	前·後														
				生命	1	前·後									\perp]		

	1.0	/木田号	tx/TTD	海外研修・留学特殊講義	1	Ш		L								34	42	28	20	124	
	55		義科目	アジア文化特殊講義	2		言語文化特殊講義	2		○専門ゼミナールⅡ	2 2	前後	○卒業セミナール II ○卒業ゼミナール II 卒業論文	2	刑後通	8					
			文化	アジア芸能史 アジア芸術思想論 世界遺産論 アジアと仏教	2 2 2 2	前後後後	○体験ーミュージアムで学ぶアジア 体験ーアジア文化 仏教美術史 海域文化交流論 イスラム地域文化論	2 2 2 2 2	前前後前後			後前後	日本美術史 ○卒業ゼミナール I		前前	2	6				
			地理歷史	世界史 考古学 東アジア近現代史 東南アジア近現代史 南アジア近現代史	2 2 2 2 2	前前後後後	人文地理学 自然地理学 地誌学 近代日本とアジア	2 2 2	前後前後	日中交流史	2	前					6				
科目	I	社会	際関係				社会学概論 アジア経済論 アジア政治論 NPO・NGO 論 東アジア地域協力論	2 2 2 2 2	前後後後後								10				
攻	幹科		E	政治学概論(国際政治学を含む) 経済学概論(国際経済学を含む) 法律学(国際法を含む)	2	前前後	現代韓国論 現代中国論 現代東南アジア論 現代南アジア論	2 2 2	前後前前	アジア女性労働論 時事アジア	2 2	前後						28			
専	基		日本語 教育	A NUMBER OF THE PROPERTY OF TH			日本語教育法 A Ⅱ 日本語教育法 A Ⅲ	2	前後	日本語教育法 B I 日本語教育法 B II	2 2	後	日本語教育演習 I 日本語教育演習 II		前後						
科			諸ア 言語ア				アジア実用英語 インドネシアの言語と文化 インドの言語と文化	2 2 2	前前後	ビジネス英語 英語で読む現代アジア		前後									
学		語	韓国語	韓国語会話 I 韓国語会話 Ⅱ	1	前後	韓国語作文 I 韓国語作文 II 韓国語能力試験対策 I 韓国語能力試験対策 II	2 1 1	前後前後	ビジネス韓国語 韓国語通訳 韓国語観光ガイド	2 2 2	前後後					6				
		n)ci	中国語	中国語初級 Ⅱ	2	後	中国語中級 II 中国語検定試験対策 A 中国語検定試験対策 B 中国語観光ガイド	2 1 1 2	後前前後	中国語上級Ⅱ 中国語作文Ⅰ 中国語作文Ⅱ ビジネス中国語 中国語通訳	2 2 2 2 2	後前後前後									
		基備科目	Live of the control o	○東アジア地域入門 ○東南アジア地域入門 ○南アジア地域入門 ○アジア文化基礎ゼミナール 中国語初級 I	2 2 2 2	前前前後前	中国語中級Ⅰ	2	前	中国語上級Ⅰ	2	前				8					
		共生科目 多文化	文 文学 部	異文化コミュニケーション 異文化探求 PBL 国際文化論 言語学	2 2 2 2	前後後後	対照言語学 コミュニケーションと心理 比較文化論	2 2	前前後		2 2	前後					4				

◎学科専攻科目

| 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本は | 日本

筑紫女学園大学 筑紫女学園大学大学院

60

44 会 罪・資 ・ 対 後

学者・単点

人間科学科 心理・社会福祉専攻 心理コース 開講科目表

○は必修科目

A	備 考 学共通科目 修科目 16 単位を 得しなければなら い。 ア」の「女性」、「ス ルズ」の「基礎」
投条科目 位 前 投条科目 位 前 投条科目 位 前 投条科目 位 前 投条科目 位 前 投条科目 位 前 投条科目 位 前 投条科目 位 前 投条科目 位 前 投条科目 位 前 投条科目 位 前 投条科目 位 前 投条科目 位 前 投条科目 位 前 投条科目 位 前 投条科目 位 前 投条科目 位 前 投条科目 位 前 投条科目 位 前 投条社会目 2 後 位 人数と人間 2 後 位 人数とと社会目 2 後 位 人数とと出会目 2 後 位 人数とと出会目 2 後 位 人数とと力化 1 前 投幣と ウェルネス	学共通科目 修科目 16 単位を 得しなければなら い。 1ア」の「女性」、「ス
数	修科目 16 単位を 得しなければなら い。 !ア」の「女性」、「ス
1	得しなければなら い。 !ア」の「女性」、「ス
□ □ □ □ □ □ □ □ □ □	得しなければなら い。 !ア」の「女性」、「ス
ア 女性とウエルネス I 1 前後 女性とウエルネス I 1 前 女性と文化 A 1 前後 女性とウエルネス I 1 後 女性と文化 B 1 前後 女性とウエルネス・スポーツ論 1 前後 ウエルネス・スポーツ論 1 前後 日本語コミュニケーション 2 後 1 前 データサイエンス応用演習 A 1 前後 「テータサイエンス成用演習 B 1 前後 アータサイエンス応用演習 B 1 前後 「京スコーランス語」 1 前 英語スキルズ目 フランス語目 1 前 フランス語目 1 前後 1 前 で DEIC Preparation 1 後 中国語 I 1 後 中国語目 1 後 1 後 中国語 I 1 後 中国語目 1 後 1 後 はじめての手話 I 1 前 はじめての手話 I 1 前後 1 前後 1 後 国 国 日 教社会と文化 A 2 前 日 国 日 教社会と文化 A 2 前	- !ア」の「女性」、「ス
全 全 全 全 全 全 全 全 全 全	「ア」の「女性」、「スニルズ」の「其磔」
女性とウエルネス 1 後 女性と文化 B	
基 ○基礎ゼミナール 2 日本語コミュニケーション 2 (情報) 日本語コミュニケーション 1 (情報) 日本語コミュニケーション 1 (情報) 日本語コミュニケーション 1 (情報) 日本語コミュニケーション 1 (情報) 日本語コミュニケーション 1 (情報) 日本語コミュニケーション 1 (情報) 日本語コート 1 (日本語コミュニケーション 1 (日本語コニーケー 1 (日本語コート 1 (日本語コート 1 (日本語コート 1 (日本語コート 1 (日本語コート 1 (日本語コート 1 (日本語コート 1 (日本語コート 1 (日本語コート 1 (日本記はついての手話コート 1 (日本記はついての手話コート 1 (日本記はついての手話コート 1 (日本記はついての手話コート 1 (日本記はついての手話コート 1 (日本記はついての手話コート 1 (日本記はついての手話コート 1 (日本記はついての手話コート 1 (日本記はついての手話コート 1 (日本記はついてのようによりますなどのようによりますなどのようによりますなどのようなどのようによりますなどのようによりますなどのようなどのようなどのようなどのようなどのようなどのようなどのようなどのよう	情報 上より必修科
基礎 ○基礎ゼミナール 日本語コミュニケーション 2 「情報処理基礎演習」」 「情報処理基礎演習」」 情報科学概論 1 前 データサイエンス応用演習 1 1 後 データサイエンス応用演習 1 1 後 所報科学概論 1 前 データサイエンス応用演習 1 1 前 フランス応用演習 1 1 前 2 2 1 前 アータサイエンス応用演習 1 1 前 7 万シス語 1 1 前 2 2 1 前 7 万シス語 1 1 前 7 ランス語 1 1 前 8 「中国語 1 1 前 4 「中国語 1 1 前 4 はじめての手話 1 1 前 はじしめての手話 1 1 前 はじしめての手話 1 1 前 はじしめての手話 1 1 前 はじしめての手話 1 1 前 はじしめての手話 1 1 前 はじしめての手話 1 1 前 はじしめての手話 1 1 前 はじしめての手話 1 1 前 はじしめての手話 1 1 前 はじしめての手話 1 1 前 はじしめての手話 1 1 前 はじしめての手話 1 1 前 はじしめての手話 1 1 前 はじしめての手話 1 1 前 はじしめての手話 1 1 前 はじしめての手話 1 1 前 はじしめての手話 1 1 前 はししめての手法 1 1 前 はししめての手話 1 1 前 はししめての手話 1 1 前 ない 1 2 2 3 4 4 5 5 5 5 5 5 6 7 7 8 7 8 7 8 7 8 7 8 7 8 7 8 7 8 7 8	以外に2単位以上 得しなければなら
1	:N°
「情報処理基礎領智	キルズ」の「コミュ
A	ケーション」より 単位以上修得しな
情報科学概論 2 後	単位以上修得しな ればならない。
全 へ 英語スキルズ目 1 前 英語スキルズ目 1 前	ドアーズ」の「世
サール コランス語 I 1 前 7ランス語 I 1 前 7ランス語 I 1 前 7ランス語 I 1 前 7ランス語 I 1 前 7ランス語 I 1 前 8 前国語 I 1 前 8 前国語 I 1 前 8 はじめての手話 I 1 前 はじめての手話 I 1 前 はじめての手話 I 1 前 はじめての手話 I 1 前 はじめての手話 I 1 前 はじめての手話 I 1 前 はじめての手話 I 1 前 はじめての手話 I 1 前 はじめての手話 I 1 前 はじめての手話 I 1 前 はじめての手話 I 1 前 などの I 1 前 なじめての手話 I 1 前 なじめての手話 I 1 前 なじめての手話 I 1 前 なじめての手話 I 1 前 なじめての手話 I 1 前 なじめての手話 I 1 前 なじめての手話 I 1 前 なじめての手話 I 1 前 なじめての手話 I 1 前 なじめての手話 I 1 前 なじめての手話 I 1 前 なじめての手話 I 1 前 なじめての手話 I 1 前 なじめての手話 I 1 前 なじめての手法 I 1 前 なじめての手話 I 1 前 なじめての手法 I 1 前 なじめての手法 I 1 1 前 なじめての手法 I 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	「へのドア」「社会
学 カープランス語I 1 前 フランス語II 1 後 中国語II 1 前 中国語II 1 後 ・「C 「S 韓国語II 1 後 はじめての手話II 1 後 はじめての手話II 1 後 はじめての手話II 1 後 はじめての手話II 1 後 はじめての手話II 2 前 はじめての手話II 2 前	、のドア」「学びへ)ドア」より、それ
中国語I	*れ2単位以上修
中国語I	しなければならな
共 1 中国部 1 位 ジ 韓国語 1 前 近 なじめての手話 1 前 はじめての手話 1 前	-
3 韓国語II	Global Project」 Social Project」は、
通 ン 韓国語II 1 後 はじめての手話II 1 後 はじめての手話II 1 後	Social Project」は、 学で定められる各
# はじめての手話 I 1 前 はじめての手話 I 1 後	活動に取り組み、の活動内容・時間
「は 100 (1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	により単位を認定
	`る。それぞれ6単 (まで修得すること
	できる。
界 国際社会と文化B 2 後	
^	
目 ド スタディ・アブロード B 2 前	
Global Project 1	
F の社 キャリアコミュニケーション 1 後 キャリアプラン 1 前	
「」 「	
ア アへ Social Project 1 インターンシップ研究 1 前	
1 哲学 1 前後 ダイパーシティ論 2 後	
学、 メディア 1 前後 人権教育 2 後	
へ 云柳	
の 教育	
環境	
生命 1 資産 1 (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (

		心理学概論	2	前	教育・学校心理学	2	前	カウンセリング概論	2	前	心理・社会福祉実践演習	2	前				7		◎専攻科目
		発達心理学	2	前	臨床心理学概論	2													・必修科目8単位を修
		ソーシャルワーク総論I	2		家族社会学	2													得しなければならな い。
	Hr.	ソーシャルワーク総論Ⅱ	2			2													・「基礎科目」より6
	基礎科	社会学概論 I	2		地誌学	2									6				単位以上修得しなけ
	科目	政治学概論(国際政治学を含む)	2		人文地理学	2													ればならない。
		経済学概論(国際経済学を含む)			自然地理学	2	後												・「基幹科目」より必
		法律学(国際法を含む)																	修科目以外に 16 単 位以上修得しなけれ
		日本史	2																ばならない。
		世界史	2			_			ļ.,			1							・「発展科目」より必
		○心理基礎ゼミナール	2		学習・言語心理学	_	1	心理学統計法	_	前									修科目以外に 12 単 位以上修得しなけれ
		心理学実験	2		心理学研究法	2				前									ばならない。
	基	感情・人格心理学	2		公認心理師の職責	2	1	社会·集团·家族心理学(社会·集团心理学)	2	1									・専攻選択として、上
車	基幹科	障害者・障害児心理学	2	前後	心理学的支援法 精神疾患とその治療	2		健康・医療心理学 神経・生理心理学	2 2					2	16				記以外に36単位以上修得しなければな
	I	人体の構造と機能及び疾病 発達臨床心理学	2	後	福祉心理学	2		神経・生理心理子 発達障害者の心理と支援	2										5 5 c v .
			2	後前	価価心理子 心理学とキャリアデザイン	2		元正阿古白の心理と又抜	4	1交									・「卒業ゼミナール I 」
攻		知覚・認知心理学	2	後	心理子とヤヤリノナリイン	2	HU					1							「卒業ゼミナールⅡ」 「卒業論文」の履修
lŀ		コミュニケーションスキルⅠ	2	_	心理的アセスメントI	2	益位	関係行政論	2	益信	心理実習Ⅱ	2	通			36			要件については、別
科		2727 2327/171	_	12	心理的アセスメントⅡ	2	1			1	Consein in	-	1						に定める。
					心理文献演習 I (乳幼児)	2			2										・他学部等科目は 20 単位を上限に「自由
١					心理文献演習 [(児童・青年)	2			2	前									選択科目」単位とし
Ħ					心理文献演習 I (成人)	2	1		1										て含めることができ る。
l l					グループアプローチ	2			2			İ							
ii	発				コミュニケーションスキルⅡ	2	後	心理文献演習Ⅱ (臨床)		1									※他学部等科目に人間 科学部他コース科目
	発展科目							心理文献演習Ⅱ(福祉·教育)	2	前									を含む。
	目							心理文献演習Ⅱ(文献講読)	2	前		1							※免許、資格、副専攻
								ストレスマネジメント演習	2	前					12				の取得に必要な科目の修得単位数、修得
								職業心理学(働き方と心理学)	2	後									方法については、別
								体験的アプローチ演習	2	後									に定める。
								プレゼンテーション演習	2										※授業科目は、年度に よって開講年次や時
								発達援助の技法	2										期が変わることがあ
				_				心理実習I	2	通		_							るので、授業時間割 や掲示に注意するこ
	ゼミナ							○心理専門ゼミナール	2	後			前						E.
	1										○卒業ゼミナールⅡ	2	後	6					
igsquare	ル										卒業論文	4	通						
L														24	44	36	20	124	

2024

人間科学科 心理・社会福祉専攻 社会福祉コース 開講科目表

○は必修科目

			第一年次			第二年次			第三年次			第四年次				卒業	に必要な	な単位数		
1	-			I	l			Τ.		Ī	Ι.		I	Ι.]	選択単位	į.		1
	Ø	分	授業科目	単位	時期	授業科目	単位	時期	授業科目	単位	時期	授業科目	単位	時期	必修	必修 選択	専攻 選択	自由 選択	合計	備考
		4/.	○仏教と人間 I	2	前	○仏教と社会 I	2	前												○全学共通科目
1		仏教	○仏教と人間Ⅱ	2	後	○仏教と社会Ⅱ	2	後							8					・必修科目 16 単位を
ı			○キャリアデザイン			女性とキャリアA		前柱		Н										修得しなければなら
	コ		○ジェンダー論入門			女性とキャリアB	_	前柱												ない。
	ア	女	女性とウエルネスⅠ	1		女性と文化A		ii t							4					・「コア」の「女性」、「ス
		性	女性とウエルネスⅡ	I -		女性と文化 B		ii i							ı î					キルズ」の「基礎」
			XIIC / II// I// II	1	100	ウエルネス・スポーツ論		前柱												「情報」より必修科 目以外に2単位以上
1		111	○基礎ゼミナール	2	前	A contractivity of the American	_	In t		Н	\vdash					2				修得しなければなら
		基礎	日本語コミュニケーション		後										2					ない。
			○情報処理基礎演習		前	データサイエンス応用演習 A	1	前柱		Н					-	┨				・「スキルズ」の「コミュ
		情報	○データサイエンス基礎演習	1		データサイエンス応用演習 B		前柱							2					ニケーション」より 2 単位以上修得しな
		報	情報科学概論		後	/ A 9 1 TO ANADIMED	1	BI . F							-					ければならない。
全	l z		英語スキルズⅠ			英語スキルズⅢ	1	前		H						-				・「ドアーズ」の「世
1 -			英語スキルズⅡ	1		TOEIC Preparation		後												界へのドア」「社会
	丰		フランス語Ⅰ	1		TOLIC FIEPAIAUOII	1	12												へのドア」「学びへ のドア」より、それ
学	ル	I WI	フランス語Ⅱ	1																ぞれ2単位以上修
	ズ		中国語Ⅰ	1																得しなければならな
l	^	ニケ	中国語Ⅱ	1												2				lv₀
共			韓国語I	1																・「Global Project」 「Social Project」は、
		3	韓国語Ⅱ	1															124	大学で定められる各
通		レン																20		種活動に取り組み、 その活動内容・時間
,			はじめての手話Ⅰ		前								-			-				等により単位を認定
	_		はじめての手話Ⅱ 国際社会と文化 A	_ ^	後前			+		H				\vdash	\vdash		-			する。それぞれ6単
科		世界	国際社会と文化 B		削後								-							位まで修得すること ができる。
		I ^	国际任云と又ILB スタディ・アプロード A		後								-							10.000
l		のド	スタディ・アプロード A スタディ・アプロード B		俊前											2				
I		F		1	BO								-			-				
			Global Project	_ ^	44	4.11777	,	34		H				\vdash	\vdash		-			
	K	の社	キャリアコミュニケーション パーソナルファイナンス			キャリアプラン 企業研究		前					-							
	7	ド会アへ		1	俊			前前								2				
	_	_	Social Project	1	34.00	インターンシップ研究				H			⊢	\vdash	<u> </u>		-			
	1		哲学			ダイバーシティ論	2													
	ズ	116	倫理	-	前後		2													
		学びへ	メディア		前後	人権教育	2	後												
		0	芸術		前後											2				
		ドア	教育		前後															
		ア	心理		前後															
			環境		前後															
			生命	1	前後					L	Ш		_	_						1

		心理学概論	2	前	教育・学校心理学	2	前	カウンセリング概論	2	前	心理・社会福祉実践演習	2	前]	ĺ	□□専攻科目
		発達心理学	2		臨床心理学概論	2			-			-							・必修科目8単位を修
		ソーシャルワーク総論I	2	前	家族社会学	2	前												得しなければならな
		ソーシャルワーク総論Ⅱ	2		地域社会学	2	後												₩ _o
	基礎科	社会学概論 I	2	前	地誌学	2	前								_				・「基礎科目」より (
	科	政治学概論(国際政治学を含む)	2	前	人文地理学	2	前								6				単位以上修得しなければならない。
	目	経済学概論(国際経済学を含む)	2	後	白然地理学	2	後							İ					・「基幹科目」より必
		法律学 (国際法を含む)	2	後															修科目以外に16単
		日本史	2	前			l							İ					位以上修得しなけれ
		世界史	2	後			l							İ					ばならない。
		○社会福祉基礎ゼミナール	2	後	社会保障論 I	2	前	ソーシャルワークの方法Ⅲ	2	前						1			「発展科目」より必 修科目以外に12 単
		社会福祉原論 I	2	前	社会保障論Ⅱ	2	後	ソーシャルワークの方法Ⅳ	2	後									位以上修得しなけれ
		社会福祉原論Ⅱ	2	後	ソーシャルワークの方法 I	2	前	地域福祉論I	2	前									ばならない。
専		医学概論 I	2	前	ソーシャルワークの方法Ⅱ	2	後	地域福祉論Ⅱ	2	後									・専攻選択として、上
分	基	医学概論Ⅱ	2	後	精神医学 I	2	前	社会福祉運営管理論	2	後									記以外に36単位以 上修得しなければな
	基幹科	社会学概論Ⅱ	2		精神医学Ⅱ	2	後	社会福祉調査法	2	後				2	16				らない。
攻	目	権利擁護を支える法制度論Ⅰ	2		精神保健学I	2													「卒業ゼミナール I」
		権利擁護を支える法制度論Ⅱ	2	後	精神保健学Ⅱ	2										36			「卒業ゼミナールⅡ 「卒業論文」の履修
					精神保健福祉の原理I	2										00			要件については、別
科					精神保健福祉の原理Ⅱ	2													に定める。
					スクール(学校)ソーシャルワーク論	2													・他学部等科目は20
Ħ					公的扶助論	2	1	医療福祉論	2	前	ソーシャルワーク演習V	2	前						単位を上限に「自由 選択科目 単位とし
					高齢者福祉論	2		介護技術演習	2	前									て含めることができ
					介護概論	2		司法福祉論	2	後									る。
					障害者福祉論I	2		ソーシャルワーク演習Ⅲ	2	前									※他学部等科目に人間
	発				障害者福祉論Ⅱ	2	1	ソーシャルワーク演習IV	2	後									科学部他コース科目 を含む。
	発 展 科				児童・家庭福祉論I	2	前	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	1	前									※免許、資格、副専攻
	Ħ				児童・家庭福祉論Ⅱ	2		ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	1	前									※兄 市、 巨恰、 副母 の 取得 に 必要 な 科目
					ソーシャルワーク演習Ⅰ	2		ソーシャルワーク実習指導Ⅳ		後					12				の修得単位数、修得
					ソーシャルワーク演習Ⅱ	2		ソーシャルワーク実習Ⅱ	4	通									方法については、別 に定める。
					社会福祉実習入門	1													※授業科目は、年度に
					ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	1	後後												よって開講年次や時
	47		\vdash		ソーシャルワーク実習I	1	1发	○社会福祉専門ゼミナール	2	後	○卒業ゼミナールⅠ	2	前	-					期が変わることがあ るので、授業時間割
	ゼミナ							○社会価値専門でミケール	-	1交	○卒業ゼミナールⅡ		後	6					のので、投来時间部 や掲示に注意するこ
	l li										卒業論文		通	0					٤.
	///		_	_	I.	_	_		_	_	T TOTAL MILES	1 4	, AIII	24	44	36	20	124	1
			_	_		_	_			_		_		27	-17	_ 50	20	124	1

筑紫女学園大学 筑紫女学園大学大学院

人間科学科 初等教育・保育専攻 初等教育コース 開講科目表

○は必修科目

			第一年次			第二年次	_		第三年次			第四年次				卒業	に必要な	3単位数	į.	
	×	分		114	n-k		124	n-te		114	n-te		114	m-fr			選択単位	į.		備考
	Δ.	/1	授業科目	位	時期	授業科目	世位	時期	授業科目	位	時期	授業科目	単位	時期	必修	必修 選択	専攻 選択	自由 選択	合計	N# -15
		仏教	○仏教と人間 I		前	○仏教と社会 I		前							8					◎全学共通科目
		教	○仏教と人間Ⅱ	2		○仏教と社会Ⅱ	2												1	・必修科目 16 単位を
	コ		○キャリアデザイン	2		女性とキャリアA		前後												修得しなければなら
	7	tr	○ジェンダー論入門	2		女性とキャリアB		前・後												
		女性	女性とウエルネスI	1		女性と文化 A	1								4					・「コア」の「女性」、「人 キルズ」の「基礎
			女性とウエルネスⅡ	1	俊	女性と文化 B ウエルネス・スポーツ論		前後前後												・「コア」の「女性」、「ス キルズ」の「基礎」 「情報」より必修科 目以外に2単位以上
		4.6	○基礎ゼミナール	2	前	リエルネス・スホーツ冊	1	81.48		H	+		_			2				修得しなけれはなら
		基礎	日本語コミュニケーション	2											2					ない。
			○情報処理基礎演習	1		データサイエンス応用演習 A	1	前・後								1				・「スキルズ」の「コミュ
		情報	○データサイエンス基礎演習	1		データサイエンス応用演習 B		前・後							2					ニケーション」より 2 単位以上修得しな
		和	情報科学概論		後															ければならない。
全	ス		英語スキルズI	1	前	英語スキルズⅢ	1	前		Г							ĺ			・「ドアーズ」の「世
İ	+		英語スキルズⅡ	1	後	TOEIC Preparation	1	後			İ								İ	・「ドアーズ」の「世 界へのドア」「社会 へのドア」「学びへ
学		글	フランス語 I	1																l のドア⊢より それ!
1 +	ル	Пшн	フランス語Ⅱ	1																ぞれ2単位以上修 得しなければならな
	ズ	ニケ	中国語 I	1												2				ν _ο
共		1	中国語Ⅱ	1																• [Global Project]
		ショ	韓国語I	1	10.0														130	「Social Project」は、 大学で定められる各
通		ン	韓国語Ⅱ	1														20		種活動に取り組み、
川川			はじめての手話Ⅰ	1																大学で定められる各、 大学でかられる各、 種活が動い内容・時間 等により単位をもを認定 すれぞれる。
	\vdash		はじめての手話Ⅱ	1	後前			-		H	+		_				ŀ			する。それぞれ6単 位まで修得すること
科		世界	国際社会と文化 A 国際社会と文化 B		刑後															位まで修得すること ができる。
		^	国际任云こ又ILB スタディ・アプロード A	2												2				
		のド	スタディ・アブロードB	2																
"		ドア	Global Project	1	l no															
		- A1	キャリアコミュニケーション	1	後	キャリアプラン	1	前		Н	+						1			
	١	の社 <u>ド</u> 会	パーソナルファイナンス	1			1									2				
	ア	アベ	Social Project	1	``	インターンシップ研究	1									_				
1	l i l		哲学	1	前・後	ダイバーシティ論	2													
	, i		倫理			日本国憲法	2													
	ズ	学 び	メディア	1	前·後	人権教育	2	後												
		^	芸術	1	前·後											2				
		のド	教育		前·後											4				
		デ	心理		前·後															
			環境		前·後															
			生命	1	前·後															

Г		心理学概論	2	前	教育・学校心理学	2	前	カウンセリング概論	2	前	現代社会と教育・保育	2	前				1		○専攻科目
1	-11	発達心理学	2	前	臨床心理学概論	2	前												・必修科目12単位を
	一个	社会学概論 I	2	前	子ども環境論	2	前								8				修得しなければなら
	基礎 科 目	社会福祉論	2	後	ボランティア・NPO 論	2	後								8				ない。
1	Н	保育原理	2	前	知的障がい者の教育	2	後												・「基礎科目」より8
		特別支援教育総論	2	後															単位以上修得しなけ ればならない。
ΙГ		○教職入門	2	後	○教育原理	2	前	教育方法論(ICT の活用含む)	2	前	子どもの理解と援助	2	前			1			
		○教育心理	2	後	教育経営論	2	後	教育相談	2	後	教育史	2	前						・「基幹科目」より必 修科目以外に20単
1		音楽概論	2	後	特別支援教育論	2	後	教育課程論	2	後									位以上修得しなけれ
1		図画工作	1	後	音楽基礎	1	前	ICT 機器活用法	2	前									ばならない。
		子どもと健康	1	前	音楽演習	1	後												・「発展科目」より必
1		子どもと人間関係	1	前	体育	1	前							i		İ	İ		修科目以外に 14 単 位以上修得しなけれ
	Ħ.	子どもと環境	1	後	子どもと表現 I (音楽)	1	前												ばならない。
	幹	子どもと言葉	1	後	子どもと表現Ⅱ(造形)	1	前							6	20	İ	İ		・ 車改選択として ト
	基幹科目	初等国語科概論	2	前	初等理科概論	2	前	道徳教育指導論	2	前	学級経営論	2	後	0	20				・専攻選択として、上 記以外に30単位以
		初等算数科概論	2	前	初等英語科概論	2	前	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	2	後									上修得しなければな らない。
車		初等社会科概論	2	後	初等生活科概論	2	後	生徒・進路指導	2	前				i		İ	İ		1
4		基礎的教育技術	2	前	初等家庭科概論	2	後	教職教養Ⅰ	2	前									・「卒業ゼミナール I ₋ 「卒業ゼミナール II ₋
							l	教職教養Ⅱ	2	後				i		İ	İ		「卒業論文」の履修
攻		知的障がい者の心理・生理・病理	2	後	肢体不自由者の心理・生理・病理	2	前	コミュニケーション障がいの視点から	2	後									要件については、別 に定める。
		対1的1年から、日かかは、王柱・松柱	~	120		-		みる知的障がい者の心理・生理・病理	~	120						30			
1					病弱者の心理・生理・病理	2										30			・他学部等科目は 20 単位を上限に「自由
科					保育内容演習(言葉)	2		保育内容演習(健康)		前	幼児教育実習指導Ⅱ	1	前						選択科目 単位とし
					保育内容演習(表現)	2		保育内容演習(人間関係)	2	後									て含めることができ る。
					保育内容総論	2		保育内容演習(環境)	2	後									1
-					幼児教育実習指導I	1													※他学部等科目に人間 科学部他コース科目
		初等教科教育法(算数)	2	後	初等教科教育法(国語)	2		初等教科教育法(図画工作)	2	前	教職実践演習(幼・小)		後						を含む。
					初等教科教育法 (理科)	2			2	前	授業方法の探究	2							※免許、資格、副専攻
	発				初等教科教育法(音楽)	2		初等教科教育法 (家庭)	2	前	教育技術の探究	2	後						の取得に必要な科目
	発展科目				初等教科教育法(体育)	2			2	後									の修得単位数、修得 方法については、別
	Ħ				初等教科教育法(英語)	2		初等教育実習指導	1	前									に定める。
					初等教科教育法(社会)	2	前								14				※授業科日は、年度に
								肢体不自由教育	2	前	特別支援教育実習指導	1	前		14				トって開端在少め店
								病弱教育	2	前	聴覚障がい者の心理・生理・病理と指導法	2	前						期が変わることがあ るので、授業時間割
								知的障がい者教育方法論	2	前									Ⅰ や掲示に注意するこ
								視覚障がい者の心理・生理・病理と指導法	2	前									٤.
								重複節がい・LD等の心理・生理・病理と指導法	2	後									
	ゼミナ							○人間科学プレゼミナール	2	通	○卒業ゼミナール I	2	前						
	デ										○卒業ゼミナールⅡ	2	後	6					
	ル		L			L	L		L	L	卒業論文	4	通						
	実習	見学実習	1	後	幼児教育実習 I	2	通	初等教育実習 [2	通	幼児教育実習Ⅱ	2	通						
	習							初等教育実習Ⅱ	4	通	特別支援学校教育実習	3	通						
														28	52	30	20	130	

人間科学科 初等教育・保育専攻 幼児保育コース 開講科目表

○は必修科目

T				第一年次			第二年次			第三年次			第四年次				卒業	に必要な	な単位数		
現業料目 位 前 投業料目 位 前 投業料目 位 前 投業料目 位 前 投業料目 位 前 投業料目 位 前 投業料目 位 前 投業料目 位 前 投業料目 位 前 投票料目 位 前 投票料目 位 前 投票料目 位 前 投票料目 位 前 投票料目 位 前 投票料目 位 前 投票料目 位 前 投票料目 位 前 投票料目 位 前 投票料目 位 前 投票料目 位 前 投票料目 位 前 投票料目 位 前 投票料目 位 前 投票料目 位 前 投票 位 前 投票料目 位 前 投票 位 前 投票料目 位 前 投票料目 位 前 投票料目 位 前 投票料目 位 前 投票料目 位 前 投票料目 位 前 投票料目 位 前 投票料目 位 前 投票料目 位 前 上 1 前 上 1 前 上 1 前 上 1 前 上 1 前 上 1 前 上 1 前 上 1 前 上 1 前 上 1 前 上 1 前 上 1 前 上 1 前 上 1 前 上 1 前 上 1 前 L 1 前	ı	E7	^		11/	n.t.			nde		***	n.t.		***	n.t.		3	選択単位	ī.		j#: ±ig.
Yama		į×.	M	授業科目	単位	時期	授業科目	単位	時期	授業科目	単位	時期	授業科目	単位	明期	必修		専攻 選択	自由 選択	습計)HI -75
コア ○キャリアデザイン 2 前 女性とキャリア A 1 能報 グンエンター論人門 2 前 女性とカーア B 1 能報 女性とフェルネスI 1 前 女性と文化 B 1 能報 女性とフェルネスI 1 前 女性と文化 B 1 能報 女性とフェルネスI 1 前 女性と文化 B 1 能報 女性とフェルネスI 1 前 女性と文化 B 1 能報 プーラリンス J 機関 B 1 前 データサイエン J 機関 B 1 前 前 対 テータサイエン J 機関 B 1 前 前 対 テータサイエン J 機関 B 子・フィンス J 機関 B 1 前 が データンス J 機関 B 1 前 が データリイエン J 機関 B 2 を 地域 B 子・フランス J 目 中国語 I 1 前 後 中国語 I 1 前 後 日本紀 P を ラックス J 目 前 接 日本紀 B 2 を 地域 B 日 世			仏	○仏教と人間 I																	○全学共通科目
カ フ クキャリアデザイン 2 前 女性をキャリア 3 1 前妻	1		教	○仏教と人間Ⅱ												0					・必修科目 16 単位を
P 女性とウエルネス 1 前 女性と文化 1 前 女性と文化 1 前 女性と文化 1 前 女性とウエルネス 1 前 女性と文化 1 前 女性と文化 1 前 女性と文化 1 前 女性と文化 1 前 女性と文化 1 前 女性と文化 1 前 女性と文化 1 前 女性と文化 1 前 女性と文化 1 前 女性と文化 1 前 女性と文化 1 前 女性と文化 1 前 女性と文化 1 前 女性と文化 2 前 日本語 1 前 子タイエンス応用演習 1 前 子タイエンス応用演習 1 前 子タイエンス応用演習 1 前 子タンス 1 前 女性とない 1 前 女性とない 1 前 女性とない 1 前 女性とない 1 前 女性とない 1 前 女性とない 1 前 女性とない 1 前 女性とない 1 前 女性と文化 1 前 女性とない 1 前 女性を表 1 女性		ם							1												修得しなければなら
イ 全 欠性とフエルネス目 1 例 欠性と文化 1 回動 4 1 回動 1 回動 1 回動 1 回動 1 回動 2 2 1 回動 2 1 回動 2 1 回動 2 1 回動 2 1 回動 2 1 回動 2 1 回動 2 1 回動 2 1 回動 2 1 回動 2 2 1 回動 2 <		7	+r																		-
A			全													4					・「コア」の「女性」、「ス
「				女性とウエルネスⅡ	1	後															「情報」より必修科
日本語コミュニケーション 2 後 日本語コミュニケーション 2 後 アータサイエンス応用演習 A 日本語 日本語コミュニケーション 2 後 アータサイエンス応用演習 B 日本語				○H7# 15 > J	2	24	ワエルネス・スホーツ論	1	削*按		_			_	Н		2				目以外に2単位以上
Column			基礎													2					
中国					_		データサイエンス広田演習 A	1	前・後						Н						・「スキルブ」の「コミュ
情報が概論 2 後 英語スキルズ目 1 前 英語スキルズ目 1 前 英語スキルズ目 1 前 英語スキルズ目 1 前 英語スキルズ目 1 前 英語スキルズ目 1 前 英語スキルズ目 1 前 英語スキルズ目 1 前 英語スキルズ目 1 前 英語スキルズ目 1 前 英語スキルズ目 1 前 英語スキルズ目 1 前 英語の 1 章 中国語目 1 章 中国語目 1 章 中国語目 1 章 中国語目 1 章 中国語目 1 章 中国語目 1 章 中国語目 1 章 中国語目 1 章 中国語目 1 章 中国部目 1 章			情													2					ニケーション」より
#	İ		ŦIX	情報科学概論	2	後															2 単位以上修得しな ければならない。
#	全	ス		英語スキルズI			英語スキルズⅢ	1										1			
中国語		+			1		TOEIC Preparation	1	後												界へのドア」「社会
大	坐	il.	7 3	1	1																へのドア」「学びへ
中国語目	'		3		1																ぞれ2単位以上修
1		🏋	ケ		1												2				
130 1 1 1 1 1 1 1 1 1	共		1		1																-
通			3		1															130	Social Project 14
A A B B A B B B B B	通)		1														20		大学で定められる各
日 日 日 日 日 日 日 日 日 日																					種店動に取り組み、 その活動内容・時間
国際社会と文化B			+14-						\vdash									1			等により単位を認定
B	₹÷		界	国際社会と文化 B	2	後															りる。 てれてれら早 位まで修得すること
F				スタディ・アプロード A	2	後											2				ができる。
F			F	スタディ・アブロード B	2	前															
ド 大会 パーソナルファイナンス 1 後 企業研究 1 前			-		1																
ア アへ Social Project 1 インターンシップ研究 1 前 哲学 1 前後 ダイバーシティ論 2 後 ズ 倫理 1 前後 日本国憲法 2 前 学 グライアア 1 前後 2 後 芸術 1 前後 2 次 のの教育 1 前後 2 環境 1 前後 2		ĸ	の社																		
1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		- I	ド会		1	後											2				
・ 倫理 1 前後 日本国憲法 2 前 ダ メディア 1 前後 人権教育 2 後 芸術 1 前後 教育 1 前後 小理 1 前後 環境 1 前後			/ -		1	30.00									Н						
X 学 メディア 1 前後 人権教育 2 後 芸術 1 前後 教育 1 前後 デ 心理 1 前後 環境 1 前後		1																			
		ズ	坐																		
の 教育			ぜ				/\TE#XE	2	100												
ア 心理 1 m m m m m m m m m m m m m m m m m																	2				
環境			F																		
			′																		
				生命		前・後															

			心理学概論	2		教育・学校心理学	2		カウンセリング概論	2	前	現代社会と教育・保育	2	前	Π			1		○専攻科目
	11	:	発達心理学	2	前	臨床心理学概論	2													・必修科目 12 単位を
	基礎科目		社会学概論 I	2	前	子ども環境論	2	前								8				修得しなければなら
	科		社会福祉論	2	後	ボランティア・NPO 論	2	後								°				ない。
	н		保育原理	2	前	知的障がい者の教育	2	後												・「基礎科目」より8
			特別支援教育総論	2	後															単位以上修得しなけ
			○教職入門	2	後	○教育原理	2	前	教育方法論(ICT の活用含む)	2	前	子どもの理解と援助	2	前]			ればならない。
			○教育心理	2	後	教育経営論	2	後	教育相談	2	後	教育史	2	前						・「基幹科目」より必
1 1			音楽概論	2	後	特別支援教育論	2	後	教育課程論	2	後				l					修科目以外に 20 単 位以上修得しなけれ
			図画工作	1	後	音楽基礎	1	前	ICT 機器活用法	2	前				l					ばならない。
			子どもと健康	1	前	音楽演習	1	後												・「発展科日」より必
			子どもと人間関係	1	前	体育	1	前							l					修科目以外に14単
			子どもと環境	1	後	子どもと表現 I (音楽)	1	前												位以上修得しなけれ
	基		子どもと言葉	1	後	子どもと表現Ⅱ (造形)	1	前							l					ばならない。
	基幹科目		保育者論	2	前	子ども家庭福祉	2	前	社会的養護 I	2	前		П	П	6	20				・専攻選択として、上
	Ħ		基礎的保育技術	2	後	障がい児保育	2	前	乳児保育I	2	前									記以外に30単位以 上修得しなければな
1 1						子どもの保健	2	前	保育の心理学	2	前				l					らない。
専						子どもの健康と安全	2	後	子ども家庭支援の心理学	2	後									・「卒業ゼミナールI」
1 1									子ども家庭支援論	2	後				l					「卒業ゼミナールⅡ」
T/a									子どもの食と栄養	2	後									「卒業論文」の履修
攻			知的障がい者の心理・生理・病理	2	後	肢体不自由者の心理・生理・病理	2	前	コミュニケーション障がいの視点から みる知的障がい者の心理・生理・病理	2	後				1		30			要件については、別 に定める。
						病弱者の心理・生理・病理	2	前	O SWELLING COLORER TOT THE								30			・他学部等科目は20
科						保育内容演習 (言葉)	2	後	保育内容演習(健康)	2	前	幼児教育実習指導Ⅱ	1	前	\vdash		1			単位を上限に「自由
						保育内容演習 (表現)	2	前			後		-	"	l					選択科目」単位とし て含めることができ
1 8 1						保育内容総論	2	前	保育内容演習 (環境)	2	後				l					a.
"						幼児教育実習指導I	1			_					l					※他学部等科目に人間
						保育実習指導 I (保育所)	1	後	社会的養護Ⅱ	2	後	保育·教職実践演習(幼稚園)	2	後	1					科学部他コース科目
						絵本と子どもⅠ	2		乳児保育Ⅱ	2	後	子育て支援		前	i					を含む。
	発								保育実習指導 [(施設)	1	前	遊びの実践演習	1	前	l		İ			※免許、資格、副専攻
1 1	発展科目								保育実習指導Ⅱ	1	後				İ					の取得に必要な科目 の修得単位数、修得
	目								絵本と子どもⅡ	2	前				l					方法については、別
									器楽	1	前				İ					に定める。
1 1									肢体不自由教育	2	前	特別支援教育実習指導	1	前	ĺ	14				※授業科目は、年度に
									病弱教育	2	前	聴覚能がい者の心理・生理・病理と指導法	2	前	l					よって開講年次や時
1 1									知的障がい者教育方法論	2	前				İ					期が変わることがあ るので、授業時間割
									視覚障がい者の心理・生理・病理と指導法	2	前				l					や掲示に注意するこ
									重複除が、、LD等の心理・生理・病理と指導法	2	後				l					と。
		ゼ							○人間科学プレゼミナール	2	通	○卒業ゼミナール I	2	前						
		イミホ									1	○卒業ゼミナールⅡ		後	6					
		ル										卒業論文		通	l					
		宝	見学実習	1	後	幼児教育実習 I	2	通	保育実習Ⅱ	2	通	幼児教育実習Ⅱ	2	通						
		実習				保育実習I	4	通	保育実習Ⅲ	2	通	特別支援学校教育実習	3	通	ĺ					
					_			_		_			_	_	28	52	30	20	130	1

性・語点

2024 学者・学科

109

[現代社会学部]

現代社会学科 開講科目表

○は必修科目

			第一年次			第二年次			第三年次			第四年次					に必要な			
	X	分	PG 787 4.4 1-4	単	時	AG MA CV I	東	時	AND AND COLUMN	単	時	Let Mark I I I	単	時	7,64-		選択単位		A =1	備考
			授業科目		時期	授業科目	位	期	授業科目	位	期	授業科口	位	時期	必修	必修 選択	学科 選択	自由 選択	合計	
		仏教	○仏教と人間 I		前	○仏教と社会 I		前							8					◎全学共通科目
		教	○仏教と人間Ⅱ	2		○仏教と社会Ⅱ	2								· ·					・必修科目 16 単位を
	ם		○キャリアデザイン		前	女性とキャリア A		前種												修得しなければなら ない。
	ア	4	○ジェンダー論入門			女性とキャリア B		前·前												・「コア」の「女性」、「ス
	'	女性	女性とウエルネスI			女性と文化 A		前电							4					キルズ の「基礎
			女性とウエルネスⅡ	1	後	女性と文化 B		前相												「情報」より必修科 目以外に2単位以上
						ウエルネス・スポーツ論	1	前電								2				修得しなければなら
		基礎	○基礎ゼミナール		前										2					ない。
		磴	日本語コミュニケーション		後															・「スキルズ」の「コミュ
		éds	○情報処理基礎演習		前	データサイエンス応用演習 A		前槽												ニケーション」より 2 単位以上修得しな
		情報	○データサイエンス基礎演習	1		データサイエンス応用演習 B	1	前權							2					ければならない。
			情報科学概論		後					╙										・「ドアーズ」の「世
全	ス		英語スキルズI			英語スキルズⅢ		前												界へのドア」「社会 へのドア」「学びへ
	丰		英語スキルズⅡ	1		TOEIC Preparation	1	後												のドア」より、それ
学	ル	3	フランス語 I	1																ぞれ2単位以上修 得しなければならな
+		3	フランス語Ⅱ	1																り。
	ズ	コミュニケ	中国語I	1												2				· 「Global Project」
共		1	中国語Ⅱ	1												_				「Social Project」は、
		ショ	韓国語I	1	177														124	大学で定められる各 種活動に取り組み、
122		ン	韓国語Ⅱ	1														20		その活動内容・時間
通			はじめての手話 [1																等により単位を認定 する。それぞれ6単
			はじめての手話Ⅱ		後			_		\perp			_							位まで修得すること
科		世	国際社会と文化 A		前															ができる。
		界へ	国際社会と文化B		後															
		0	スタディ・アプロードA		後											2				
H		ドア	スタディ・アプロード B		前															
			Global Project	1	-	1 119-07	_	3.6		╀	-		-	-						
	ĸ	の社	キャリアコミュニケーション	1		キャリアプラン		前												
	ア	ド会アへ	パーソナルファイナンス	1	後	企業研究		前前								2				
			Social Project	1	16. 69	インターンシップ研究 ダイバーシティ論	1			╀	-		-	-	_					
	1		哲学		前後	日本国憲法	2													
	ズ	215	倫理 メディア				2													
		学びへ	芸術		前後前後	八性教育	2	俊												
		ô			削·俊 前·後											2				
		の ド ア	教育		前後															
) "	心理 環境		前後															
			生命	1																
			2590	1	则"俊			_		_			_							

		会	LI A M INTON	-	100	LL A DEPOSIT OF	_	100								_	'			I.
		会学基礎	社会学概説 A	2		社会学概説 D	2								2	2				Ι.
	-	礎	社会学概説 B	-	-	社会学概説 E		_						_						
		社	○社会デザイン基礎 I			社会デザイン基礎Ⅲ			質的調查法		前									.
		社会デザ	○社会デザイン基礎Ⅱ			社会デザイン基礎IV		後			前									
	基		○データから見る社会	2		調査データの読み方	2			2	通				6	4				
	礎	イン	デジタルリテラシー論	2		調査データの扱い方	2	後								_	4			.
	科	基礎	マーケティング基礎	2	後												1			
	目		調査データの集め方	-	後												'			
			○ライフキャリア論	2	後	人間関係論	2	前												١.
		キャ	キャリアスキル入門I	2	前	生活と経済	2	後												
学		ij	キャリアスキル入門Ⅱ	2	後	応用キャリアスキルI	2	前							2	2				
		ア				応用キャリアスキルⅡ	2	後												
科						産業心理学	2	後												.
		SDGs	○ SDGs 概論	2	前															
車		S	現代社会特殊講義I	1	後										2					١.
-9*		理解	現代社会特殊講義Ⅱ	1	後								ĺ							
	Ì					○表現文化論	2	前	持続可能経営論	2	後									
攻		人間文化				メディア文化論	2	後	ジェンダー・セクシュアリティ・スタディーズ	2	前				2					
	現	化							映像表現論	2	前									١.
科	代					○ソーシャルビジネス論	2	後	音楽文化論	2	前	創造性とアート	2	前						
	社	地域繁栄				地域資源論	2	前	マネジメント論	2	後		ĺ							
Ħ	会	繁							観光学	2	後				2	8	6			
	理								住環境デザイン	2	後									١.
	解	地				○環境生態学	2	前	循環型社会論	2	前	防災論	2	前						
	791	地球環境				地域環境論	2	後	生物多様性	2	後		İ		2					
	İ	平和				○人権平和論	2	前	人権平和フィールドワーク	2	後	人種関係論	2	前						,
		平和共存				共生社会論	2	後				公共政策論	2	前	2					^
	İ	シパット				○地域デザイン論	2	前	視覚デザイン	2	前									
		シップ構築				非言語表現論	2	後	コンテンツ文化論	2	後				2					١
			○現代社会基礎ゼミナール	2	後	○基礎専門ゼミナールⅠ	2	前	○専門ゼミナール I	4	前	○卒業ゼミナール I	4	前					1	*
		ゼミナー	○社会デザイン入門ゼミナール I	2	前	○基礎専門ゼミナールⅡ	2	後	○専門ゼミナールⅡ	4	後	○卒業ゼミナールⅡ	4	後						
			○社会デザイン入門ゼミナールⅡ	2	後	○社会デザイン実践ゼミナールⅠ	2	前							30		i '			
		ル				○社会デザイン実践ゼミナールⅡ	2	後												
			1	_	_		_	_	1	_	_	L	_	_	-			\leftarrow	-	4

2 前

◎学科専攻科目

- る。 ※授業科目は、年度に よって開講年次やあ 期が変わることがあ るので、授業時間割 や掲示に注意するこ

筑紫女学園大学 筑紫女学園大学大学院

2024

社 ○社会学入門

2 前 社会学概説 C

○筑紫女学園大学教学推進会議内規

平成30年5月31日 規程第18号

(目的)

第1条 この内規は、筑紫女学園大学(以下「本学」という。)に教学推進会議を設置し、学校法人筑紫女学園管理運営規則(平成8年則第2号)第13条及び筑紫女学園大学の組織に関する規程(平成30年程第21号)第2条に定める統合教育センター及び情報化・ICT活用推進センターの任務及び業務について審議し、統合教育センター及び情報化・ICT活用推進センターの円滑な執行を図ることを目的とする。

(構成員)

- 第2条 本会議は、次の各号に掲げる委員をもって構成する。
 - (1) 教学部長
 - (2) 学長が前号以外の者に委嘱した統合教育センター長及び情報化・ICT活用推進センター長
 - (3) 学長が大学文学部各学科、人間科学部人間科学科各専攻及び現代社会学部現代社会学科から1名宛委嘱した教育職員
 - (4) 教学支援部長
- 2 前項の規定にかかわらず、学長が必要と認めたときは、副学長を委員とすることができる。
- 3 本会議は、教学部長が招集し、議長となる。ただし、前項に該当する場合で、学長が必要と認めたときは、副学長を議長とすることができる。
- 4 本会議は、委員の3分の2以上の出席をもって成立する。
- 5 議長が必要と認めたときは、委員以外の教職員の出席を求め、意見を聴くことができる。
- 6 第1項第2号の委員の任期は1年とし、再任を妨げない。 (審議事項)
- 第3条 教学推進会議は、主として次の各号に掲げる事項について審議し、計画立案する。
 - (1) 統合教育センターに関する事項
 - (2) 情報化・ICT活用推進センターに関する事項

(提案・報告)

第4条 教学部長は、本会議の審議事項のうち、特に重要と認めた事項については、あらかじめ大学執行部会議に付議するものとする。

2 学部委員等は、本会議の審議事項のうち、筑紫女学園大学教授会規程(昭和63年程第 3号)第6条に定める審議事項に該当するものについては、教授会又は研究科委員会に、 それぞれ提案又は報告を行うものとする。

(ワーキンググループ)

第5条 教学部長は、所管業務の円滑な執行を図るため、本会議のもとにワーキンググループを置くことができる。

(事務)

第6条 本会議に関する事務は、教学支援部が担当する。

(改廃)

第7条 この規程の改廃は、本学教授会の議を経て学長が行う。

附則

この規程は、平成30年6月1日から施行する。

附則

この規程は、令和元年5月15日から施行する。

附則

この内規は、令和3(2021)年5月31日から施行する。

○筑紫女学園大学の教学組織に関する規程

平成30年5月31日 規程第21号

第1章 総則

(趣旨)

第1条 この規程は、学校法人筑紫女学園管理運営規則(平成8年則第2号)第13条及び 筑紫女学園大学学則(昭和62年則第4号)第50条に基づき、大学に設置する部、センタ 一等(以下「教学組織」という。)に関し、業務の効率的運営と責任の明確化を図るため に必要な事項を定めるものとする。

第2章 教学組織の任務及び業務

(教務部)

第2条 教務部の任務及び業務は別に定める。

(統合教育センター)

- 第3条 統合教育センターは、本学における継続的な教育改善を推進し、大学教育の充実と 発展に寄与するため、全学的な教育支援施策の企画及び開発を任務とし、次の各号に掲げ る業務を行う。
 - (1) 教育課程に関する事項
 - (2) 教育内容及び教育方法の改善に関する事項
 - (3) 教育効果の評価に関する事項
 - (4) 教育的IR推進に関する事項
 - (5) 学習支援に関する事項
 - (6) 入学前教育に関する事項
 - (7) 教育施設に関する事項
 - (8) その他統合教育センターの運営に関する事項

(情報化・ICT活用推進センター)

- 第4条 情報化・ICT活用推進センターは、情報(視聴覚を含む。)機器・設備を管理し、本学教職員及び学生の教育・研究、事務及び修学に資することを任務とし、次の各号に掲げる業務を行う。
 - (1) 情報・視聴覚関連施設に関する事項
 - (2) 情報・視聴覚関連教室の運営に関する事項
 - (3) ICTを活用した教育の推進に関する事項

- (4) その他情報化・ICT活用推進センターの運営に関する事項 (学生部)
- 第5条 学生部の任務及び業務は別に定める。

(学生サポートセンター)

- 第6条 学生サポートセンターは、学生・教職員のメンタルヘルスを含む心身の健康の維持 と増進を図り、心理相談・修学相談を通して学生生活の充実を促進することを任務とし、 次の各号に掲げる業務を行う。
 - (1) 体調不良及び傷病に対する応急措置に関する事項
 - (2) 健康管理、保健指導・健康支援、精神保健についての相談・指導及び支援に関する 事項
 - (3) 定期健康検診の実施に関する事項
 - (4) 健康増進に対する指導・啓発に関する事項
 - (5) 学生の心理相談・修学相談に関する事項
 - (6) 障がいのある学生への修学支援(合理的配慮)に関する事項
 - (7) 障がいのある学生へのサポートスタッフの育成に関する事項
 - (8) その他学生サポートセンターの運営に関する事項

(臨床心理センター)

- 第7条 臨床心理センターは、地域住民に対する臨床心理相談及び臨床心理に関する援助活動並びに教育・研究を行うことを任務とし、次の各号に掲げる業務を行う。
 - (1) 臨床心理相談及び援助活動に関する事項
 - (2) 心理実習及び臨床心理実習(心理実践実習)の実施に関する事項
 - (3) 臨床心理学に関する教育・研究・指導助言等の活動に関する事項
 - (4) その他臨床心理センターの運営に関する事項

(入試・広報部)

第8条 入試・広報部の任務及び業務は別に定める。

(高大連携センター)

- 第9条 高大連携センターは、本学と高等学校さらには地域の教育機関との連携を確立し、 一体となって教育改革を推進するための施策立案と連携業務遂行を任務とし、次の各号に 掲げる業務を行う。
 - (1) 高大接続推進にかかる企画・立案・運営に関する事項
 - (2) 「筑紫女学園大学・筑紫女学園高等学校 高大接続推進協議会」に関する事項

- (3) 地域の高等学校等との教育連携に関する事項
- (4) その他高大連携センターの運営に関する事項(進路支援センター)
- 第10条 進路支援センターは、学生のキャリア形成を支援するとともに、学生が主体的に 進路を選択し就職を決定できるよう多様なプログラムを通して支援を行うことを任務と し、次の各号に掲げる業務を行う。
 - (1) キャリア形成支援に関する事項
 - (2) 企業の調査及び開拓に関する事項
 - (3) 進路相談に関する事項
 - (4) インターンシップに関する事項
 - (5) 推薦のための学内選考に関する事項
 - (6) 進路支援のための講座・検定等に関する事項
 - (7) その他進路支援センターの運営に関する事項

(実習支援センター)

- 第11条 実習支援センターは、国家資格・免許状の取得に関わる教育課程における学外実 習を支援することを通じて学生の資質向上に資することを任務とし、次の各号に掲げる業 務を行う
 - (1) 免許及び資格課程の実習に関するオリエンテーションに関する事項
 - (2) 教職課程教育実習(免許状授与申請含む)に関する事項
 - (3) 保育実習(資格申請を含む)に関する事項
 - (4) 社会福祉士及び精神保健福祉士並びにスクール・ソーシャル・ワーク実習に関する 事項
 - (5) 心理実習・臨床心理実習(心理実践実習)に関する事項
 - (6) 博物館学芸員実習に関する事項
 - (7) 教育職員免許講習に関する事項
 - (8) その他実習支援センターの運営に関する事項

(ボランティア活動支援センター)

- 第12条 ボランティア活動支援センターは、学生の学外ボランティア体験を支援すること を通じて学生の資質向上に資することを任務とし、次の各号に掲げる業務を行う。
 - (1) ボランティア情報の収集及び提供に関する事項
 - (2) ボランティア活動への派遣に関する事項

- (3) その他、ボランティア活動支援に関する事項 (社会連携センター)
- 第13条 社会連携センターは、本学の教育・研究成果による「知」を活用し、地域の人々に対し生涯にわたる多様な学びの機会を提供するとともに、地方自治体・企業・NPO等と連携することにより地域社会の課題解決と発展に寄与することを任務とし、次の各号を業務に掲げる業務を行う。
 - (1) 生涯学習に関する事項
 - (2) 公開講座・講演会に関する事項
 - (3) 域学・産学官連携に関する事項
 - (4) その他社会連携センターの運営に関する事項

(女性活躍支援センター)

- 第14条 女性活躍支援センターは、社会における女性のエンパワーメントを推進し、女性 の人々の生涯教育を支援することを任務とし、次の各号に掲げる業務を行う。
 - (1) 女性のライフステージ教育プログラムに関する事項
 - (2) 男女共同参画社会の推進に関する事項
 - (3) ダイバーシティ教育・研究に関する事項
 - (4) その他女性活躍支援センターに関する事項

(国際交流センター)

- 第15条 国際交流センターは、本学の教育と研究を世界に開かれたものとし、内外の学生 及び教職員が世界的視野の下で共に研鑽を積むことにより、グローバル化が進行する現代 社会で活躍できる人材の養成を図ることを任務とし、次の各号に掲げる業務を行う。
 - (1) 国際化推進政策の立案に関する事項
 - (2) 海外大学との連携に関する事項
 - (3) 海外留学・研修に関する事項
 - (4) 外国人留学生の支援に関する事項
 - (5) 語学学習支援に関する事項
 - (6) 海外研究者との交流に関する事項
 - (7) 国際交流活動支援に関する事項
 - (8) その他国際交流センターの運営に関する事項

(附属図書館)

第16条 附属図書館は、図書館所蔵の図書・資料を管理し、学生及び教職員の教育・研究

に資することを任務とし、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 図書・学術雑誌等の収集・整理に関する事項
- (2) 図書館システムに関する事項
- (3) 他大学図書館等との相互協力に関する事項
- (4) 紀要の刊行に関する事項
- (5) 図書館利用に関する事項
- (6) その他附属図書館の運営に関する事項

(人間文化研究所)

- 第17条 人間文化研究所は、仏教を中心とした学術研究を行うとともに、広く人間文化に 関する総合的研究を推進し、国内外の大学及び諸研究機関との交流を図ることを任務とし、 次の各号に掲げる業務を行う。
 - (1) 仏教及び人間文化関連領域の指定研究、共同研究、個人研究・調査の促進に関する 事項
 - (2) 年報及び叢書等の刊行に関する事項
 - (3) 研究会、公開講座、講習会等の開催に関する事項
 - (4) 国内外の大学及び諸研究機関との交流に関する事項
 - (5) 図書・資料の収集・整備に関する事項
 - (6) その他人間文化研究所の運営に関する事項

(宗教教育センター)

- 第18条 宗教教育センターは、建学の精神の高揚に資することを任務とし、次の各号を業務とする。
 - (1) 宗教教育センターの運営に関する事項
 - (2) 年間の宗教行事の企画・運営に関する事項
 - (3) 宗教教育に関する企画・研究に関する事項
 - (4) 学生の宗教活動についての指導に関する事項
 - (5) 研究会、見学会、講座・講演会、文書活動の企画・運営に関する事項
 - (6) 宗教教育に関する資料の調査・収集・整備に関する事項
 - (7) その他宗教教育の推進に関する事項 第3章 その他

(専門委員)

第19条 第2章に規定する組織の長は、学長の承認を得たうえで、当該組織に専門委員を

置くことができる。

(改廃)

第20条 この規程の改廃は、大学執行部会議の議を経て学長が行う。

附則

この規程は、平成30年6月1日から施行する。

大学等名	筑紫女学園大学	申請レベル	リテラシーレベル
教育プログラム名	データサイエンス教育プログラム	申請年度	令和 7年度

1. プログラムの目的

世界ではデジタル化とグローバル化が不可逆的に進み、社会・産業の転換が大きく進んでいるため、「数理・データサイエンス・AI」は今後のデジタル社会の基礎知識(いわゆる「読み・書き・そろばん」的な素養)として捉えられ、全ての学生が身に付けておくべき素養とされている。そうした背景から、筑紫女学園大学では、学生の数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、適切な理解と活用能力を育成する。

2. 身に付けられる能力(プログラムの学修目標)

- ❖今後のデジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常の生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的な知識・能力を身に付けること。
- ◆学修した数理・データサイエンス・AIに関する知識・技能をベースに、これらを扱う際には、人間中心の適切な判断ができ、不安なく自らの意志でAI等の 恩恵を享受し、これらを説明・活用できる能力を身に付けること。

78

3. プログラムの構成科目と修了要件

- ❖令和6(2024)年度以降入学の全学生
- ◆以下の2科目(全学共通科目)をすべて修得することにより、本プログラムの修了とする。

科目名称	単位数	開講時間	卒業要件	プログラム終了要件
情報処理基礎演習	1	l 年次前期	必修	必修
データサイエンス基礎演習	I	I 年次後期	必修	必修

4. 実施·運営体制

「教学推進会議」(プログラム管理・運営)のもとに「データサイエンス部会」を設置し、全学的な教育支援施策を司る「統合教育センター」及び「情報化・ICT活用推進センター」と共同して、プログラムの編成・改善や自己点検・評価、情報公表などの運営体制を整える。

「データサイエンス部会」は、教学部長、統合教育センター長、情報化・ICT活用推進センター長及び専門委員、教学支援部長、教学推進班長を構成員とする。 また、プログラム全体の運営責任者は、教学推進会議の長である教学部長とし、 事務局を教学支援部教学推進班が行う。

